Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通電話番号）

050-555-90002

受付時間：平日9:00～20:00
土・日・祝日10:00～17:00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理サービスご相談窓口

付属の「修理サービスご相談窓口」（別紙）でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノン株式会社	http://canon.jp/bebit/
キヤノン販売株式会社 デジタルカメラ製品情報	http://canon.jp/dc/
キヤノン販売株式会社 サポート	http://canon.jp/support/
CANON iMAGE GATEWAY	http://www.imagegateway.net/

CDI-J174-010 XXXXXXXX　　PRINTED IN JAPAN

Canon キヤノンデジタルカメラ PowerShot S2 IS カメラユーザーガイド

Canon

キヤノンデジタルカメラ

PowerShot S2 IS カメラユーザーガイド

CANON iMAGE GATEWAY　DiG!C II

BUBBLE JET DIRECT
Exif Print

- 最初に「ご使用の前に」（p. 6）をお読みください。
- ソフトウェアクイックガイドやダイレクトプリントユーザーガイドもお読みください。

このカメラでできること

撮影

- シャッターを押すだけで簡単に撮影できるオート撮影、多彩な機能を活用できるシャッタースピード優先AE、絞り優先AEなど、思いどおりの撮影が楽しめます。
- 光学ズームで12倍、デジタルズームと合わせて約48倍まで拡大して撮影できます。
- 高精細でなめらかな動画をステレオ音声付きで撮影できます。
- 手ぶれ補正機能により、よりブレの少ない画像を撮影できます。
- SIセンサーを搭載しており、撮影した画像の縦横位置も自動的に判別します。
- 画像の色味を変化させて撮影できます(マイカラー)。
- 動画撮影中に静止画を撮影できます。
- どのモードでも、動画ボタンを押すとすぐに動画撮影できます。
- 別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、クローズアップレンズを装着して撮影できます。

再生

- 動画をステレオ音声付きで再生できます。
- スライドショー機能で画像を自動的に再生できます。

編集

- 撮影した画像に音声メモを記録できます。
- 記録した動画を編集できます。
- 音声だけの録音・再生ができます(サウンドレコーダー)。

印刷（プリント）

- カメラダイレクト対応プリンター(別売)に接続し、パソコンを使わずにイージーダイレクトボタンを押すだけで、高画質なプリントを得られます。
- 撮影した画像は、従来の写真と同様に、プリント取り扱い店でデジタルプリントできます。また、インターネットを通じてオンラインプリントもできます。
- このカメラは、標準規格「PictBridge(ピクトブリッジ)」に対応していますので、キヤノン製以外のプリンター(PictBridge対応)にも接続でき、カメラからの簡単な操作でプリントできます。

撮影した画像の活用

- パソコンに画像を取り込んで編集できます。
- カメラをパソコンに接続し、イージーダイレクトボタンを押すだけで、簡単に画像を取り込めます。
- 撮影した画像や音声は、カメラの起動画面や起動音、シャッター音として設定できます。
- 撮影した画像をインターネットを通じてアップロードし、オリジナルアルバムを作成できます。また、そのアルバムを友人やご家族にも公開できます。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします。

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合(例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など)に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

Ni-MH ニッケル水素電池のリサイクルにご協力ください。

ガイドの使いかた

本　書　カメラに付属

システムマップ
- 付属品・別売品の紹介
- 周辺機器との接続

クイックスタートガイド
- カメラの基本的な操作方法とボタンの説明
- ソフトウェアの基本的な操作方法

カメラユーザーガイド
- カメラの準備～撮影～再生～消去の操作方法
- パソコンとの接続方法

修理サービスご相談窓口
- 修理に関するお問い合わせ先

ダイレクトプリントユーザーガイド
- プリンターとの接続方法とプリント方法

ソフトウェア クイックガイド
- 付属の CD-ROM に収められている各ソフトウェアの主な機能
- パソコンに必要なシステム構成
- ソフトウェアのインストール方法
- カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む方法

＊「Windows® XP、Mac OS Xをお使いの方へ」もお読みください。

ZoomBrowser EX ソフトウェアガイド（Windows）/ ImageBrowser ソフトウェアガイド(Macintosh)
- ZoomBrowser EX (Windows)、ImageBrowser (Macintosh) の詳細な使いかた

表記について

見出しの下にあるマークは、この操作が行えるモードを表しています。
下の例では、撮影モードが次のときに操作できます。

・AUTO（オート）・M（マニュアル）・SCN（スペシャルシーン）
・（動画）・（風景）・（マイカラー）

モードダイヤル
AUTO M SCN

: カメラを正しく動作させるための注意や制限を記載しています。

: カメラを使用するにあたって知っておくと便利になること、参考になることを記載しています。

このガイドでは、SD(Secure Digital＝著作権保護システム)メモリーカードをメモリーカードと表記しています。

目次

☆ではこのカメラの機能や操作をまとめて説明しています。

ご使用の前に

第 1 章　準備

第 2 章　基本の撮影

第 3 章　基本の再生

第 4 章　消去

第 5 章　便利な撮影機能

第 6 章　いろいろな撮影

第 7 章　いろいろな再生

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、このカメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みがされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがこのカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様相談センター」にご相談ください。

本体温度について

このカメラは、電源を入れたあと長時間お使いになっていると、本体温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがありますので、ご注意ください。

液晶モニターとビューファインダーについて

液晶モニターとビューファインダーは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01％以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。

安全上のご注意

- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。
- 本文中の「本機器」とは、カメラ、電池、別売のバッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプター、およびハイパワーフラッシュを指します。

警告

この警告事項に反した取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

注意

この注意事項に反した取り扱いをすると、人が傷害または物的損害を負う可能性があることを示します。

△記号は、取り扱いを誤ると、事故につながる可能性があることを示します。記号の中の図は、注意事項を意味します。

⃠記号は、禁止の行為を示します。記号の中の図は禁止事項を意味します。（左図：分解禁止）

●記号は、必ず守っていただきたいことがらを示します。記号の中の図は指示内容を意味します。

メモリーカードについて

メモリーカードをお子様の手の届かないところに保管してください。誤って飲み込むと危険です。万一、飲み込んだ場合には、ただちに医師にご相談ください。

警　告

- **カメラで太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。**視力障害の原因となります。
- **ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。**目の近くでストロボを発光すると、視力障害を起こす可能性があります。特に、乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。
- **本機器はお子様の手の届かないところに保管してください。**お子様が誤って本機器や電池を破損すると危険です。また、誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
- **カメラに使用しているコイン電池は、特に幼児の手の届かないところに置いてください。**万一、幼児が電池を飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。

- **本機器を分解、改造しないでください。**高電圧がかかり、感電する原因となることがあります。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。

- **落下などにより、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。**さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり、感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **煙が出ている、焦げ臭いなどの異常状態のまま使用しないでください。**火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源を切り、その後必ず電池を外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **本機器を落としたり外装を破損した場合は、まず、カメラの電源を切り、電池を外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。**そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **本機器内部に水などを入れたり、濡らしたりしないでください。**本機器には防水処理が施されていません。水滴がかかったり、潮風にさらされたときには、吸水性のある柔らかい布で拭いてください。万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず、カメラの電源を切り、電池を外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **お手入れのときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。**火災の原因となります。

- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを乾いた布で拭き取ってください。**ほこり、湿気、油煙の多いところで電源プラグを長時間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因となります。

- **電源コードに重いものを載せたり、傷つけたり、破損したり、加工しないでください。**漏電して、火災、感電の原因となります。

- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。**感電の原因となります。また、電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、芯線の露出、断線などでコードが傷つき、火災、感電の原因となります。

- **本機器専用以外の電源は使用しないでください。**発熱、変形して、火災、感電の原因となります。

- **電池を火に近づけたり、火の中に投げ込まないでください。**また、水や海水に濡らしたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。

- **電池を分解、改造したり、加熱しないでください。**破裂により、けがの原因となります。万一、電池の電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口に付いたときは、ただちに洗い流してください。

- **電池を落とすなどして強い衝撃を与えないでください。**外装が破損した場合、電池の液漏れにより、けがの原因となります。

- **キーホルダーなどの金属類で電池の「+」と「−」の端子を接触(ショート)させないでください。**発熱し、やけど、けがの原因となります。

- **電池を廃却する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。**廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。

- **指定された電池を使用してください。**それ以外のものを使用すると、電池の破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。

- **キヤノン製の単3形ニッケル水素電池およびバッテリーチャージャーをお使いください。**それ以外のものを使用すると、発熱、変形して、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。

- **バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターは、充電終了後および使用しないときは、カメラと電源コンセントの両方から外してください。**長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。

- **別売のコンパクトパワーアダプターの出力端子は、このカメラ専用です。**他の製品にはお使いにならないでください。火災の原因となることがあります。

- **別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、クローズアップレンズ、コンバージョンレンズアダプターを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。**緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。

磁気について

カメラのスピーカー(p. 14)に磁気の影響を受けやすいもの(クレジットカードなど)を近付けないでください。それらのデータが壊れて、使用できなくなることがあります。

注　意

- **直射日光のあたる場所、および車のトランクやダッシュボードなどの高温になるところで使用・保管しないでください。**電池の液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となることがあります。また、機器外装が熱により変形することがあります。また、バッテリーチャージャーで充電する際は、風通しのよいところでお使いください。

- **湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。**火災、感電、故障の原因となることがあります。

- **カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えないように注意してください。**けがや本体の故障の原因となることがあります。

- **ストロボの発光部分を手や布などで覆ったまま発光しないでください。**煙や音が出て、故障の原因になることがあります。また、連続発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因となることがあります。

- **ストロボ発光部分にゴミやほこりなど異物がついたまま発光しないでください。**発熱によりストロボ発光部分の損傷の原因となることがあります。

- **バッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプターは、必ず指定された電源コンセントを使用し、定格を超えて使用しないでください。**地域によって、電源プラグ部分が異なります。本書の「付録」をご覧ください。

- **バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターの電源コードや電源プラグが傷んでいたり、コンセントの差し込みが不十分なまま使用しないでください。**

- **電源プラグや充電端子部に金属製のピンやゴミを付着させないでください。**

故障を防ぐためのご注意

■電磁波による誤作動、破壊をふせぐために

カメラをモーターや強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像や音声のデータが破壊されることがあります。

■結露をふせぐために

カメラを寒い場所から急に暑い場所に移すと、カメラの外部や内部に結露(水滴)が発生することがあります。

カメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて密封しておき、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。

■結露が発生したときは

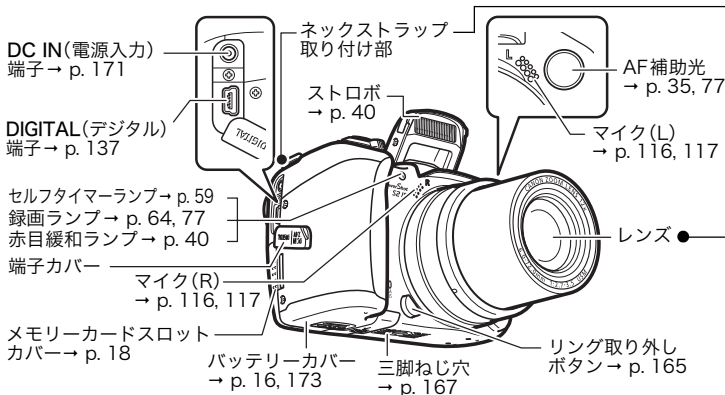
故障の原因になりますので、カメラをお使いにならないでください。

メモリーカード、電池、コンパクトパワーアダプターをカメラから取り外し、水滴が自然に消えるまで常温で放置してから、カメラをお使いください。

■カメラを使用しないときは

電池をカメラやバッテリーチャージャーから取り出して、安全な場所に保存しておいてください。

電池を入れたままにしておくと、電池が消耗します。また、液漏れが原因で、故障することがあります(コイン型リチウム電池は取り外さないでください)。

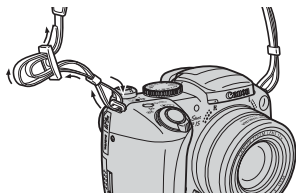
各部の名称

カメラにパソコン、またはプリンターを接続するときに使用するケーブルは、以下のとおりです。

パソコン(p. 136)
- インターフェースケーブル IFC-400PCU(カメラに付属)

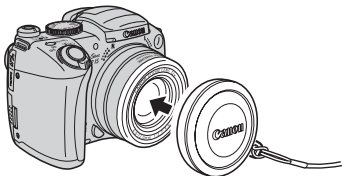
カメラダイレクト対応プリンター(別売)
- コンパクトフォトプリンター(SELPHY CP シリーズ)、カードフォトプリンター:インターフェースケーブル IFC-400PCU(カメラに付属)または、ダイレクトインターフェースケーブル DIF-100(カメラダイレクト対応プリンターに付属)
- PIXUSシリーズ/SELPHY DSシリーズプリンター
  - PictBridge対応プリンター:インターフェースケーブルIFC-400PCU(カメラに付属)
  - Bubble Jetダイレクト対応プリンター:プリンターの説明書でご確認ください。
- キヤノン製以外のPictBridge対応プリンター:インターフェースケーブル IFC-400PCU(カメラに付属)

このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンターについては、システムマップまたは、ダイレクトプリントユーザーガイドでご確認ください。

ネックストラップを取り付ける

図のようにストラップを取り付けます。
ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。
もう一方のストラップ取り付け部にも、同じようにストラップを取り付けます。

カメラをネックストラップで下げているときは、振り回すような持ち方を避け、他のものに引っ掛からないように注意してください。

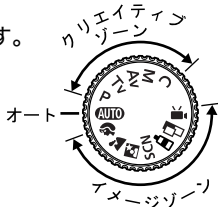
レンズキャップを取り付ける

レンズキャップをレンズにかぶせるようにして取り付けます。
カメラの使用後は、レンズキャップを取り付けて保管してください。

- レンズキャップのひもは、ストラップに取り付けます。
- カメラの電源を入れる前に、レンズキャップを外してください。

ズームレバー
撮影時：[♠](望遠)/[♠♠♠](広角)→ p. 33, 61
再生時：Q(拡大)/▦(縮小)→ p. 43
(セルフタイマー)/
(連写)ボタン→ p. 59, 62
MF(マニュアルフォーカス)
ボタン→ p. 112
A/V OUT(映像/音声
出力)端子→ p. 144
シャッターボタン
→ p. 33
電源/モードランプ
OFFボタン
モードレバー→ p. 23
(ストロボ)/
(マイク)ボタン
→ p. 40, 116
十字ボタン
▲(上)▼(下)
◀(左)▶(右)
SET(セット)/
(AF枠選択)ボタン
→ p. 88
ランプ
MENU(メニュー)
ボタン→ p. 74
ムービー(動画)
ボタン→ p. 65
FUNC.(ファンクション)/
(1画像消去)
ボタン→ p. 73, 47
(ショートカット)/
(イージーダイレクト)
ボタン→ p. 82, 141
液晶モニター
→ p. 28
視度調整
ダイヤル
→ p. 28
スピーカー
DISP.(ディスプレイ)ボタン
→ p. 27
端子カバー
(測光) /JUMP(ジャンプ)
ボタン→ p. 89, 45
(マクロ)ボタン→ p. 56
ビューファインダー接眼部 → p. 27, 28
MF

モードダイヤル

撮影モードを選択するときに使います。

- AUTO：オート → p. 33
  カメラまかせの撮影ができます。
- イメージゾーン → p. 49
  被写体に合う条件をカメラにまかせて設定し、撮影できます。
  ：ポートレート
  ：風景
  ：夜景
  SCN：スペシャルシーン
  ：マイカラー
  ：スティッチアシスト
  → p. 52
  ：動画 → p. 65
- クリエイティブゾーン → p. 83
  露出や絞りを変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます。
  P ：プログラムAE
  Tv ：シャッタースピード優先AE
  Av ：絞り優先AE
  M ：マニュアル露出
  C ：カスタム

以下の動作中にランプが点灯、点滅します。

- 電源/モードランプ
  橙点灯： 撮影モード　緑点灯：再生/プリンター接続モード
  黄点灯：パソコン接続モード
- ランプ
  赤点滅：メモリーカードへ記録中 / メモリーカードからの読み出し中 / メモリーカードからの消去中 /データ転送中（パソコン接続時）

（イージーダイレクト）ボタンを押すと、以下の操作が簡単にできます。

- プリント：ダイレクトプリントユーザーガイド（別冊）
- パソコンへの画像の取り込み：p. 135、ソフトウェアクイックガイド（別冊）

プリンター、パソコン接続時は、ランプが点灯、点滅します。

- 青点灯：プリンター準備完了/画像転送準備完了
- 青点滅：プリント中/画像転送中

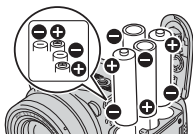
電池を入れる

電池をカメラに入れ、撮影の準備をします。
電池は付属の単3形アルカリ電池、または別売の単3形ニッケル水素電池を4本入れてください。

- ◆ 長時間お使いになるときは、コンパクトパワーアダプターCA-PS700(別売)をお使いになることをおすすめします(p. 171)。
- ◆ 別売のバッテリー/チャージャーキットをお使いになると、単3形ニッケル水素電池を使用することもできます(p. 168)。
- ◆ 電池性能について(p. 180)
- ◆ お使いになれるバッテリー/チャージャーキット、単3形ニッケル水素電池については、システムマップ(別紙)をご覧ください。

1 電源が切れていることを確認し(p. 23)、バッテリーカバー開放スイッチを矢印の方向にスライドさせ、バッテリーカバーを開く

2 電池を図のように入れる

バッテリー室内部に貼られているシールで、電極の正しい向きを確認できます。

3 バッテリーカバーを閉じる

電池の取り扱いについて

- このカメラで使用できる電池は、単3形アルカリ電池、単3形ニッケル水素電池(別売)です。単3形ニッケル水素電池は、キヤノン製のものをお使いください。単3形ニッケル水素電池の取り扱いについては、「電源キット(別売)を使う(p. 168)」をご覧ください。
- **アルカリ電池は、銘柄により容量や特性に差があるため、付属のアルカリ電池に比べ、電池の使用可能時間が短い場合があります。**
- アルカリ電池は、低温下では使用可能時間が短くなります。またアルカリ電池の特性上、ニッケル水素電池に比べ、電池の寿命が短い場合があります。低温下や長時間カメラをお使いになるときは、キヤノン

次ページに続く >>

の単3形ニッケル水素電池(4本セット)をお使いになることをおすすめします。

- 単3形ニカド電池はお使いになれますが、性能のばらつきがあるためおすすめできません。
- **新しい電池と、他のカメラなどで使用した古い電池を混ぜて使わないでください。古い電池が液漏れを起こすことがあります。**
- **電極((+)と(−))を逆にして入れないでください。**
- **メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使わないでください。**
- 電池を入れる前に、電極を乾いた布などでよく拭いてからお使いください。電極が皮脂などで汚れていると、記録画像数が著しく少なくなったり、電池の使用可能時間が短くなります。
- 低温下では電池の性能が低下したり、バッテリーアイコンが早めに表示されることがあります(特にアルカリ電池の場合)。このようなときは、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、電池の性能が回復することがあります。この際、ポケットにキーホルダーなどの金属類は入れないでください。電池がショートする恐れがあります。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出して保管してください。電池を入れたままにしておくと、液漏れが原因でカメラが故障することがあります。

⚠警告

外装シールが(一部または全体に関りなく)剥がれている電池や破損している電池を使用すると、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因となり危険ですので、絶対にお使いにならないでください。市販されているままの状態でも、電池によっては、外装シールが十分でないものがあります。このような電池も絶対にお使いにならないでください。

以下のような形状の電池はご使用になれません。

外装シールが一部またはすべて剥がしてある電池(裸電池)

プラス電極が平らである電池

マイナス電極の一部が膨らんでいるが、十分に外装シールで被われていない電池

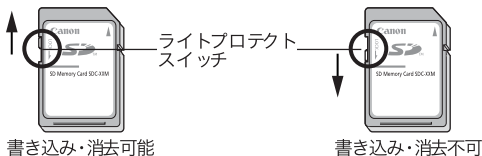
電池残量について

電池残量が低下すると、液晶モニター(またはビューファインダー)に以下のようなアイコンやメッセージが表示されます。

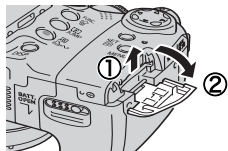
	電池残量が低下しています。長時間お使いになる場合は、新しい電池を使用するか、早めに充電してください。
バッテリーを交換してください	電池残量が少なく、動作不能です。直ちに電池を交換してください。

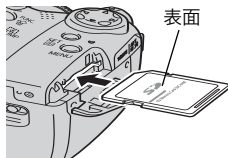
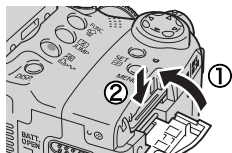
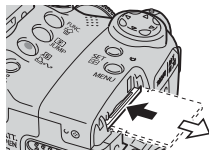
メモリーカードを入れる

ライトプロテクト(書き込み禁止)スイッチについて

メモリーカードには、ライトプロテクト(書き込み禁止)スイッチが付いています。このスイッチを下にスライドさせると、カードへのデータ書き込みが禁止され、カード内の画像などを保護できます。書き込み、消去や初期化をする際には、スイッチを上にスライドさせてください。

メモリーカードは、必ず正しい向きでカメラに入れてください。誤って逆に入れた場合、本体の故障の原因となることがあります。

カメラの電源を切って、次のように入れます。

1 メモリーカードスロットカバーを矢印の方向にスライドさせて開く

2 メモリーカードを差し込む

- 図に合わせて、「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
- メモリーカード裏面の端子部を手や金属で触らないでください。

3 メモリーカードスロットカバーを閉じる

メモリーカードを取り出すには
「カチッ」と音がするまで、指でメモリーカードを奥に押し込んで、放します。

- ランプが赤色に点滅しているときは、メモリーカードへの記録中/読み出し中/消去中、またはデータ転送中ですので、絶対に次のことは行わないでください。画像データや音声データが壊れることがあります。
  - カメラ本体に振動や、衝撃を与える
  - カメラの電源を切ったり、メモリーカードスロットカバーを開ける

次ページに続く>>

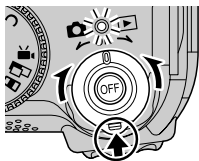
- 他社のカメラや、パソコン、アプリケーションソフトウェアで初期化または編集したメモリーカードを使用すると、メモリーカードへの書き込み速度が遅くなったり、誤動作する恐れがありますのでご注意ください。
- このカメラで初期化したメモリーカードをお使いになることをおすすめします(p. 20)。付属のメモリーカードは、そのままお使いになれます。

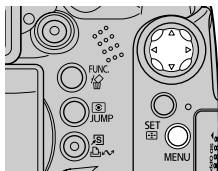
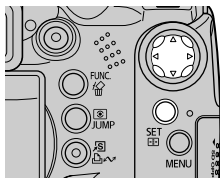
メモリーカードの種類と記録可能画像数の目安(p. 181)

メモリーカードを初期化する

新しいメモリーカードをお使いになるときや、メモリーカード内の画像だけでなく他のデータもすべて削除したいときは、メモリーカードを初期化します。

初期化すると、メモリーカードに記録された画像(プロテクト画像も含む)だけでなく、すべてのデータが消去されますので、ご注意ください。

1 電源を入れる(p. 23)

2 MENUボタンを押し、十字ボタンの▶で[(設定)]メニューを選ぶ

[(設定)]メニューが表示されます。

3 十字ボタンの▲▼で[カードの初期化]を選び、SETボタンを押す

4 十字ボタンの◀▶で[OK]を選び、SETボタンを押す

ランプが赤点滅し、メモリーカードの初期化がはじまります。ランプが消えるまでお待ちください。

- 通常フォーマットが始まります。
- 物理フォーマットをする場合は、▲▼で[物理フォーマット]を選び、◀▶ボタンを押してチェックをつけます。
- 初期化を取り消すときは[キャンセル]を選び、**SET/** ボタンを押します。
- 物理フォーマットの場合、初期化中に**SET**/ ボタンを押すと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、そのメモリーカードは問題なくお使いいただけます。

音声だけのデータ(p. 117)がある場合に表示されます。

- 初期化するとき、お使いのメモリーカードのラベルに記載された容量よりも少ない数値が表示されますが、メモリーカード、またはカメラの故障ではありません。

5 MENUボタンを押す

のアイコンが表示されているときは、音声だけのデータが残っています。十分に確認してから初期化してください。

- 物理フォーマットについて
  メモリーカードへの記録/ 読み出し速度が低下したと思われる場合や完全にデータを消去したい場合などは、[物理フォーマット]を選択することをおすすめします。なお、メモリーカードによっては2～3分かかる場合があります。
- カメラが正しく動作しないときは、メモリーカードが壊れている可能性があります。初期化すると正しく動作する場合もあります。
- キヤノン製以外のメモリーカードで正しく動作しないときは、初期化すると正しくお使いになれることがあります。
- 他のカメラやパソコン、周辺機器で初期化したメモリーカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。その際は、このカメラで初期化してください。正しく初期化されないときは、電源を切ってから、メモリーカードを入れ直し、再度初期化してください。

メモリーカードの取り扱いについて

- メモリーカードは精密電子機器です。曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。
- メモリーカードを分解したり、改造しないでください。
- メモリーカード裏の端子部にゴミや水、異物などを付着させたり、手や金属で触れたりしないでください。
- 貼られているラベルをはがしたり、別のラベルやシールを貼ったりしないでください。
- メモリーカードに文字を書くときは、油性ペンをお使いください。鉛筆やボールペンを使用するとカード本体に損傷を与えたり、記録されているデータが壊れたりすることがあります。
- 電気ノイズ、静電気、カメラやメモリーカードの故障などによりカード内のデータが壊れたり、消失することがありますので、大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

次ページに続く >>

◆ 温度差の大きな場所へ急に移動すると、メモリーカードに水滴が付き(結露)、故障の原因になることがあります。結露を防ぐには、移動の前にビニール袋に入れて密閉しておき、周囲の温度に十分慣らしてから出してお使いください。
◆ 結露したときは、水滴が自然に消えるまで常温で放置してください。
◆ メモリーカードは、下記の場所で使用したり、保管しないでください。
- ほこりや砂ぼこりの立つ場所
- 高温多湿の場所

マルチメディアカードについて
このカメラはキヤノン製の SD カードでの動作を保証しています。マルチメディアカードで動作する場合もありますが、弊社では動作の保証はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

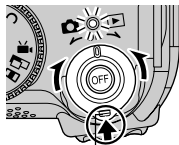
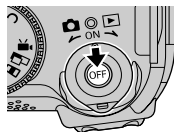
電源を入れる/切る

カメラに電源が入っていると、電源/モードランプが点灯します。このランプでカメラの状態がわかります。

橙点灯:撮影モード
緑点灯:再生/プリンター接続モード*
黄点灯:パソコン接続モード*
消　灯:電源切

* プリンター接続モードについてはダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。パソコン接続モードについてはソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

1 ストッパーを押しながら、モードレバーを (撮影)または (再生)側に回し電源を入れる

電源が入ると、電源/モードランプが橙または緑色に点灯します。

2 電源を切るときはOFFボタンを押す

- 電源を入れると起動音が鳴り、液晶モニターに起動画面が表示されます(p. 128)。ただし、ビューファインダー表示で起動したとき、起動画面は表示されず、起動音も鳴りません。
- 電源を入れたときに、液晶モニターまたはビューファインダーに「ライトプロテクト」と表示された場合は、メモリーカードが書き込み不可になっています(p. 18)。
- 撮影モードの場合にビューファインダー表示に切り換えられていたとき(p. 27)や、カメラの端子をテレビ等に接続しているときは起動画面が表示されません。
- 撮影時はレンズに触らないように注意してください。またレンズを指で押さえるなど無理な力をかけないように注意してください。動作不良や故障の原因となります。カメラが正しく動作しないときは、一度電源を切ってからもう一度入れ直してください。

起動画面と起動音を消して電源を入れるには

- 🎙ボタンを押しながら電源を入れます。または液晶モニターを閉じたまま電源を入れます。

撮影/再生を切り換える

撮影モードと再生モードを素早く切り換えることができます。撮影直後に画像を確認したり、消去したりすることができ、またすぐに撮影に戻ることができるので便利です。

撮影モード➡再生モード

ストッパーを押しながらモードレバーを▶(再生)側に回します(p. 43)。

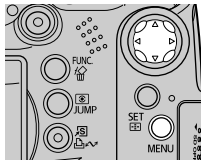
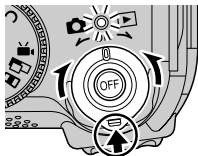
- 再生モードになりますが、レンズは収納されません(もう一度モードレバーを▶(再生)側に回すとレンズが収納されます)。

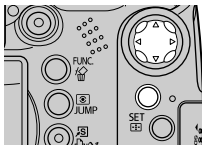
再生モード➡撮影モード
レンズキャップを外し、シャッターボタンを半押しします。
または、ストッパーを押しながらモードレバーを（撮影）側に回します(p. 33)。

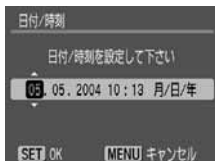
日付/時刻を設定する

はじめてカメラの電源を入れたとき、またはコイン型リチウム電池の残量が低下したときは、[日付/時刻]設定画面が表示されます。

- 日付/時刻を設定しても、画像自体に日付/時刻を入れることはできません。日付を入れてプリントしたいときは、ダイレクトプリントユーザーガイドまたはソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
- コイン型リチウム電池の交換(p. 173)

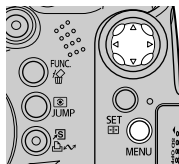
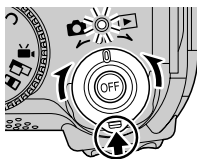
1 電源を入れ(p. 23)、MENUボタンを押し、十字ボタンの▶で[（設定）]メニューを選ぶ

[（設定）]メニューが表示されます。

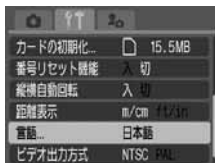
2 十字ボタンの▲▼で[日付/時刻]を選び、SETボタンを押す

3 日付、時刻、および日付スタイルを設定する

- 十字ボタンの◀▶で設定したい項目を選び、▲▼で設定内容を変更します。
- 2037年まで設定できます。

4 正しい日時が表示されていることを確認してSETボタンを押し、MENUボタンを押す

言語を設定する

1 電源を入れ(p. 23)、MENUボタンを押し、十字ボタンの▶で、[(設定)]メニューを選ぶ

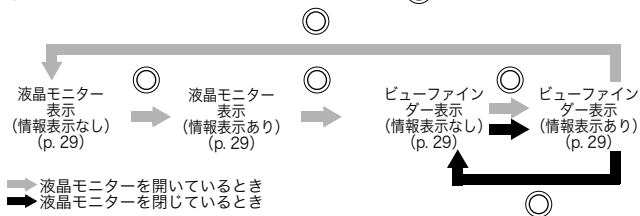
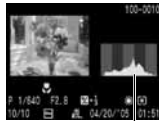
- [(設定)]メニューが表示されます。

- カメラが再生モードのときは、**SET**ボタンを押しながら**JUMP**ボタンを押しても言語を変更することができます。動画再生時や検索ジャンプモード(p. 46)、別売のプリンター接続時は、この操作はできません。

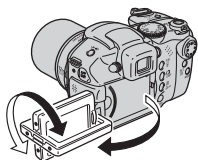
2 十字ボタンの▲▼で[言語]を選び、SETボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼◀▶で言語を選び、SETボタンを押す

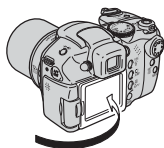
English	Norsk	Polski
Deutsch	Svenska	Čeština
Français	Español	Magyar
Nederlands	简体中文	Türkçe
Dansk	Русский	繁體中文
Suomi	Português	한국어
Italiano	Ελληνικά	日本語

4 MENUボタンを押す

ビューファインダーと液晶モニターの使いかた

DISP.ボタンを押すと、表示の切り換えができます。また、液晶モニターを閉じるとビューファインダー表示に切り換わります。

液晶モニターの使いかた

液晶モニターは次の範囲で動かせます。

左右に180度開閉できます。
レンズ側に180度、手前側に90度回転します。

- 180度回転させたときは、レンズ側から液晶モニターを見て撮影できるように、画像が鏡像で表示されます。(p. 77)

液晶モニターを内側/外側にし、カチッと音がするまで閉じます。

- きちんと押し込まれていないときは、画像が鏡像で表示されます。

液晶モニターの保護のため、カメラを使わないときは必ず内側にして閉じてください。

ビューファインダーの使いかた

屋外など周囲が明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、ビューファインダーを使って撮影してください。ビューファインダーから情報表示(p. 27)がはっきり見えるように、視度調整ダイヤル(p. 14)で調整してください。

ナイトビュー機能について

暗い場所での撮影時は、被写体の明るさに合わせて、カメラが自動的に液晶モニター、またはビューファインダーに表示される画像の明るさを調整するため＊、暗い場所でも画角合わせがしやすくなります。

＊液晶モニターまたはビューファインダーに表示される被写体の動きがややぎこちなくなったり、ノイズが表示されることがありますが、記録される画像に影響はありません。なお、モニター上に表示される明るさと、実際に撮影される画像の明るさは異なります(この機能は解除できません)。

表示内容

撮影情報（撮影モードのとき）

＊1　光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率です。「12x」は光学ズームの最も望遠側(テレ端)の倍率で、白色で表示されます。[デジタルズーム]を[入]に設定していないときは表示されません。デジタルズーム時は青色で表示されます。

＊2　AF枠がオート選択または、鏡像(左右反転)表示のときは、表示されません。

＊3　通常は表示されません。動画記録時に内部メモリー(バッファー)が半分以下になると表示されます。(p. 66)
バッファー警告がいっぱいまで点灯すると、撮影や記録を途中で中止する場合があります。

＊4　動画撮影時のみ表示されます。

＊5　通常は表示されません。シャッターを半押ししたときに手ぶれしやすくなると表示されます。

＊6　静止画記録可能画素数、または動画記録可能時間(待機時)は、どちらかの記録可能容量がいっぱいになったときに、0を赤字で表示します。両方の記録可能容量がいっぱいになったときは、「カードがいっぱいです」のメッセージが表示されます。

再生情報・簡易表示(再生モードのとき)

再生情報・詳細表示（再生モードのとき）

画像によっては、以下の情報を表示することがあります。

	WAVE ファイル以外の音声ファイル、または、認識できないファイルがついています。
	DCF（p. 178）の規格と異なる構造を持つ JPEG タイプです。
	RAW タイプです。
	認識できないタイプです。

- 情報表示なしでも、撮影の設定を変更した場合などは、情報が約6秒間表示されます（そのときのカメラの設定内容によって、表示されないこともあります）。
- 光量不足のときは、撮影準備完了時に液晶モニター（またはビューファインダー）に（手ぶれ警告）や（ストロボ警告）が赤く表示されます。以下のいずれかの方法で撮影してください。
  - ストロボを上げてオートまたは常時発光にする
  - 手ぶれ補正機能（p. 35）をオンにする
  - 三脚などでカメラを固定する

次ページに続く >>

- 撮影した画像が液晶モニターまたはビューファインダーに表示されているとき、画像の明るさを判断するためのグラフ（ヒストグラム（p. 32））やその他の情報が表示され、画像の明るさを確認できます。必要であれば露出を補正（p. 90）するなどして、撮り直してください。なお、ヒストグラムが表示されないときは、**DISP.**ボタンを押してください。
- このカメラで撮影した画像を他のカメラで再生する場合、または他のカメラで撮影した画像をこのカメラで再生する場合、情報を正しく表示できないことがあります。

ヒストグラム

ヒストグラムは、撮影した画像の明るさを判断するためのグラフです。グラフが左に寄るほど暗い画像になり、右に寄るほど明るい画像になります。
暗いほうに偏っているときは、露出をプラス側に補正し、明るいときは、マイナス側に補正して撮影します（p. 90）。

暗い画像

普通の明るさの画像

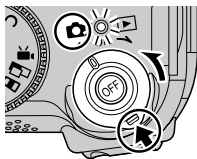
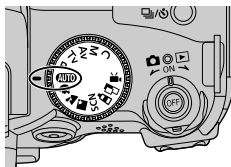
明るい画像

高輝度警告について

以下のとき、撮影画像に露出オーバー部分があると、その個所が点滅表示されます。

- 撮影直後に、液晶モニター（情報表示あり）またはビューファインダーで画像を確認したとき
- 再生モードで詳細表示にしたとき

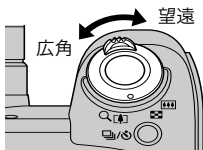
AUTO 撮影する（オート）

1 モードレバーを 📷（撮影）側に回す

2 モードダイヤルを AUTO に合わせる

3 液晶モニターを使うときは、液晶モニターを開く（p. 28）

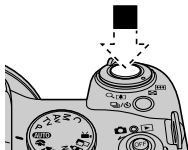
4 カメラを写したいもの（被写体）に向ける

5 液晶モニター（またはビューファインダー）を見ながらズームを調節して構図を決める

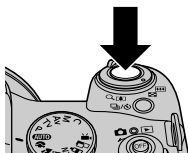
望遠
広角

- ズームレバーを [♠] 側に回すと、被写体を大きく写します（望遠）。
  [♠♠♠] 側に回すと、被写体を小さく写します（広角）。ズームレバーの回しかたにより、倍率の変わる速さが切り換わります。左右いっぱいまで回すと高速で、途中まで回すとゆっくり変わります。
- 35mmフィルム換算で、36～432mmの範囲で画角を調節できます。
- デジタルズームと光学ズームを合わせて、最大約48倍に拡大して撮影できます（p. 61）。
  撮影モードによっては、デジタルズームが使えないことがあります（p. 192）。
  デジタルズームは、拡大するほど画像が粗くなります。

6 シャッターボタンを浅く押して(半押し)ピントを合わせる

撮影準備が完了すると「ピピッ」と電子音が鳴り、AF枠が緑で表示されます。

- ピントが合いにくいときは「ピッ」と電子音が鳴り、AF枠が黄色になります。
- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まり、液晶モニター(またはビューファインダー)に表示されます。また、フォーカスなども自動設定します。

7 シャッターボタンを深く押して(全押し)撮影する

撮影が終了するとシャッター音が鳴ります。

シャッター音が鳴るまでカメラを動かさないでください。撮影した画像が約2秒表示されます。

- このモードで変更できる設定(p. 192)
- 液晶モニターおよびビューファインダーの視野率*は、100%です。
  *実際に撮影される範囲に対して、液晶モニター（またはビューファインダー）で確認できる範囲の比率です。
- 撮影した画像はいったん内部メモリーに保存され、順次メモリーカードに書き込まれていきます。内部メモリーに空きがあるときは、撮影後すぐに次の撮影ができます。
- メモリーカード記録中はランプが赤色に点滅します。
- 電子音、シャッター音の[入/切]は[設定]メニューで設定できます(p. 79)。
- ストロボ充電中は撮影できません(シャッターボタンを半押ししたときに ϟ マークが白で点滅していると、ストロボ充電中です。点滅が点灯に変わったら撮影できます)。
- 撮影後、液晶モニター(またはビューファインダー)に撮影画像が表示される時間を変更したり、表示されないように設定できます(p. 37)。

AF補助光について

- 暗い場所などでシャッターボタンを半押ししたとき、ピントを合わせやすくするために、AF補助光が光ることがあります。
- AF補助光を切ることもできます(p. 77)。
  例えば、暗い場所で動物を撮るときなど、AF補助光で動物を驚かせて逃がすことなく撮影できます。
  ただし、以下のことに注意してください。
  - AF補助光を切ると、暗い場所などでピントが合いにくくなることがある
  - AF補助光を切っても、[赤目緩和機能]が[入]のときは、赤目緩和ランプが光ることがある

手ぶれ補正機能

手ぶれ補正機能を使うと、遠くの被写体を大きくして撮影したいときや、薄暗い場所で撮影するときでも手ぶれを抑えた画像を撮影できます。初期状態では手ぶれ補正機能は「入」になっています。

1 [(撮影)]メニューから[手ぶれ補正機能]を選び、◀▶を押す

- メニュー選択と設定のしかた(p. 74)
- [切]、[入]、[撮影時]、[流し撮り]が選べます。

入	常に手ぶれ補正されます。
撮影時	シャッターボタンを全押ししたときに手ぶれ補正されます。
流し撮り	カメラが上下方向にぶれたときにだけ、手ぶれ補正されます。

情報表示ありのときは、液晶モニター(またはビューファインダー)に、以下のアイコンが表示されます。

[入]	[撮影時]	[流し撮り]		
			レンズコンバーターなし	ー
			別売のテレコンバーター装着時	p. 166
			別売のワイドコンバーター装着時	p. 166

2 MENUボタンを押す

- 夜景撮影など、シャッタースピードを遅くして撮影するときは手ぶれが補正しきれないことがあります。三脚をお使いください。
- 手ぶれが大きすぎると補正しきれないことがあります。
- [流し撮り]は、横方向に動いているものをカメラで追いかけて撮影するときにおすすめします。
- [流し撮り]は、カメラを横に構えてお使いください(カメラを縦に構えると、補正を行いません)。

ワンポイントアドバイス(p. 185)

撮影直後に画像を確認する

モードダイヤル

AUTO SCN P Tv Av M

撮影直後に約2秒間、撮影した画像が表示されます(表示時間は変更できます。(p. 37))。また、次の方法で設定時間にかかわらず画像を表示し続けます。

- シャッターボタンを全押しし続ける
- 撮影した画像が表示されている間にSETボタンを押す

シャッターボタンを半押しすると解除され、撮影できます。

撮影した画像が表示されている間に、次のようなことができます(スティッチアシストはできません)。

- ◆ 画像の詳細情報を表示する(p. 27)
- ◆ 画像を拡大表示する(p. 43)
- ◆ 画像を消去する(p. 47, 48)
- ◆ 音声メモを付ける(p. 116)

撮影した画像の確認時間を変更する

1 [(撮影)]メニューから[撮影の確認]を選び、◀▶を押して確認時間を選ぶ

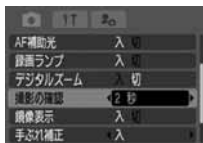
● メニュー選択と設定のしかた(p. 74)

切:画像は表示されません。

2秒〜10秒:シャッターボタンを放しても設定した時間、画像が表示されます。

ホールド:次にシャッターボタンを半押しするまで表示します。

2 MENUボタンを押す

画像の表示中でもシャッターボタンを押すと撮影できます。

記録画素数と圧縮率を変更する

モードダイヤル

AUTO SCN P Tv Av M

目的に応じて、記録画素数、圧縮率（静止画）、記録画素数/フレームレート（動画、p. 67）を変更できます。

静止画のとき

記録画素数			撮影の目安
画面表示	画素数		
L（ラージ）	2592 × 1944	大	● A4 サイズ以上をプリント
M1（ミドル 1）	2048 × 1536	↑	● A4 サイズまでをプリント
M2（ミドル 2）	1600 × 1200	↓	● L 判 / はがきサイズをプリント
S（スモール）	640 × 480	小	● 電子メールで画像を送信 ● より多くの画像を撮影する

圧縮率			撮影の目安
S	スーパーファイン	きれい	より良い画質で撮影する
	ファイン	↕	通常の撮影をする
	ノーマル	普通	より多くの画像を撮影する

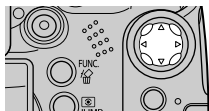
動画のとき

記録画素数	フレームレート	画質	なめらかさ	撮影時間	撮影の目安
640 × 480	30 フレーム / 秒	きれい	なめらか	短い	より良い画質で撮影する
640 × 480	15 フレーム / 秒	きれい	普通	↑	通常の撮影で画質優先
320 × 240	30 フレーム / 秒	普通	なめらか	↓	通常の撮影でなめらかさ優先
320 × 240	15 フレーム / 秒	普通	普通	長い	より長く撮影する

1 FUNC. ボタンを押す

2 静止画のときは、十字ボタンの▲▼で *(2592×1944)を選ぶ

動画のときは、 *(640×480 30fps)を選びます。

＊現在の設定が表示されます。

3 十字ボタンの◀▶で設定したい記録画素数を選び、SETボタンを押す

動画のときは、記録画素数/フレームレートを選びます。

記録可能画像数
（記録画素数、圧縮率を選択したときのみ表示）
動画の場合は撮影できる秒数を表示

4 静止画のときは、続けて十字ボタンの◀▶で設定したい圧縮率を選び、SETボタンを押す

- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示されます。
- 1画像の容量（目安）について（p. 182）
- メモリーカードの種類別、記録可能画像数について（p. 181）

5 FUNC.ボタンを押した後、撮影する

動画の記録画素数/フレームレートを変更する（p. 67）

内蔵ストロボを使って撮る

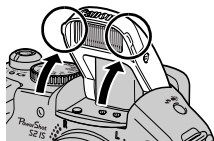
撮影状況に合わせて、ストロボを使って撮影できます。

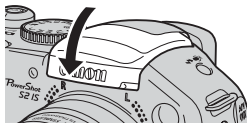
モードダイヤル

AUTO SCN( ) P Tv Av M

ストロボが上がっている		常にストロボを発光します。
		自動でストロボを発光します。
ストロボが下がっている		ストロボは発光しません。

1 ストロボを指で持ち上げ、撮影する

ボタンを押すと、と の切り換えができます(切り換えできないモードもあります)。

液晶モニター(またはビューファインダー)内にが赤色で点滅したときは、露出が足りないという警告です。このときは、ストロボを上げて撮影してください。ただし、**Tv**、**Av**、**M** では警告がでません。

2 ストロボを使わないときは指で押し下げて収納する

赤目緩和機能を設定する

モードダイヤル

AUTO SCN P Tv Av M

暗いところでストロボを発光するとき、赤目緩和ランプを発光します。ストロボの光が目に反射して目が赤く光るのを防ぎます。

1 [(撮影)]メニューから[赤目緩和機能]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 十字ボタンの◀▶で[入]を選び、MENUボタンを押す

情報表示ありのときは、液晶モニター(またはビューファインダー)に が表示されます。

赤目緩和機能について
暗い所でストロボを発光すると、ストロボの光が反射して目が赤く写ることがあります。このようなときは、赤目緩和で撮影してください。その場合、写される人が赤目緩和ランプを見ていないと効果がありません。ランプを見るよう声をかけてください。また、「レンズを広角側にする」、「室内を明るくする」、「写したい人に近付く」とより効果があります。

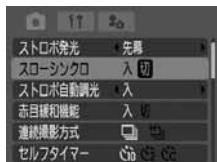
スローシンクロを設定する

モードダイヤル

P Av

遅いシャッタースピードで、ストロボを発光して撮影します。夕暮れや夜景をバックに人物を撮影するとき、また夜景や室内での撮影などで、背景だけが暗くなるのを軽減できます。

1 [(撮影)]メニューから[スローシンクロ]を選ぶ

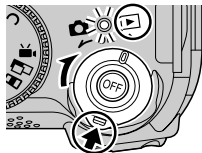
メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 十字ボタンの◀▶で[入]を選び、MENUボタンを押す

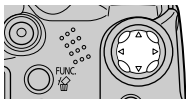
ISO感度を上げてストロボ撮影する場合、被写体との距離が近いほど、白飛びしやすくなります。

- 撮影メニューの[ストロボ自動調光]が[入]のときは、自動調光で発光します。自動調光では、ストロボ調光量が設定できます(p. 106)。**M** または[ストロボ自動調光]が[切]のときはマニュアル発光します。マニュアル発光では、ストロボ発光量を調整できます(p. 106)。
- [ストロボ自動調光]が[入]のとき、ストロボの発光はプリ発光(ストロボ撮影に必要な露出情報を得るための予備的な発光)とメイン発光(ストロボ撮影を行うための発光)の2回行われます。プリ発光で得た被写体の露出情報をもとにして、メイン発光に必要な発光量が決められ、最適な発光量でストロボ撮影が行われます。なお、FEロック撮影時(p. 105)は、プリ発光しません。
- ストロボ発光時に有効なシャッタースピードは、最高で1/500秒です。1/500秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、自動的に1/500秒に再設定され、撮影されます。
- ストロボ充電中は撮影できません。
- ストロボの充電には約10秒かかる場合があります。充電時間は使用状況や電池の容量などにより変わります。
- [スローシンクロ]を[入]にして撮影すると手ぶれしやすくなります。三脚をお使いになることをおすすめします。
- **P**、**Tv**、**Av**、**M** の場合、設定したストロボモードは、カメラの電源を切っても解除されません。

1画像ずつ見る(シングル再生)

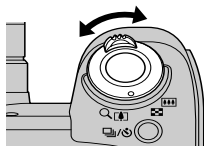
1 モードレバーを右に回して再生モードにする

最後に撮影した画像が液晶モニター(またはビューファインダー)に表示されます。

2 十字ボタンの◀▶で表示画像を切り換える

- ◀で前の画像、▶で次の画像が表示されます。ボタンを押し続けると早く進みます。ただし、表示される画像は粗くなります。
- DISP.ボタンを押すと、表示されている画像の情報が表示されます(p. 27)。
- 🗑ボタンを押すと、表示されている画像を簡単に消去できます(p. 47)。

他のカメラで撮影したり、パソコンまたは他のアプリケーションソフトウェアで編集した画像は、カメラで再生できないことがあります。

🔍拡大して見る

1 ズームレバーを🔍側に回す

▦ 側に回すと、拡大表示が解除されます。

約5倍に拡大

表示位置の目安

約10倍に拡大

表示位置の目安

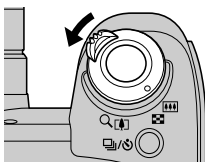
●十字ボタンの▲▼◀▶で表示位置を変更できます。
●MENUボタンを押すと、拡大表示が解除されます。
●動画、インデックス再生時は拡大表示できません。
●撮影直後に表示される画像も、拡大して見ることができます（p. 36）。

2 SETボタンを押す

●画像送りモードになり、◀▶で拡大したまま前または次の画像を表示できます。
●ズームレバーで倍率を変更できます。
●もう一度SETボタンを押すと、画像送りモードが解除され、表示位置の変更ができます。

9画像ずつまとめて見る（インデックス再生）

1 ズームレバーを側に回す

9画像ずつまとめて表示されます（インデックス再生）。

2 十字ボタンの◀▶▲▼で選択画像を切り換える

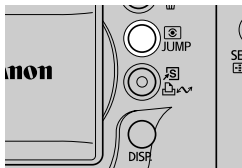
DISP.ボタンを押すと、選択されている画像の情報が表示されます（p. 27）。

3 ズームレバーを🔍側に回す

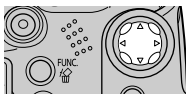
インデックス再生を終了し、シングル再生に戻ります。

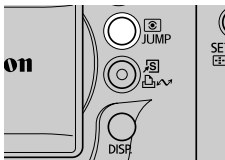
JUMP 9画像ずつ表示を切り換える

1 インデックス再生時(p. 44)に、JUMPボタンを押す

ジャンプバーが表示されます。

ジャンプバー

2 十字ボタンの◀▶で前または次の9画像に切り換える

SETボタンを押しながら◀▶ボタンを押すと、最初または最後の9画像が表示されます。

3 JUMPボタンを押す

ジャンプバーが消え、インデックス再生に戻ります。

JUMP目的の画像にジャンプする

メモリーカードにたくさんの画像を記録しているときは、次の4つの検索キーでジャンプしながら目的の画像を探し出すと便利です。

- 10枚ジャンプ　：画像を10枚ずつ飛ばして表示
- 100枚ジャンプ：画像を100枚ずつ飛ばして表示
- 日付ジャンプ　：各撮影日の先頭画像を表示
- 動画ジャンプ　：動画を表示(再生もできます)

1 シングル再生時(p. 43)に、JUMPボタンを押す

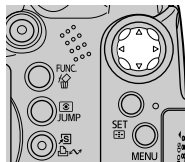
- 検索ジャンプモードになります。
- 検索キーによって、画面例は若干異なります。

現在表示中の画像位置

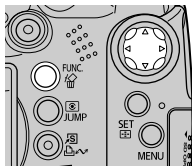
2 ▲▼で 、 、 、 のいずれかを選び、◀▶を押す

検索キーを変更する場合は、▲▼を押します。

シングル再生に戻るには

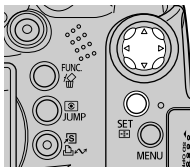
MENUボタンを押します。

1画像ずつ消去する

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

1 **再生モードで、十字ボタンの◀▶で消去したい画像を選び、ボタンを押す**

2 **十字ボタンの◀▶で[消去]を選び、SETボタンを押す**

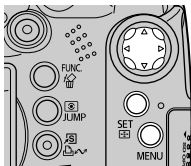
消去を取り消すときは[キャンセル]を選びます。

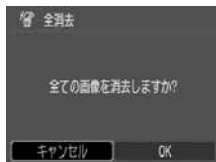
プロテクトされている画像は消去できません（p. 123）。

4
消去

全画像を消去する

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

1 [▶(再生)]メニューから[全消去]を選び、SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 十字ボタンの◀▶で[OK]を選び、SETボタンを押す

- 消去を取り消すときは[キャンセル]を選びます。

- 画像データだけでなく、メモリーカードの記録内容をすべて消去したいときは、メモリーカードを初期化してください(p. 20)。
- プロテクトされている画像は消去できません(p. 123)。

モードダイヤルを使う（イメージゾーン）

被写体に合う条件をモードダイヤルで簡単に設定できます。

風景

広がりのある風景を撮影できます。

ポートレート

背景をぼかして人物を浮き立たせます。

動画 → p. 64

動画を撮影できます。音声も同時に録音されます。

夜景

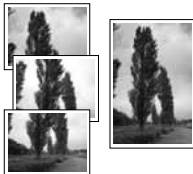
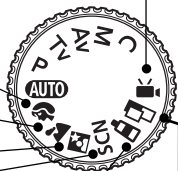
夕暮れや夜景をバックにした人物を撮影できます。人物にストロボ光をあて、遅いシャッタースピードで撮影するため、人物と背景のそれぞれをきれいに撮影できます。

SCNスペシャルシーン → p. 50

撮影モードを選択するだけで、撮影シーンに最適な撮影ができます。

マイカラー → p. 95

青、緑、赤の色のバランスを変えたり、色白や日焼けした肌にしたり、指定した色をまったく別の色にするなど、画像の色味を変化させて撮影できます。

スティッチアシスト → p. 52

撮影した画像を合成してパノラマ画像を作れます。

	◆ 各撮影モードで変更できる設定(p. 192) ◆ 選択している機能により、以下のような注意事項があります。
	被写体の上半身が液晶モニター(またはビューファインダー)いっぱいになるようにすると、背景を効果的にぼかすことができます。
	レンズを望遠側にすると背景をさらにぼかすことができます。
	シャッタースピードが遅くなりやすいので、液晶モニター(またはビューファインダー)に (手ぶれ警告)が表示されたら三脚を使用してください。
	シャッタースピードが遅くなります。ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
	日中に撮影すると、AUTO と同じ撮影効果になります。
	スローシンクロが自動的に[入]になります。

、SCN(スペシャルシーン)の と 、 では、ISO感度が上がることにより、画像にノイズが増えることがあります。

SCNスペシャルシーンモードで撮る

撮影モードを選択するだけで、撮影シーンに最適な撮影ができます。

	新緑 / 紅葉	新緑、紅葉、桜など、木々や葉を色鮮やかに撮影できます。
	スノー	雪景色をバックにしても人物が暗くならず、青みも残らないで撮影できます。
	ビーチ	太陽光の反射の強い海面や砂浜でも、人物などが暗くならずに撮影できます。
	打ち上げ花火	打上げ花火を最適な露出で鮮やかに撮影できます。
	パーティー/ 室内	蛍光灯や電球のもとで、手ぶれをおさえて被写体に忠実な色味で撮影できます。 ストロボ発光はなるべくしないように制御されます。

	ナイトスナップ	夕暮れや夜景をバックに人物をスナップ撮影したいときに、三脚がなくても手ぶれを少なく撮影できます。

新緑/紅葉

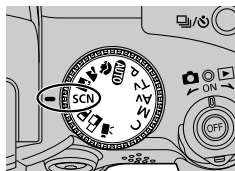
スノー

ビーチ

打ち上げ花火

パーティー/室内

ナイトスナップ

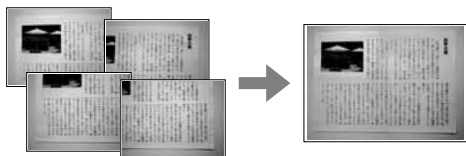
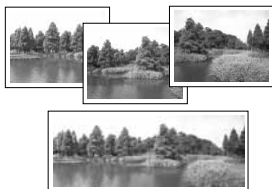
1 モードダイヤルをSCN（スペシャルシーン）にする

2 ◀▶で撮影モードを選ぶ

- 液晶モニターに選択した撮影モードのアイコンが表示されます。
- 撮影手順は、「撮影する（オート）（p. 33）」と同じです。
- このあと、すぐに撮影できます。また、すぐに撮影モードを変更できます。

⚠ 🎆 では、シャッタースピードが遅くなります。手ぶれを防ぐために必ず三脚をお使いください。

- このモードで変更できる設定(p. 192)
- 被写体によっては、思いどおりの画像にならない場合があります。

パノラマ画像を撮る(スティッチアシスト)

撮影した画像をパソコンで合成(スティッチ)し、パノラマ画像を作るときに使います。

パソコンでの画像合成には、付属のソフトウェア「PhotoStitch」をお使いください。

被写体のとらえかた

PhotoStitchは隣り合う画像の共通部分を見つけて合成処理を行います。共通部分にはできるだけ特徴のある被写体(目印となる被写体)を入れて撮影してください。

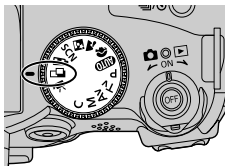
- 隣り合う画像の共通部分は、画像の幅の30〜50%になるように撮影します。また、上下のズレは画像の高さの10%以内で撮影します。
- 共通部分には、動いている被写体などが入らないように注意してください。
- 遠くの被写体と近くの被写体が混在する画像をスティッチしないでください。物体がゆがんだり、二重に写ったりすることがあります。
- 撮影時の明るさはできるだけ揃えてください。画像の明るさが違いすぎると、不自然な画像になってしまうことがあります。
- 遠くの風景を撮るときは、カメラを中心に回転して撮影します。
- 至近距離では、カメラをスライド(カメラを被写体に対して平行移動)させます。

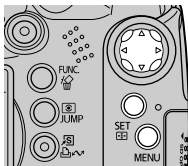
撮影する

スティッチアシストには、次の5つの撮影方向があります。

	左から右方向へ水平に撮影します。
	右から左方向へ水平に撮影します。
	下から上へ垂直に撮影します。
	上から下へ垂直に撮影します。
	左上を基点に時計回りに撮影します。

- このモードで変更できる設定(p. 192)
- デジタルズームは使用できません。
- マニュアルホワイトバランス(p. 92)の場合、⧉ では基準となる白データの取り込みができません。あらかじめ他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。
- 2画像目以降の撮影では最初の撮影の設定が保持されます。
- テレビと接続しても、画像をテレビに表示して撮影することはできません。

1 モードダイヤルを⧉にする

2 十字ボタンの◀▶で撮影方向を選び、SETボタンを押す

撮影方向が設定されます。
SET ボタンの代わりにシャッターボタンを押して撮影することもできます。

3 最初の画像を撮影する

1画像目の撮影で露出やホワイトバランスがロックされます。

4 最初の画像に重ね合わせ、次の画像を撮影する

- 画像が重なる部分は、多少ずれても合成時に修正されます。
- 十字ボタンの ▲▼◀▶ を押すと撮影済みの画像に戻り、撮影のやり直しができます。
- 水平/垂直方向の撮影では、最大26画像まで撮影できます。

のとき

のとき

5 同様の操作で3画像目以降を撮影する

6 最後の画像の撮影後、SETボタンを押す

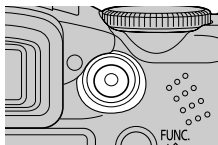
静止画撮影モードで動画を撮る

モードダイヤルを に合わせなくても、静止画撮影モードまたは画像再生中に動画ボタンを押すだけで、動画を撮影できます。

モードダイヤル
AUTO SCN P Tv Av M

1 動画ボタンを押す

「ピッ」という電子音が鳴り、撮影が開始されます。同時に音声も記録されます。

- ●もう一度動画ボタンを押すと「ピピッ」と電子音が鳴り、撮影が終了します。
- ●撮影中は録画ランプが赤点滅します。終了すると消灯します。撮影メニューの[録画ランプ]が[切]に設定されているときは点滅しません(p. 77)。

- ◆ 動画を撮る(p. 64)
- ◆ 記録画素数/フレームレートを変更する(p. 67)
- ◆ 液晶モニター(またはビューファインダー)には、動画に関するアイコンが表示されます。
- ◆ 測光方式は評価測光になります(p. 89)。
- ◆ AF枠は表示されません。
- ◆ 動画記録を停止すると、動画撮影前の静止画の設定に戻ります。ただし、AEロック(p. 103)と露出シフト(p. 65)の設定は解除されます。

至近距離で撮る(マクロ)

レンズ前面から被写体までの距離が10～50cm(ワイド端)のときに、この機能を使って撮影します。

モードダイヤル
AUTO SCN ( ) P Tv Av M

1 ボタンを押して、マクロモードを切り換える

- 液晶モニターに、が表示されます。
- ズーム操作により液晶モニター(またはビューファインダー)にズームバーが表示されると、マクロ撮影ができないズーム領域には黄色のバーが表示されます。
  黄色の領域まで望遠にすると、ズームバーが消えたあと、マクロアイコン()がグレーで表示されます。この場合もシャッターボタンは押せますが、通常モードと同じ撮影になります。

約2秒後
マクロモードを解除するには
ボタンを押して、の表示を消します。

マクロモードでは、ストロボをお使いになると、画像の明るさが適切にならないことがあります。

- 1枚の撮影が終わっても、マクロモードは継続されます。
- ワンポイントアドバイス(p. 185)

マクロモード時の撮影範囲について

(ズーム位置がテレ端とワイド端の間のとき、レンズ先端から被写体までの距離は、テレ端と同じになります。)

ズーム位置	レンズ先端から被写体までの距離	撮影範囲
ワイド端*	10cm	118 × 87mm

*最も広角側

さらに接近して撮る（スーパーマクロ撮影）

モードダイヤル

P Tv Av M

通常のマクロ撮影よりも被写体に近づき、さらに拡大して撮影できます。背景も、通常のマクロ撮影とは違った効果で撮影することができます。
レンズ先端から被写体までの距離が以下のときに撮影可能です。
　　0～10cm（ワイド端）

1 液晶モニターにが表示されるまでボタンを押し続ける

再度ボタンを押すと、スーパーマクロモードが解除できます（マクロモードも解除します）。

スーパーマクロ撮影時に、レンズを傷付けないようにご注意ください。

- デジタルズームは使用できません。
- スーパーマクロに設定すると、電子ズームは解除され、ズーム位置がワイド端に移動します。
- 被写体に最も近づいたときの撮影範囲は、以下のとおりです。

ズーム位置	撮影範囲
ワイド端	22 × 16mm

- カスタムモードでもスーパーマクロの選択と登録が可能です。

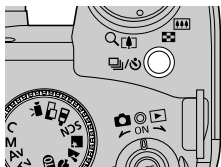
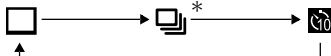
セルフタイマーで撮る

モードダイヤル

AUTO SCN P Tv Av M

1 ボタンを押す

現在の設定が表示されます。

- ボタンを押すごとに設定が切り換わります。

- (10秒)、(2秒)、(カスタムセルフ)は[(撮影)]メニューの[セルフタイマー]で切り換えます(p. 76)。
- はシャッターボタンを全押ししてから10秒後に、は2秒後に撮影されます。は設定した時間後に、設定した枚数が撮影されます。

＊モードによって表示されないときがあります。

2 、または が表示されていることを確認し、撮影する

- は、シャッターボタンを全押しするとセルフタイマー音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅します。撮影約2秒前になると点滅が速くなります。
- は、シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーランプが最初から速く点滅し、約2秒後に撮影されます。
- は、シャッターボタンを全押しすると、設定した時間によって、以下のようになります。

0秒：　すぐに撮影されます。

1秒：　電子音が鳴り、セルフタイマーランプが最初から速く点滅し、約1秒後に撮影されます。

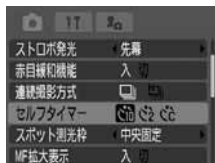
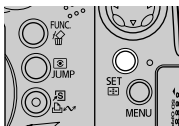
2～30秒：電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅します。撮影約 2 秒前になるとセルフタイマー音が鳴り、点滅が速くなります。

- セルフタイマー音は、[(マイカメラ)]メニューの[セルフタイマー音]で変更できます(p. 80)。

撮影の開始時間や撮影枚数を変更する（カスタム）

セルフタイマーの時間と撮影枚数を設定できます。

1 [（撮影）]メニューから[セルフタイマー]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 74)
- （マイカラー）、（スティッチアシスト）、（ムービー）のときは、設定できません。

2 を選び、SETボタンを押す

3 開始時間と撮影枚数を選ぶ

① 十字ボタンの◀▶で開始時間を選ぶ
開始時間:0～10、15、20、30秒
② 十字ボタンの▼で[枚数]を選び、◀▶で時間を選ぶ
撮影枚数:1～10枚

4 SETボタンを押す

撮影枚数を2枚以上に設定していても、メモリーカードがいっぱいになったときは、自動的に撮影が終了します。

撮影枚数を2枚以上に設定したときは、1画像目の撮影で露出やホワイトバランスがロックされ、高速連続撮影(p. 62)と同じスピードで撮影されます。また、撮影と撮影の間に「ピピピ」という電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅します。ただし、ストロボ充電や内部メモリーがいっぱいのときは、撮影間隔が長くなります。

デジタルズームで撮る

モードダイヤル

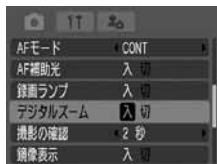
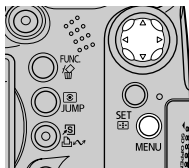
AUTO SCN P Tv Av M

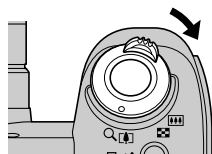
光学ズームと組み合わせて、次の倍率(目安)に拡大できます。
15倍、19倍、24倍、30倍、37倍、48倍

- **デジタルズームは、拡大するほど画像が粗くなります。**
- ズームレバーを側に回すと、倍率が下がります。

1 モードダイヤルをと以外の任意の位置にする

2 [(撮影)]メニューから[デジタルズーム]を選び、◀▶で[入]を選んでMENUボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

3 ズームレバーを[🌲]側に回して撮影する

光学ズームで最も望遠側まで拡大すると、いったん停止します(静止画撮影時)。もう一度ズームレバーを[🌲]側に回すと、デジタルズームが働き、さらに拡大できます。

連続して撮る

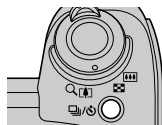
モードダイヤル

SCN P Tv Av M

シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影します。
シャッターボタンを放すと撮影が終了します。
また、一定の撮影間隔でメモリーカードの容量いっぱいになるまで撮影(スムーズ連写)できます(p. 181)。＊1＊2

(通常連続)	通常連続撮影 約 1.5 画像 / 秒＊2＊3	被写体を確認しながら連続撮影したいときにおすすめします。
(高速連続)	高速連続撮影 約 2.4 画像 / 秒＊2＊3	速いシャッター間隔で連続撮影したいときにおすすめします。

＊1　推奨メモリーカード(物理フォーマット(p. 20)を行った超高速の SDC-512MSH(別売))を使用し、記録画素数が L、圧縮率が S 以外の組み合わせでの撮影時。ただし、連続撮影が中断したときに、メモリーカードの容量が余る場合があります。
＊2　当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。
＊3　ラージ/ファイン時

1 (連続)/(セルフタイマー) ボタンを押して、(通常連続) または (高速連続) を表示する

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

3 シャッターボタンを全押しし続けて撮影する

シャッターボタンを放すと撮影が終了します。

連続撮影を解除するには

□/🕐ボタンを2回押して□を表示させます。

連続撮影速度が低下したと思われる場合などには、連続撮影の性能を十分に発揮するため、撮影した画像をパソコンに保存してから、カメラでメモリーカードを初期化(物理フォーマット)することをおすすめします。

- 内部メモリーがいっぱいになると、撮影間隔が長くなります。
- ストロボが発光する場合には、ストロボの充電時間が必要なため、撮影時間が長くなります。

連続撮影方法を設定する

通常連続撮影か高速連続撮影かを設定します。

1 [📷(撮影)]メニューから[連続撮影方式]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 74)
- 連続撮影できるモードで設定してください。

2 ◀▶で□または□を選び、MENUボタンを押す

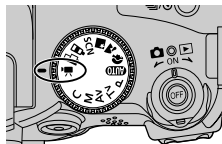
電源を切ると連続撮影は解除されますが、連続撮影方式の設定は保持されます。

5 便利な撮影機能

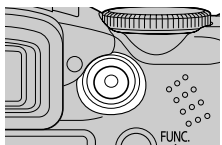
動画を撮る

1 モードダイヤルを にする

記録可能時間(秒数)が表示されます。

- 記録画素数/フレームレートを変更する(p. 67)
- 音声モードを変更する(p. 68)
- 静止画のモードでも動画撮影できます。(p. 55)

2 動画ボタンを押す

「ピッ」という電子音が鳴り、撮影が開始されます。同時に音声も記録されます。

- もう一度動画ボタンを押すと「ピピッ」と電子音が鳴り、撮影が終了します。
- 撮影中は録画ランプが赤点滅します。終了すると消灯します。撮影メニューの[録画ランプ]が[切]に設定されているときは点滅しません(p. 77)。
- 1回の撮影での最大記録可能容量は約1 GBです。メモリーカードの容量や種類によって変わります。
  メモリーカードの容量がいっぱいになる、または1GBになる直前に、液晶モニター(またはビューファインダー)右下の記録可能時間が赤表示になり、約10秒後、自動的に撮影が終了します。
- カメラの使用状況やご使用のメモリーカードの性能により、記録時間や記録容量が変わることがあります。記録時間や記録容量に余裕がある場合でも、カメラの内部メモリーが少なくなると、液晶モニター(またはビューファインダー)の右側にバッファー警告(p. 29)が表示され、まもなく撮影が自動的に終了します。
  バッファー警告が頻繁に表示されるときは、以下の方法をお試しください。
  - 撮影する前にメモリーカードを初期化する(p. 20)
  - 記録画素数を 、 (320 × 240)にするか、フレームレートを 、 (15fps)にする
  - 超高速のメモリーカード(SDC-512MSHなど)を使用する

● 以下のようなメモリーカードをお使いのときは、撮影中に正しい撮影時間が表示されなかったり、撮影が途中で中断することがあります。
  - 書き込み速度が遅い
  - 他のカメラやパソコンで初期化した
  - 撮影/消去を繰り返した
● 撮影時間が正しく表示されないときも、メモリーカードには実際に撮影した時間の動画が記録されています。メモリーカードをこのカメラで初期化すると、正しい時間が表示されます(書き込み速度の遅いメモリーカードを除く)。
● 動画を撮影するときは、このカメラで初期化したメモリーカードをお使いください(p. 20)。付属のメモリーカードはそのままお使いになれます。
● 撮影中はマイクに触れないようにしてください。
● 撮影後にランプが赤点滅し、データを記録します。このときは撮影できません。

◆ このモードで変更できる設定(p. 192)
◆ 記録画素数/フレームレートについて(p. 38)
◆ 動画撮影中でも、以下の操作ができます。
  - ズーム、デジタルズーム
  - AFロック：**MF**ボタンを押すと、その状態でAFロックします。液晶モニター(またはビューファインダー)にMFが表示されます。もう一度**MF**ボタンを押すと解除できます。
    ショートカットボタンに登録したときは、ボタンを押すと、AFをやり直してロックします(AFLが表示されます)。
  - マニュアルフォーカス(p. 112)
  - AEロック、露出シフト：ボタンを押すと、その状態でAEロックします。液晶モニター(またはビューファインダー)に✱と露出シフトバーが表示され、◀▶で露出を変更できます。もう一度ボタンを押すと解除できます。
    ショートカットボタンに登録したときは、ボタンを押すと、AEをやり直してロックします(AELが表示されます)。ただし、露出シフトバーが表示されているときは操作できません。
  - 手ぶれ補正(p. 35)＊

次ページに続く>>

＊ショートカットボタン登録（p. 82）したときだけ操作できます。
- 静止画撮影(p. 66)

- 音声はステレオで録音されます。
- 動画撮影時はシャッター音が鳴りません。
- 動画(タイプ:AVI、圧縮方法:Motion JPEG)をパソコンで再生するには、QuickTime 3.0以上が必要です(付属のDigital Camera Solution Diskには、Windows版のQuickTimeが収められています。なお、Mac OS X以降には標準装備されています)。

動画撮影中に静止画を撮る

動画の撮影中でも静止画を撮ることができます。

モードダイヤル

AUTO SCN P Tv Av M

1 動画の撮影中に、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

半押しで静止画用にフォーカスと露出などを合わせ直します。
この間、動画の撮影は継続されます。

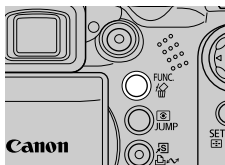
2 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 動画の画像が一瞬黒くなったのち、静止画像が記録され、動画に戻ります。ただし、音声はそのまま記録されます。
- シャッター音も一緒に記録されます(この機能は解除できません)。

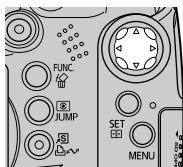
- ストロボは発光しません。
- 静止画の連写はできません。
- 静止画を撮影すると、内部メモリーの空きがなくなり、動画撮影を停止することがあります。
- 記録メディアの記録速度が遅かったり、内部メモリーの空きがないときは、以下のアイコンが表示され、静止画撮影できないことがあります。
  - ：点滅中は書き込み処理中です。点灯に変わったら撮影できます。
  - ：内部メモリーがいっぱいで撮影できません。

記録画素数/フレームレートを変更する

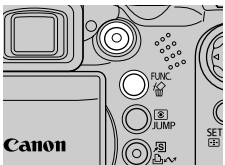
どの撮影モードでも、動画の記録画素数とフレームレートを設定できます。

1 FUNC.ボタンを押す

2 十字ボタンの▲▼で 640/30 *を選んだあと、◀▶で設定したい動画記録画素数/フレームレートを選ぶ

＊現在の設定が表示されます。

アイコン	記録画素数	フレームレート
640/30	640 × 480 画素	30 フレーム / 秒
640/15	640 × 480 画素	15 フレーム / 秒
320/30	320 × 240 画素	30 フレーム / 秒
320/15	320 × 240 画素	15 フレーム / 秒

撮影可能秒数

- 記録画素数と圧縮率を変更する(p. 38)
- 撮影できる秒数は記録画素数との組み合わせで変わります（p. 182)。
- 設定したあと動画ボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示されます。

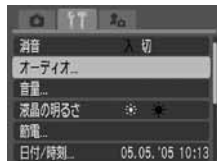
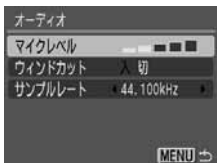
3 FUNC.ボタンを押したあと、動画ボタンを押して撮影する

音声モードを変更する

モードダイヤル

AUTO SCN P Tv Av M

マイクレベル(録音音量)、ウィンドカット、サンプルレートを変更できます。

1 [(設定)]メニューから[オーディオ]を選び、SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 ▲▼で[マイクレベル]を選び、◀▶で録音音量を設定する

3 ▲▼で[ウィンドカット]を選び、◀▶で[入]または[切]を選ぶ

- 風が強いときにおすすめします。
- 初期設定は[切]です。
- [入]に設定すると、液晶モニター(またはビューファインダー)にが表示されます。

4 ▲▼で[サンプルレート]を選び、◀▶で周波数を選ぶ

- サンプルレートは、44.100kHz、22.050kHz、11.025kHzから選べます。
- 11.025kHz、22.050kHz、44.100kHzの順に音質は良くなりますが、記録に必要なメモリー量は多くなります。

5 MENUボタンを2回押す

- ◆ 録音音量が大きくなりすぎても、自動的に音割れを防ぎます。
- ◆ ウィンドカットは、風が強いときに発生する雑音を低減できます。ただし、風がない場所で録音したときは、不自然な音になります。

動画を見る/編集する

撮影した動画を再生したり、前や後の不要な部分を削除できます。

- プロテクトされている動画は編集できません(p. 123)。
- 編集した動画を新規保存するときやファイルサイズによっては、時間がかかることがあります。途中で電池がなくなると、編集した動画が保存できないことがあります。動画を編集するときは別売の、フル充電の単3形ニッケル水素電池またはコンパクトパワーアダプター CA-PS700をお使いになることをおすすめします。

読み込み速度の遅いメモリーカードを使用していて、高い記録画素数と高いフレームレートで撮影された動画を再生しているときは、再生が一瞬中断することがあります。

1 再生モードで動画を選び、SETボタンを押す

動画にはこのマークが表示されます

2 十字ボタンの◀▶で次のいずれかの操作を選び、SETボタンを押す

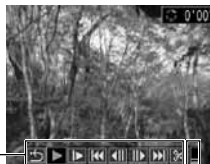
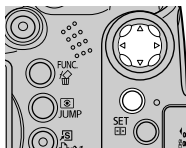
動画再生パネル
再生音量レベル

動画再生パネル

(終了):手順1の画面に戻る

(プリント):動画のプリントができます。詳細はダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。
(プリンター接続時にアイコンが表示されます)

(再生):動画と音声の再生開始

(スロー再生):スロー再生中に◀▶で再生速度を変更できます。◀で遅くなり、▶で速くなります。
1秒1コマ⇔約1/20倍速⇔約1/7倍速⇔約1/3倍速⇔等速と切り換わります(フレームレートにより若干の速度差があります)。

(先頭フレーム):最初のフレームを表示
(フレーム戻し):**SET**ボタンを押し続けると早戻し
(フレーム送り):**SET**ボタンを押し続けると早送り
(最終フレーム):最後のフレームを表示
(編集):動画の編集→手順3

再生中、スロー再生の操作

	再生	スロー再生
▲▼:再生中の音量を調節	○	×
SET:再生の一時停止 もう一度押すと再生開始	○	○

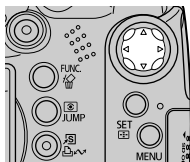
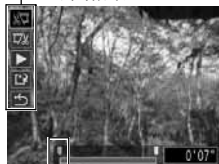
●○印の操作が行えます。
●スロー再生中は音声が出ません。
●[(設定)]メニューでも再生音量を調節できます(p. 79)。

再生が終了すると
最後のフレームが表示されたままで停止します。
SET: 動画再生パネルを表示
もう一度押すと最初のフレームから再生開始

- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては画像がフレーム(コマ)落ちしたり、音声が途切れることがあります。
- テレビで動画を再生するときの音量は、テレビで調節してください。
- 動画を編集しないときは、ここで操作終了です。

3 (編集)を選んだときは、十字ボタンの▲▼で動画編集パネルの (前部を削除)または (後部を削除)を選ぶ

動画編集パネル
0'07"
画像位置

(前部を削除):動画の前部を削除
(後部を削除):動画の後部を削除
(再生):仮編集した動画を再生
(保存):動画を保存
(終了):動画編集を中止し、手順2の画面に戻る
編集前の長さが1秒以上の動画を1秒単位で編集できます。

4 ◀▶で削除する位置の画像を表示させ、▲▼で ▶ (再生)を選び、SETボタンを押す

仮編集した動画が再生されます。

- SETボタンを押すと再生を停止します。
- 編集を続ける場合は手順3、4を繰り返します。

5 ▲▼で (保存)を選び、SETボタンを押す

(終了)を選ぶと編集内容を保存せずに手順2の画面に戻ります。

6 ◀▶で[上書き保存]または[新規保存]を選び、SETボタンを押す

上書き保存： 編集前の画像と同じファイル名で保存されます。編集前のデータは残りません。

新規保存： 編集した画像に新しいファイル名をつけて保存されます。編集前のデータは残ります。

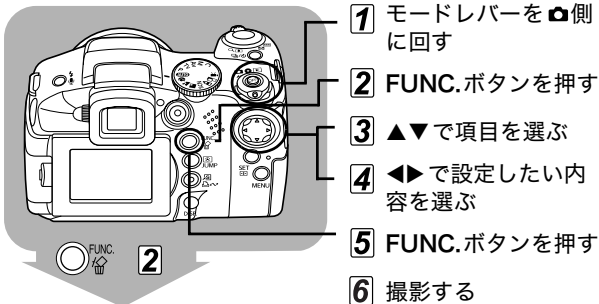
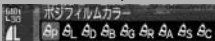
キャンセル： 保存せずに手順3の画面に戻ります。

メモリーカードの空き容量が足りないときは、上書き保存しかできません。このとき、動画編集バーのカウンターに▲が表示されます。

- ビデオ出力方式をPAL方式に設定して、640×480、320×240画素(30フレーム/秒)で撮影した動画をテレビやビデオなどに出力する場合、撮影したフレームレートより低いフレームレートで再生されます。なお、スロー再生時は、すべてのフレームを再生できます。オリジナルのフレームレートで画像を確認したい場合は、カメラの液晶モニターまたはパソコンで再生することをおすすめします。
- 他のカメラで撮影した動画などは、再生や編集ができない場合があります(「メッセージ一覧」(p. 154))。

メニューの選択と設定のしかた

FUNC. ボタンを押して設定する（撮影モードのとき）

撮影モードによって表示されない項目があります。

1 モードレバーを ◘ 側に回す

2 FUNC.ボタンを押す

3 ▲▼で項目を選ぶ

4 ◀▶で設定したい内容を選ぶ

5 FUNC.ボタンを押す

6 撮影する

5 FUNC.

ファンクションを終了します

6

撮影する

撮影時　1　MENU　再生時

1 MENUボタンを押す

2 ◀▶でメニューを切り換える

3 ▲▼でメニュー項目を選ぶ
（機能によっては選んだあとSETボタンまたは▶ボタンを押す）

4 ◀▶で設定したい内容を選ぶ
（機能によっては選んだあとSETボタンを押す）

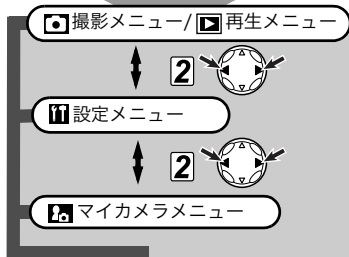
5 MENUボタンを押す

6 撮影モードのときは撮影する

撮影メニュー/再生メニュー

2

設定メニュー

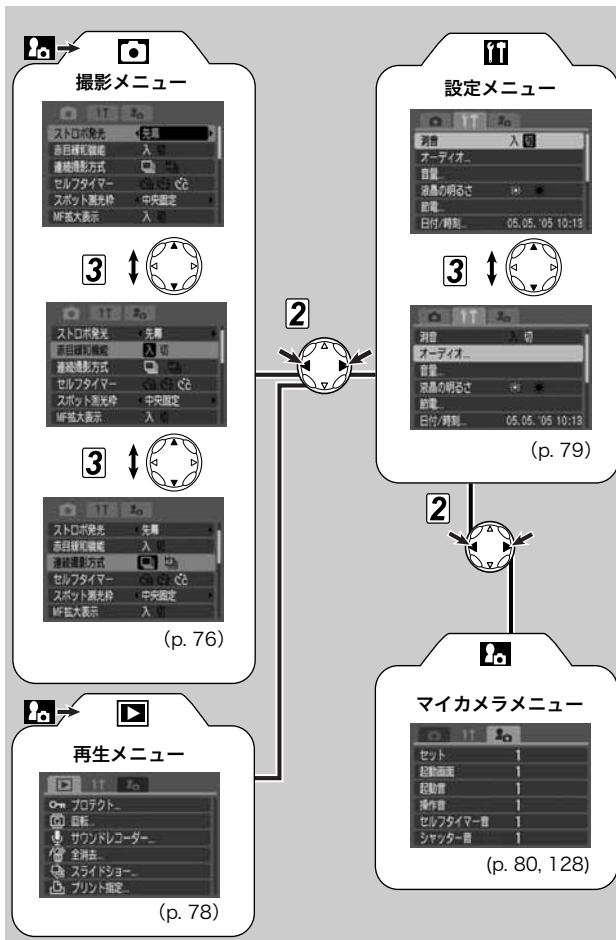
2

マイカメラメニュー

5

（メニューを終了します）

6 撮影する

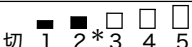
撮影モードのときは、シャッターボタンを半押ししてもメニューを終了できます（再生モードのときにシャッターボタンを半押しすると、メニューが終了し、撮影モードになります）。
また、動画ボタンを押すと撮影モードに戻り、メニューを終了します。

撮影メニュー
ストロボ発光
赤目緩和機能
連続撮影方式
セルフタイマー
スポット測光枠
中央固定
MF拡大表示
入 切
3
(p. 76)
設定メニュー
消音
オーディオ...
音量...
液晶の明るさ
節電...
日付/時刻...
05.05.'05 10:13
(p. 79)
2
再生メニュー
プロテクト...
回転...
サウンドレコーダー...
全消去...
スライドショー...
プリント指定...
(p. 78)
マイカメラメニュー
セット
起動画面
起動音
操作音
セルフタイマー音
シャッター音
(p. 80, 128)

- 撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります(p. 192)。
- マイカメラメニューの設定内容 と には、好きな画面や音を登録できます。詳しくは「マイカメラコンテンツを新規登録する(p. 129)」、またはソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
- カメラの設定を初期設定に戻せます(p. 81)。

撮影メニュー

メニュー項目	内容	参照先
ストロボ発光	ストロボ発光のタイミングを設定します。 先幕* / 後幕	p. 107
スロー シンクロ	遅いシャッタースピードでストロボ発光するかしないかを設定します。 入 / 切*	p. 41
ストロボ自動調光	ストロボの自動調光をするかしないかを設定します。 入* / 切	p. 106
赤目緩和機能	ストロボ発光のとき、赤目緩和ランプを発光するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 40
連続撮影方式	連続撮影のとき、画像を確認しながら撮影するか、確認なしで高速撮影するかを設定します。 (通常連続撮影)* / (高速連続撮影)	p. 63
セルフ タイマー	セルフタイマー撮影のとき、シャッターボタンを押してから撮影されるまでの時間を設定します。 (10 秒)* / (2 秒) / (カスタム)	p. 59
スポット 測光枠	測光方式で [スポット測光枠] を選んだとき、測光を中央枠内に固定するか、指定された AF 枠内にするかを選択します。 中央固定* / AF 枠連動	p. 89
MF 拡大表示	マニュアルフォーカスのとき拡大表示するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 112

メニュー項目	内容	参照先
セーフティシフト	Av モードや Tv モードで、シャッターボタンを半押ししたときに露出が適正範囲になければ、適正露出になるように設定値を自動で変更する機能を設定します。 入 / 切*	p. 87
AF モード	撮影時のフォーカス動作を設定します。 CONT * / SINGLE	p. 113
AF 補助光	AF のときに、必要に応じて AF 補助光を発光するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 35
録画ランプ	動画撮影時、録画ランプを点滅するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 64
デジタルズーム	光学ズームと合わせて、拡大するかどうかを設定します。動画時も設定可能ですが、初期設定は[入]になります。 入 / 切*	p. 61
撮影の確認	撮影してシャッターボタンを放したあと、撮影した画像を液晶モニター（またはビューファインダー）に表示する時間を設定します。 切 / 2 秒*〜 10 秒 / ホールド	p. 36
オリジナル保存	マイカラーで静止画を撮影するときに、オリジナル画像（元画像）も記録するかどうかを設定します。 入 / 切*	p. 97
鏡像表示	液晶モニターを 180 度回転させたとき、画像を鏡のように反転させて表示するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 28
手ぶれ補正	手ぶれ補正機能を使うかどうかを設定します。 切 / 入* / 撮影時 / 流し撮り	p. 35

メニュー項目	内容	参照先
コンバータ	別売のテレコンバーター(TC-DC58B)やワイドコンバーター(WC-DC58A)をカメラに取りつけたときに、カメラが最適な状態になるように設定します。 なし* /WC-DC58A/TC-DC58B	p. 164, 166
インターバル撮影	一定の間隔をあけて自動的に撮影します。 2枚*～ 100 枚 1 分*～ 60 分	p. 108
ショートカット登録	⎙(ショートカット)ボタンに登録する機能を選択します。	p. 82
カスタム登録	撮影メニュー、ファンクションメニューで設定した内容をモードダイヤルの**C** に登録します。	p. 113

＊初期設定

▶再生メニュー

メニュー項目	内容	参照先
プロテクト	画像を消去できないようプロテクト(保護)を設定します。	p. 123
回転	時計方向に 90 度、270 度に回転して画像を表します。	p. 115
サウンドレコーダー	音声だけを録音 / 再生します。	p. 117
全消去	メモリーカードに記録されている画像をすべて消去します。(プロテクトされている画像を除く)	p. 48
スライドショー	記録した画像を自動再生します。	p. 119
プリント指定	画像をカメラダイレクト対応プリンターまたはプリント取り扱い店でプリントするとき、プリントする画像の選択や枚数を指定します。	p. 148
送信指定	パソコンに取り込む画像を、あらかじめカメラで指定します。	p. 152

設定メニュー

メニュー項目	内容	参照先
消音	起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を一度に消すときは、[入] に設定します。 ● [消音] を [入] にすると、マイカメラメニューの音の各設定が 1 2 3 (入)になっていても音は鳴りません。 ● ただし、[消音]を[入]に設定していても、メモリーカードへの記録中にメモリーカードスロットカバーを開けたときは、警告音が鳴ります。 入 / 切*	–
オーディオ	マイクレベル、ウィンドカット、サンプルレートを設定します。	p. 68
音量	カメラの操作音の音量を調節します。	–
①起動音量	カメラ起動時の音量を調節します。	p. 23
②操作音量	シャッターボタン以外のボタンを操作したときの音量を調節します。	–
③セルフタイマー音	撮影 2 秒前から撮影するまでのセルフタイマー音の音量を調節します。	p. 59
④シャッター音量	シャッターボタンを全押ししたときの音量を調節します。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。	p. 33
⑤再生音量	動画再生時、音声メモ、またはサウンドレコーダーの音量を調節します。	p. 116, 117
①〜⑤の設定内容	切 1 2* 3 4 5	–
液晶の明るさ	液晶モニターの明るさを設定します。 (標準)* / (明るい)	–
節電	一定時間カメラの操作をしないときに自動的に電源を切るかどうか、液晶モニターを消すかどうかを設定します。 オートパワーオフ 入* / 切 ディスプレイオフ 10 秒 /20 秒 /30 秒 /1 分* /2 分 /3 分	p. 124
日付 / 時刻	日付、時刻、日付スタイルを設定します。	p. 25

メニュー項目	内容	参照先
カードの初期化	メモリーカードを初期化します。	p. 20
番号リセット機能	ファイル番号の付けかたを設定します。 入 / 切*	p. 126
縦横自動回転	縦位置で撮影した画像を、自動的に横に回転して表示するかしないかを設定します。 入* / 切	p. 125
距離表示	MF インジケーターの距離表示の単位を設定します。 m/cm * または ft/in	–
言語	液晶モニター（またはビューファインダー）のメニューやメッセージを、どの言語で表示するかを設定します。 • English • Deutsch (German) • Français (French) • Nederlands (Dutch) • Dansk (Danish) • Suomi (Finnish) • Italiano (Italian) • Norsk (Norwegian) • Svenska (Swedish) • Español (Spanish) • 简体中文 (Simplified Chinese) • Русский (Russian) • Português (Portuguese) • Ελληνικά (Greek) • Polski (Polish) • Čeština (Czech) • Magyar (Hungarian) • Türkçe (Turkish) • 繁體中文 (Traditional Chinese) • 한국어 (Korean) • 日本語 (Japanese)* 画像の再生時に、**SET** ボタンを押しながら **JUMP** ボタンを押しても、表示する言語を変更できます（プリンター接続時を除く）。	p. 26
ビデオ出力方式	ビデオ出力方式を設定します。 NTSC * / PAL	p. 144, 175

＊初期設定

マイカメラメニュー

メニュー項目	内容	参照先
セット	起動画面、起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音をすべて同じコンテンツに設定します。	p. 128

メニュー項目	内容	参照先
起動画面	電源を入れたときの起動画面を設定します。	p. 128
起動音	電源を入れたときの起動音を設定します。	p. 128
操作音	シャッターボタン以外のボタンと十字ボタンを操作したときの音を設定します。	p. 128
セルフタイマー音	セルフタイマー撮影で 2 秒前をお知らせする音を設定します。	p. 128
シャッター音	シャッターボタンを全押ししたときの音を選びます。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。	p. 128
マイカメラメニューの設定内容	(切)/ * / /	–

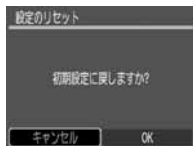
＊初期設定

設定を初期状態に戻す

カメラの設定を初期設定に戻します。

1 モードレバーを または のどちらかに回してカメラの電源を入れる

2 MENUボタンを5秒以上押し続ける

液晶モニター(またはビューファインダー)に､｢初期設定に戻しますか？｣のメッセージが表示されます。

3 ◀▶ で[OK]を選び､SETボタンを押す

初期化がはじまります。

- 初期化が終わると通常画面に戻ります。
- 初期設定に戻すのをやめるときは､[キャンセル]を選びます。

● 以下の設定は初期状態に戻りません。
- [(設定)]メニューの[日付/時刻][言語]
- [ビデオ出力形式]の設定内容(p. 80)
- ワンポイントカラーとスイッチカラーで取り込んだ色
- **C** モードの設定内容
- マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ(p. 92)
- 新しく登録したマイカメラコンテンツ

● パソコンまたはプリンター接続時は初期状態に戻せません。

撮影モードでモードダイヤルを **C** にすると、**C** に登録してある設定のみ初期設定に戻ります。

ショートカットボタンを登録する

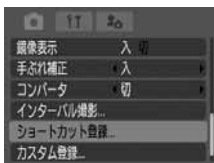
よく使う機能を (ショートカット)ボタンに1つだけ登録できます。
登録できる機能は以下のとおりです。

・記録画素数(初期設定)(p. 38)
・動画記録サイズ / フレームレート(p. 38)
・ISO 感度(静止画のみ)(p. 93)
・色効果 *2(p. 94)
・マイカラー(p. 95)
・AE ロック(p. 103)
・ディスプレイオフ(p. 124)
・ホワイトバランス *1(p. 91)
・手ぶれ補正(p. 35)
・AF ロック(p. 111)

*1　マニュアルは事前に白データの取り込みをしてからお使いください。
*2　カスタムは事前に設定してからお使いください。

機能を登録する

1 [(撮影)]メニューから[ショートカット登録]を選び、SETボタンを押す

● メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 ◀▶で登録したい機能を選び、SETボタンを押す

- アイコンの右下に×が表示されている場合、機能の登録はできますが、現在の撮影モードのままでショートカットボタンを押しても無効となります（登録した機能のアイコンが表示されません）。

モードダイヤルを AUTO にしているとき

ショートカットボタンを使う

1 ボタンを押す

登録した機能が呼び出されます。液晶モニター（またはビューファインダー）に機能のアイコンが表示されます（ディスプレイオフを除く）。

- ボタンを押すたびに、登録されている機能の設定値が切り換わります。
- 現在の撮影モードで無効となる機能が設定されている場合は、何も表示されません。使用できる撮影モードに変更してもう一度 ボタンを押します。

モードダイヤルを使う（クリエイティブゾーン）

モードダイヤル

P Tv Av M

シャッタースピードや絞り数値を選択するなど、カメラの設定を自由に変えて撮影できます。設定を変更した後の撮影のしかたは、「AUTO 撮影する（オート）（p. 33）」と同じです。

このモードで変更できる設定（p. 192）

使いかた

1 撮影モードになっていることを確認する

● 電源/モードランプが橙点灯になります。

2 モードダイヤルを回し、使いたい機能を選んで撮影する

● 選択している機能により、以下のように操作します。

P	シャッタースピードと絞り数値を自動で設定
Tv	◀▶ でシャッタースピードを選ぶ
Av	◀▶ で絞り数値を選ぶ
M	◀▶ でシャッタースピード、▲▼ で絞り数値を選ぶ

● 液晶モニター(またはビューファインダー)に、シャッタースピードや絞り数値が表示されます。シャッターボタンを半押ししたとき、白字で表示されている場合は適正露出です。

● 適正露出が得られない場合、シャッタースピードと絞り数値は赤字で表示されます。

● **P**、**Tv**、**Av** では、同じ露出でシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変えることができます(p. 104)。

◆ 絞り数値とシャッタースピードの関係について(p. 85, 86, 87)

◆ シャッタースピードを遅くしたり絞り数値を大きくすると、手ぶれしやすくなります。液晶モニター(またはビューファインダー)に (手ぶれ警告)や赤字で (ストロボ警告)が表示されたら、以下の方法をお試しください。
- ストロボを上げて発光させる
- (手ぶれ補正)機能を使う(p. 35)
- 三脚を使う

P プログラムAEで撮る

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り数値をカメラが自動的に設定します。
適正露出が得られないときは以下の方法をお試しください。

- ストロボを使用する
- ISO感度を変更する
- 測光方式を変更する

Pと AUTO の違い

P では以下の機能を使用できますが、AUTO ではできません。

・露出補正　　　　・ホワイトバランス　　　・ISO 感度の変更
・ブラケット撮影　・ストロボ調光補正　　　・インターバル撮影
・ストロボ(常時発光、スローシンクロ、後幕発光)
・色効果の変更　　・連続撮影　　　　　　　・測光方式の変更
・マニュアルフォーカス　　　　　　　　　　・AF ロック
・AF 枠の移動　　・AE ロック　　　　　　　・FE ロック
・プログラムシフト　・スーパーマクロ時のオートフォーカス

Tv シャッタースピードを決めて撮る

シャッタースピードを選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッタースピードを遅くすると流動感を表現したり、暗いところでもストロボを発光せずに撮影できます。

- 露出アンダー(露出不足)または露出オーバー(露出過多)になり適正露出が得られないときは、液晶モニター(またはビューファインダー)の絞り数値表示が赤字になります。◀▶ でシャッタースピードを調節し、液晶モニター(またはビューファインダー)の絞り数値表示を白字にしてください。
- シャッタースピードが遅くなると、CCDの特性により撮影した画像にノイズが増えます。このカメラはシャッタースピードが1.3秒より遅くなると、ノイズを除去する処理を行い高画質で撮影します。ただし次の撮影までにしばらく時間がかかります。

6 いろいろな撮影

● ズームによって、絞り数値とシャッタースピードは以下のように変わります。

	絞り数値	シャッタースピード（秒）
ワイド端 *1	F 2.7 ～ 3.5	～ 1/1600
	F 4.0 ～ 5.0	～ 1/2000
	F 5.6 ～ 7.1	～ 1/2500
	F 8.0	～ 1/3200
テレ端 *2	F 3.5 ～ 4.5	～ 1/1600
	F 5.0 ～ 6.3	～ 1/2000
	F 7.1 ～ 8.0	～ 1/2500

＊1　最も広角側
＊2　最も望遠側

● ストロボ発光時に有効なシャッタースピードは、最高で1/500秒です。1/500秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、撮影時に自動的に1/500秒に再設定されます。

シャッタースピードの表示

以下のシャッタースピードに設定できます。1/160は1/160秒を表します。また、0"3は0.3秒を、2"は2秒を表しています。

15"　13"　10"　8"　6"　5"　4"　3"2　2"5
2"　1"6　1"3　1"　0"8　0"6　0"5　0"4　0"3
1/4　1/5　1/6　1/8　1/10　1/13　1/15
1/20　1/25　1/30　1/40　1/50　1/60　1/80
1/100　1/125　1/160　1/200　1/250　1/320
1/400　1/500　1/640　1/800　1/1000　1/1250
1/1600　1/2000　1/2500　1/3200

Av　絞りを決めて撮る

絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するものです。絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出になるシャッタースピードを自動的に設定します。
絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。

絞り数値を大きくする(絞りを閉じる)と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど、鮮明に写る範囲が広くなります。

- 露出アンダー(露出不足)または露出オーバー(露出過多)になり適正露出が得られないときは、液晶モニター(またはビューファインダー)のシャッタースピード表示が赤字になります。◀▶で絞り数値を調節し、液晶モニター(またはビューファインダー)のシャッタースピード表示を白字にしてください。
- ズーム位置によっては選べない絞り数値があります。
- ストロボ同調最高シャッタースピードは、1/500秒になります。したがって、あらかじめ絞り数値を設定していても、ストロボ同調シャッタースピードに応じて絞り数値が自動的に変更されることがあります。

絞り数値の表示

表示された数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなり、カメラに入る光量が低くなります。

F2.7　F3.2　F3.5　F4.0　F4.5　F5.0　F5.6　F6.3
F7.1　F8.0

セーフティシフト

Tv、**Av**のとき、撮影メニューの[セーフティシフト]を[入]にすれば、適正露出を得られない場合でも、自動的にシャッタースピードまたは絞り数値をシフトして、適正露出で撮影できます。ストロボ発光時は機能しません。

M 自由にシャッタースピード / 絞りを決めて撮る

シャッタースピードや絞り数値を自分で決定し、狙いどおりの撮影ができます。長時間露光など、自分の好きな設定で撮影したいときに使います。

- 液晶モニター(またはビューファインダー)には、設定した絞り数値とシャッタースピードに応じた明るさで画像が表示されます。速いシャッタースピードを設定した場合や被写体が暗い場合、ストロボを⚡◎(常時発光(赤目緩和))または⚡(常時発光)にすると常に明るく表示されます。

● シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター（またはビューファインダー）に標準露出*からのずれが表示されます。このずれが±２段を越えると、液晶モニター（またはビューファインダー）に赤字で「－２」または「＋２」と表示されます。

＊設定されている測光方式をもとに AE（Automatic Exposure ＝自動露出）を行って、標準露出を算出します。

AF枠を移動する

モードダイヤル
P Tv Av M

AF枠はオートフォーカスでピントを合わせるための枠で、任意の位置に移動できます（アクティブフレームコントロール）。狙った被写体に確実にピントを合わせたり、構図を楽しむのに便利です。ただし、デジタルズームをお使いのときはAF枠を任意の位置に移動しても中央１点に固定されます。

1 ボタンを押す

AF枠が緑色になります。

2 ▲▼◀▶ でAF枠を移動し、ボタンを押す

- AF 枠を移動したあと ボタンの代わりにシャッターボタンを押すと、すぐに撮影できます。
- ボタンを押しつづけると、AF枠がもとの位置（中央）に戻ります。

◆ AF枠の色について（p. 29）

◆ 測光方式が[スポット測光]のときは、AF枠をスポット測光枠と連動させることができます（p. 89）。

測光方式を切り換える

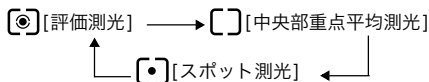
モードダイヤル

P Tv Av M

測光とは被写体の明るさを測定することです。最適な方式に切り換えることにより、ねらった被写体を最適な露出で撮影できます。通常は[評価測光]に設定されています。

	評価測光	画面内を多分割して測光します。被写体の位置、明るさ、背景、順光／逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、被写体を適正な露出で撮影します。
	中央部重点平均測光	画面中央部の被写体に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光します。
	スポット測光	「スポット測光枠」内を測光します。
	中央固定	スポット測光枠を液晶モニター中央部に固定します。
	AF 枠連動	スポット測光枠を AF 枠に連動させます。

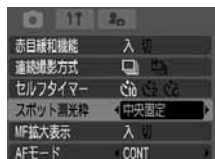
1 ボタンを押して、測光方式を切り換える

●ボタンを押すたびに以下のように測光方式が切り換わります。

●現在選ばれている測光方式が液晶モニター(またはビューファインダー)に表示されます。

[評価測光][中央部重点平均測光]はそのまま撮影する

[スポット測光]を設定する→手順2

2 [(撮影)]メニューから[スポット測光枠]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

3 ◀▶で[中央固定]または[AF枠連動]を選び、MENUボタンを押す

[中央固定]のときは液晶モニター(またはビューファインダー)中央にスポット測光枠が表示([ ])されます。AF枠は別の位置に動かすことができます。(p. 88)

[AF枠連動]のときはAF枠にスポット測光枠が1つ表示([ ])されます。この枠は一緒に動かすことができます。(p. 88)

[ ]スポット測光枠
AF枠

露出を補正する

モードダイヤル

SCN P Tv Av

逆光や背景が明るい場所での撮影で、被写体が暗くなってしまったり、夜景の撮影でライトが明るすぎるようなときに露出を補正します。

1 FUNC.メニューから *(露出補正)を選び、◀▶で露出を調整する

＊現在の設定が表示されます。

- 補正量は、−2〜＋2の範囲で1/3段ずつ変更できます。
- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。
- 露出補正を解除するときは、◀▶で補正量を0に戻します。

のときは露出シフトの設定/解除ができます(p. 64)。

色合いを調整する（ホワイトバランス）

モードダイヤル

P Tv Av M

ホワイトバランスを設定すると、撮影時の光源に合った適正な色になります。
設定内容と光源の組み合わせは以下のとおりです。

AWB	オート	自動設定
	太陽光	晴天の屋外
	くもり	曇天や日陰、薄暮など
	電球	電球、電球色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	蛍光灯 H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	ストロボ	ストロボ使用時（（動画）では設定できません）
	マニュアル	白い紙や布など白を基調としたものをカメラに記憶させ、最適な白データを取り込んでから撮影できます。

1 FUNC.メニューから AWB *（オート）を選び、◀▶で設定したいホワイトバランスを選ぶ

＊現在の設定が表示されます。

- （マニュアル）を設定する（p. 92）
- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

色効果が（セピア）、（白黒）のときは設定できません（p. 94）。

マニュアルホワイトバランスを設定する

以下のような場合、AWB（オート）ではホワイトバランスが調整できないことがあります。（マニュアル）で白データを取り込んでから撮影してください。

- 至近距離（マクロ、スーパーマクロ）で撮影するとき
- 単一な色の被写体（空、海、森など）を撮影するとき
- 水銀灯などの特殊な光源で撮影するとき

1 FUNC.メニューからAWB*（オート）を選び、◀▶で（マニュアル）を選ぶ

＊現在の設定が表示されます。

2 カメラを白い紙や布に向け、SETボタンを押す

白データが取り込まれます。

- 中央の枠いっぱいに白い紙や布が表示されるよう構図を決めてから、SET ボタンを押してください。
- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

白データ取り込み枠

◆ マニュアルホワイトバランスは、以下のような条件で設定することをおすすめします。

- **撮影モードをPにし、露出補正、ストロボ調光補正をともに±0にする**
  適正露出でない場合（真っ黒や真っ白）は白データを正しく取り込めないことがあります。
- **ズームを最も望遠側（テレ端）の位置にする**
  デジタルズームは[切]にしてください。

次ページに続く >>

- ストロボを撮影条件に合わせて、(常時発光)または(発光禁止)にしておく
  撮影時のストロボ設定と同じ条件でホワイトバランスを設定してください。条件が合っていない場合、最適なホワイトバランスを設定できないことがあります。
- ISO感度を撮影時と同じ条件に設定する

◆ (スティッチアシスト)では設定できませんが、他のモードで取り込んだ白データは使用できます。

◆ 設定したマニュアルホワイトバランスは、カメラの設定を初期設定に戻しても解除されません(p. 81)。

ISO感度を変更する

モードダイヤル

P Tv Av M

ISO感度を上げると、光量が少ない場所でも画像を明るめにして撮影できます。暗いところで手ぶれを抑えたいとき、ストロボをオフにして撮影したいとき、シャッタースピードを速くしたいときに便利です。
感度は、AUTO、50、100、200、400から選べます。

1 FUNC. メニューから *(ISO感度)を選び、◀▶ で設定したい感度を選ぶ

＊現在の設定が表示されます。
設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

● ISO感度を上げすぎると、画像にノイズが増えます。きれいに撮りたいときは、なるべく低い感度を選んでください。
● [AUTO]を選択すると、最適な画質になる感度に設定されます。また、被写体を照らすストロボ発光量が十分でない場合は自動的に感度が上がります。

色効果を切り換える

モードダイヤル

P Tv Av M

色効果を切り換えると、画像の印象を変えられます。

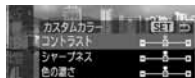
	効果切	通常設定
	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした色合いにする
	すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした色合いにする
	ソフト	輪郭の強調を抑える
	セピア	セピア色にする
	白黒	白黒にする
	カスタムカラー＊	コントラスト、シャープネス、色の濃さを自由に設定する

＊**P**、**Tv**、**Av**、**M**のみ

1 FUNC. メニューから＊（効果切）を選び、◀▶で設定したい色効果を選ぶ

＊現在の設定が表示されます。
設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

を選んだとき

- **SET**ボタンを押すとコントラスト、シャープネス、色の濃さを設定する画面が表示されます。▲▼で設定したい項目を選び、◀▶で設定を変更して**SET**ボタンを押します。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

コントラスト
- 明るさの度合を調節できます。
- −(弱め)、0(標準)、+(強め)から選びます。

シャープネス
- 輪郭のくっきり度合を調節できます。
- −(弱め)、0(標準)、+(強め)から選びます。

色の濃さ
- 色の濃淡を調節できます。
- −(薄い)、0(標準)、+(濃い)から選びます。

(セピア)、(白黒)を選んだときは、ホワイトバランスは設定できません。

マイカラーで撮る

モードダイヤル

マイカラーは、赤、緑、青の色のバランスを変えたり、色白や日焼けした肌にしたり、画面内の指定した色を別の色にするなど、画像の色味を簡易的に変化させて撮影できる機能です。静止画はもちろん、動画でも利用でき、画像効果や映像効果を演出した撮影が楽しめます。
ただし、撮影状況によっては、画像が粗くなったり、思い通りの色にならないことがあります。そのため、大切なシーンを撮影するときには、必ず事前にためし撮りすることをおすすめします。なお、静止画の場合には、[オリジナル保存]機能(p. 97)を[入]にすれば、マイカラーの画像だけでなく、オリジナル画像(元画像)も記録できます。

🎨P	ポジフィルムカラー	「あざやかブルー」・「あざやかグリーン」・「あざやかレッド」の効果を合わせたもので、青、緑、赤色をより鮮やかに撮影できます。ポジフィルムのようにナチュラルで色鮮やかな画像が撮影できます。
🎨L	色白肌*	人物の肌を色白に撮影できます。
🎨D	褐色肌*	人物の肌を褐色に撮影できます。
🎨B	あざやかブルー	青色を強調して撮影できます。空や海などの青い被写体をより鮮やかに撮影できます。
🎨G	あざやかグリーン	緑色を強調して撮影できます。山や新緑、草花、芝生などの緑の被写体をより鮮やかに撮影できます。
🎨R	あざやかレッド	赤色を強調して撮影できます。赤い花や赤い車などの赤い被写体をより鮮やかに撮影できます。
🎨A	ワンポイントカラー	画面内の指定した色のみを残し、それ以外を白黒にして撮影できます。
🎨S	スイッチカラー	画面内の指定した色を別の色に変更して撮影できます。別の色の取り込みは 1 色のみで、複数の色からは選択できません。
🎨C	カスタムカラー	赤 / 緑 / 青 / 肌色*のバランスを自由に設定して撮影できます。「青色をもう少し鮮やかに」や「顔色をもう少し明るく」といった微調整ができます。

＊ 被写体に人物以外の肌色が含まれている場合は、その被写体の色も変更されることがあります。
また、肌の色によっては、効果が表れない場合があります。

マイカラーを使って動画を撮影したいときは、最初にモードダイヤルを🎨（マイカラー）にして、使いたいマイカラーモードに設定してから、動画ボタンを押してください。

1 FUNC.ボタンを押し、▲▼で（マイカラー）＊を選び、◀▶で設定したいマイカラーモードを選ぶ

＊現在の設定が表示されます。

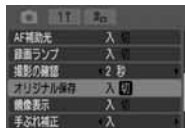
- 、、、、、のとき
  FUNC.ボタンを押して撮影画面に戻り、撮影します。
- 、、のとき
  それぞれの撮影手順をご覧ください。
  ：ワンポイントカラーで撮る（p. 98）
  ：スイッチカラーで撮る（p. 99）
  ：カスタムカラーで撮る（p. 100）

このモードで変更できる設定（p. 192）

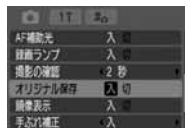
オリジナル画像の保存方法を変更する

マイカラーで静止画を撮影するときは、マイカラーの画像だけでなく、オリジナル画像（元画像）も記録するかどうかを設定できます。

1 [（撮影）]メニューから[オリジナル保存]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた（p. 74）

2 ◀▶で[入]または[切]を選び、MENUボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。
- オリジナル画像も記録するときは[入]、記録しないときは[切]を選びます。
- [入]の場合、画像番号は連番になります。オリジナル画像が早い番号、マイカラーで撮影した画像が後の番号です。

6 いろいろな撮影

[オリジナル保存]を[入]した場合

- ◆ 撮影時に液晶モニター(またはビューファインダー)に表示される画像は、マイカラーで設定している画像だけです。
- ◆ 撮影直後に液晶モニター(またはビューファインダー)に表示される画像は、マイカラーで撮影した画像になります(p. 95)。このとき画像を消去すると、オリジナル画像も同時に消去されますので、十分に確認してから消去してください。
- ◆ 1回の撮影で2画像記録されるため、液晶モニター(またはビューファインダー)に表示される記録可能画像数は半分になります。

ワンポイントカラーで撮る

画面内の指定した色以外を白黒で撮影します。

1 モードダイヤルを(マイカラー)にして、FUNC.メニューから(ワンポイントカラー)を選び、SETボタンを押す

- ●マイカラーで撮る(p. 95)
- ●前回設定した指定色以外は白黒で表示されます。
- ●色取り込みモードになり、オリジナルの画像とワンポイントカラーの画像が交互に表示されます(初期値は緑に設定されています)。

2 液晶モニターの中央の枠内に、残したい色が入るようにカメラを向け、◀を押す

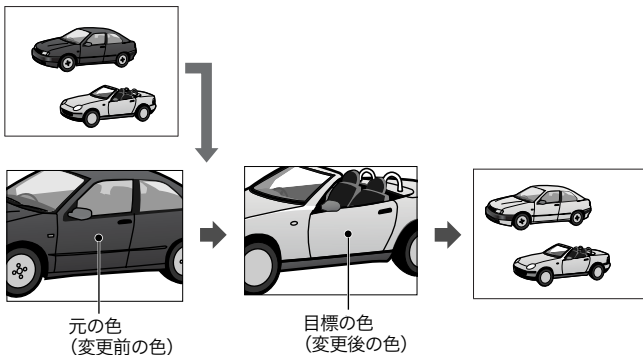
- ●指定できるのは1色です。
- ●▲▼で残したい色の取り込み範囲を変更できます(±5段階)。
- ●このあと、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

3 SETボタンを押す

色取り込みモードが終了します。

- ◆ストロボを発光して撮影したり、色取り込み後にホワイトバランス、測光方式を変更して撮影すると、思いどおりの画像にならないことがあります。
- ◆ワンポイントカラーで指定した色は、電源を切っても記憶されます。
- ◆ (ワンポイントカラー)は露出補正などができません。

スイッチカラーで撮る

画面内の指定した色を別の色に変えて撮影します。

1 モードダイヤルを (マイカラー)にして、FUNC.メニューから (スイッチカラー)を選び、SETボタンを押す

- ●マイカラーで撮る(p. 95)
- ●色取り込みモードになり、オリジナルの画像とスイッチカラーの画像(前回設定した指定色が反映)が交互に表示されます(初期値では、変えたい色は緑、変更後の色は白に設定されています)。

2 液晶モニターの中央の枠内に、元の色が入るようにカメラを向け、◀を押す

- 指定できるのは1色です。
- ▲▼で変えたい色の取り込み範囲を変更できます(±5段階)。

3 液晶モニターの中央の枠内に、目標の色が入るようにカメラを向け、▶を押す

- 指定できるのは1色です。
- このあと、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

4 SETボタンを押す

色取り込みモードが終了します。

- ◆ ストロボを発光して撮影したり、色取り込み後にホワイトバランス、測光方式を変更して撮影すると、思いどおりの画像にならないことがあります。
- ◆ スイッチカラーで指定した色は、電源を切っても記憶されます。
- ◆ (スイッチカラー)は露出補正できません。

カスタムカラーで撮る

赤、緑、青、肌色の、それぞれの色のバランスを調整して撮影します。

1 モードダイヤルを(マイカラー)にして、FUNC.メニューから(カスタムカラー)を選び、SETボタンを押す

マイカラーで撮る(p. 95)

2 ▲▼で[赤]、[緑]、[青]、[肌色]のいずれかを選び、◀▶で色合いを調整する

調整結果が表示されます。

色を選ぶ　色合いを調整する

3 SETボタンを押す

設定モードを終了します。

露出を自動的に変えて撮る(AEB撮影)

モードダイヤル

P Tv Av

撮影時の露出を中心に、設定したマイナス補正とプラス補正で自動的に3画像撮影できます。
補正量は、撮影時の露出を中心に－2～＋2の範囲で1/3段ずつ設定できます。また露出補正(p. 90)をしている場合は、その設定値を中心に補正量を設定できます。標準露出、マイナス補正、プラス補正の順で撮影します。

3枚の撮影は、高速連続撮影と同じ間隔で撮影されます。
連続して撮る(p. 62)

1 FUNC.メニューの＊(BKT-OFF)を選ぶ

＊現在の設定が表示されます。

2 ◀▶で[AEB icon](AEB)を選んでSETボタンを押し、◀▶で補正量を調整する

- ▶を押すと補正量が大きくなり、◀を押すと小さくなります。
- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。
- AEB撮影を解除するときは、[BKT-OFF icon](BKT-OFF)を選びます。

> - ストロボ発光時はAEB撮影ができません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の1画像撮影になります。
> - 連写の設定(p. 62)にかかわらず、3枚連続撮影されます。

[Focus-BKT icon]フォーカスを自動的に変えて撮る(フォーカスブラケット撮影)

モードダイヤル
P Tv Av M

マニュアルフォーカスで設定したピント位置を中心に、設定した前寄りと後ろ寄りのピント位置で自動的に3画像撮影できます。前寄り、後ろ寄りのピント位置を、大・中・小の3段階で設定できます。設定したピント位置、後ろ寄りピント、前寄りピントの順で撮影します。

> 3枚の撮影は、高速連続撮影と同じ間隔で撮影されます。
> 連続して撮る(p. 62)

1 FUNC.メニューから[BKT-OFF icon]*(BKT-OFF)を選び、◀▶で[Focus-BKT icon](Focus-BKT)を選んでSETボタンを押す

*現在の設定が表示されます。

2 ◀▶でピント位置の変更量を設定する

- ▶を押すと間隔が広くなり、◀を押すと狭くなって、中心に近い位置でピントを合わせます。
- 設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

3 FUNC.ボタンを押し、マニュアルフォーカス(p. 112)で撮影する

- ストロボ発光時はフォーカスブラケット撮影ができません。通常の1画像撮影になります。
- 連写の設定(p. 62)にかかわらず、3枚連続撮影されます。

露出を固定して撮る(AEロック)

モードダイヤル

P Tv Av

露出とピントを別々に決めて撮影できます。被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光下での撮影などに有効です。

ストロボが発光しないよう、必ず下げて収納してください。ストロボが発光すると、AEロックが働きません。ストロボを使って撮影したいときは、FEロックしてください。(p. 105)

1 露出を固定したい被写体にAF枠またはスポット測光枠を合わせ、シャッターボタンを半押しする

- AF枠を移動する(p. 88)
- 測光方式を切り換える(p. 89)

2 シャッターボタンを半押ししたまま ⦿ボタンを押す

AEロック

- 露出が記憶(AEロック)され、液晶モニター(またはビューファインダー)に✱が表示されます。
- もう一度 ⦿ボタンを押すと、AEロックを解除できます。

3 構図を決め直して撮影する

AF枠内の被写体にピントが合います。

AEロック後、シャッターボタンまたは▲▼◀▶以外を操作すると、AEロックは解除されます。

- ◆ 動画 のときも、AEロックの設定/解除ができます(p. 64)。
- ◆ 自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを、同じ露出のままで自由に変えて撮影できます(プログラムシフト)。以下のように操作します。
  1. モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**のいずれかにする。
  2. 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。
  3. ⦿ボタンを押す。
     露出が固定され、液晶モニター(またはビューファインダー)に✱が表示されます。
  4. ◀▶で希望するシャッタースピードまたは絞り数値になるまで変える。
  5. 構図を決め直して撮影する。
     撮影が終了し、設定は解除されます。

FEロックして撮る

モードダイヤル

P Tv Av

ねらった被写体が構図のどこにあっても、適正な露出でストロボ撮影できます。

1 ストロボを上げて、液晶モニター(またはビューファインダー)に を表示させる(p. 40)

が表示されたときは、 ボタンを押して、 に設定してください。

2 露出を固定したい(ねらった)被写体にAF枠またはスポット測光枠を合わせ、シャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを半押ししたまま ボタンを押す

- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶し、液晶モニター(またはビューファインダー)に ✱ が表示されます。
- ボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量をFEロックします。

4 構図を決め直して撮影する

FEロック後、シャッターボタン、▲▼◀▶以外を操作すると、FEロックは解除されます。

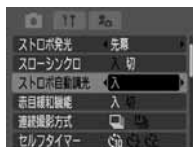
液晶モニター(またはビューファインダー)に が表示されているときは、FEロックできません。

内蔵ストロボの自動調光設定を切り換える

モードダイヤル
Tv Av

内蔵ストロボは自動調光で発光されます（**M** を除く）が、自動調光しないように設定することもできます。

1 [（撮影）]メニューから[ストロボ自動調光]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた（p. 74）

2 ◀▶ で [入] または [切] を選び、MENUボタンを押す

ストロボ調光量／発光量を補正する

モードダイヤル
P Tv*1 Av*1 M*2
*1 [ストロボ自動調光]が[切]のときは、ストロボ発光量を設定できます。 *2 ストロボ発光量を設定できます。

ストロボ調光補正	● [ストロボ自動調光]が[入]のとき、標準調光を中心に－２～＋２の範囲で 1/3 段ずつ変更できます。 ● カメラの露出補正と併用することにより、背景の露出も補正したストロボ撮影ができます。
ストロボ発光量	● モードダイヤルが**M**、または[ストロボ自動調光]が[切]のとき、ストロボの発光量をフル発光から３段階で制御して撮影できます。

1 FUNC.メニューから ⚡ (ストロボ調光補正またはストロボ発光量)を選ぶ

設定可能なものが表示されます。

ストロボ自動調光が[入]のとき

ストロボ自動調光が[切]のとき

2 ◀▶で補正量/発光量を調整する

設定したあとシャッターボタンを押して、すぐに撮影できます。撮影後はもう一度この画面が表示され、設定を変更できます。

ストロボ発光のタイミングを切り換える

モードダイヤル

P Tv Av M

先幕	シャッタースピードにかかわらず、シャッターが開いた直後にストロボが発光します。通常はこちらで撮影します。
後幕	シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。ストロボ発光のタイミングが先幕発光より遅くなり、車のライトが後方に流れるような画像を撮影できます。

先幕設定で撮影した画像

後幕設定で撮影した画像

6 いろいろな撮影

1 **[📷(撮影)]メニューから[ストロボ発光]を選ぶ**

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 **◀▶で[先幕]または[後幕]を選ぶ**

間隔をあけて自動的に撮影する(インターバル撮影)

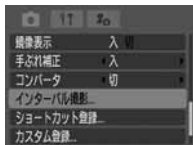
モードダイヤル

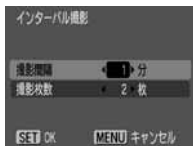
P Tv Av M

一定の間隔で自動的に撮影できます。これにより、開花する植物の観測などの定点観測ができます。設定できる撮影間隔は約1分～約60分、撮影画像数は2～100画像です。

長時間の撮影になりますので、コンパクトパワーアダプターCA-PS700(別売)の使用をおすすめします(p. 171)。

1 **[📷(撮影)]メニューから[インターバル撮影]を選んでSETボタンを押す**

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 **◀▶で撮影間隔を選ぶ**

◀▶を押し続けると撮影間隔が5分単位で変わります。

3 ▼を押し、◀▶で撮影枚数を選ぶ

- ◀▶を押し続けると撮影枚数が5枚単位で変わります。
- 最大撮影枚数*はメモリーカードの残り容量によって決まります。

  *実際に撮影した画像によっては、少なくなる場合もあります。

4 SETボタンを押す

メニュー画面が消え、液晶モニター（またはビューファインダー）の右下にInt.が表示されます。

5 シャッターボタンを押す

- 1枚目が撮影されインターバル撮影が始まります。
- 設定した枚数の撮影が終わると、節電機能の設定にかかわらず電源が自動的に切れます。
- インターバル撮影の途中で以下の操作を行うと、インターバル撮影が中止されます。
  - 次の撮影を行うまでの間にモードダイヤルを変更する
  - モードレバーを操作する
  - メモリーカードスロットカバーまたはバッテリーカバーを開く
  - 電源を切る

- インターバル撮影が始まってからのボタン操作は受け付けません。
- 次の撮影までの間、レンズは繰り出されたままとなりますのでご注意ください。
- 撮影直後、液晶モニター（またはビューファインダー）に撮影画像は表示されません。
- [日付/時刻]が設定されていないときインターバル撮影はできません。
- 連続撮影、セルフタイマー撮影はできません。
- AEB、フォーカスブラケットは設定できません。

ピントが合いにくい被写体を撮る

以下のような被写体は、ピントが合わないことがあります。

- コントラストが極端に低い被写体
- 近いものと遠いものが混在する被写体
- 画像中央部が極端に明るい被写体
- 高速で移動する被写体
- ガラス越しの被写体：できるだけガラスに近寄り、反射による写り込みのない状態で撮影してください。

これらの被写体を撮影する場合は、その被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロック撮影するか、マニュアルフォーカスやAFロックで（手動でピントを合わせて）撮影してください。

フォーカスロックで撮る

モードダイヤル

AUTO SCN P Tv Av M

1 ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、液晶モニターまたはビューファインダーに表示されているAF枠に収める

2 シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせる

- 「ピピッ」と電子音が鳴り、AF枠が緑色になります（（スティッチアシスト）ではAF枠は表示されません）。
- このときAEもロックされます。撮影したい被写体と、その被写体と同じ距離にあるフォーカスロックに用いた被写体との輝度の差が大きいと、適正露出が得られない場合があります。この場合はAFロック（p. 111）で撮影するか、AEロック（p. 103）で撮影してください。

3 そのままカメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

AFロックで撮る

モードダイヤル

SCN( ) P Tv Av M

1 ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、AF枠の中に収める

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、そのままMFボタンを押す

- 「ピピッ」と電子音が鳴り、AF枠が緑色になったら**MF**ボタンを押してください。
- 液晶モニター(またはビューファインダー)に MF が表示されます。
- シャッターボタン、**MF**ボタンを放しても、フォーカスは固定されています。
- もう一度**MF**ボタンを押すと、フォーカスロックは解除されます。

3 カメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

- AFロックは、シャッターボタンを放して構図を決められるので便利です。また撮影後もAFロックされたままなので、同じピントですぐ次の撮影ができます。
- (スティッチアシスト)はAF枠が表示されないので、ねらった被写体にピントが合うようにカメラを向けてください。
- のときも、AFロックの設定/解除ができます(p. 64)。
- ショートカットキーに AFL を登録すると、**MF**ボタンを押さなくてもAFロックできます。

マニュアルフォーカスで撮る

モードダイヤル

SCN( ) P Tv Av M

手動でピントを合わせて撮影します。

1 MFボタンを押しながら、▲▼を押す

MFインジケーター

- フォーカスがロックされ、液晶モニター（またはビューファインダー）に MF と MF インジケーターが表示されます。
- ［ （撮影）］メニューの［MF拡大表示］を［入］にしてAF枠をマニュアル選択 (p. 88) しているときは、AF枠を中心に画像が拡大表示*されます。
  - * （スティッチアシスト）、デジタルズームを使用しているとき、テレビに画像を表示しているときは拡大表示されません。
  - *拡大表示しない設定にもできます。(p. 76)
- MFインジケーターはピント位置の目安です。表示される数値を目安に撮影してください。
- 被写体がはっきり見えるまで、▲▼でピントを合わせてください。ピントが合ったあと、そのままの位置で**SET**ボタンを押すと、そのときのピント位置の近くから最もピントの合う位置を探して、自動的に合わせることができます。
- もう一度**MF**ボタンを押すと、マニュアルフォーカスは解除されます。

2 シャッターボタンを全押しして撮影する

MFインジケーターの表示単位を変更できます。(p. 80)

フォーカス設定を切り換えて撮る

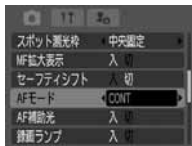
モードダイヤル

AUTO 〔ポートレート〕〔風景〕〔夜景〕 SCN 〔スティッチアシスト〕〔動画〕 P Tv Av M

AFの設定を選択します。

CONT （コンティニュアス）	シャッターボタンを押さなくても、カメラを向けた位置へ常にピントを合わせます。とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。初期状態はこちらが選択されています。
SINGLE （シングル）	シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせます。通常はピント合わせを行わないため、消費電力を抑えることができます。

1 [〔カメラ〕（撮影）]メニューから[AFモード]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた（p. 74）

2 ◀▶で[CONT]または[SINGLE]を選び、MENUボタンを押す

C カスタム登録する

モードダイヤル

P Tv Av M C

よく使う撮影モードや撮影時のさまざまな設定を、あらかじめC（カスタム）に登録しておくことができます。必要なときにモードダイヤルをCに合わせるだけで、事前に登録した設定内容で撮影できます。他の撮影モードに切り換えたり、電源を切ると解除されてしまう設定（連続撮影、セルフタイマーなど）も保持されます。

1 モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**C**のいずれかにする

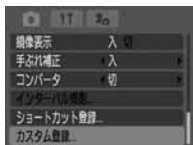
Cに登録した設定の一部(撮影モード以外)を変更するときは、**C**を選びます。

2 登録したい内容を設定する

Cに登録できる機能

- 撮影モード(**P**、**Tv**、**Av**、**M**)
- **P**、**Tv**、**Av**、**M**で設定可能な項目(p. 192)
- 撮影メニューの設定内容
- ズーム位置
- マニュアルフォーカス位置

3 [(撮影)]メニューから[カスタム登録]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

4 [OK]を選びSETボタンを押す

- ◆ 設定内容は、他の撮影モードには反映されません。
- ◆ 登録内容をリセットできます(p. 81)。

回転して表示する

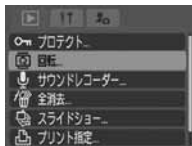
時計方向に90度、270度に回転して表示します。

元画像

90度

270度

1 [▶(再生)]メニューから[回転]を選び、SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 ◀▶で回転する画像を選び、SETボタンを押す

SETボタンを押すたびに、90度→270度→元画像が表示されます。

- 動画は回転表示できません。
- カメラで回転した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。

- 画像を回転したあとで、拡大することもできます(p. 43)。
- 縦横自動回転の設定(p. 125)が[入]のとき、縦位置で撮影した画像をカメラの液晶モニター(またはビューファインダー)に表示すると、画像は自動的に縦位置に回転して表示されます。

🎙音声メモを付ける

再生中(シングル再生、インデックス再生、拡大再生、撮影直後の画像表示中)の画像に最長60秒の音声メモを付けることができます。音声データはWAVE形式で保存されます。

1 画像再生中に🎙ボタンを押す

音声メモパネルが表示されます。

2 ◀▶で[●](録音)を選び、SETボタンを押す

音声メモパネル

- 録音が始まり、録音時間が表示されます。カメラのマイクに向かって音声を発してください。
- 音声モードを変更する(p. 68)
- 停止するときは**SET**ボタンを押します。引き続き録音をするときは、もう一度**SET**ボタンを押します。
- 1画像につき、合計が60秒に達するまで何度でも録音を追加できます。

音声メモの再生

- [▶]を選びます。音声メモの付いた画像には[♪]マークが表示されています(情報表示なしのときは表示されません)。
  停止するときは**SET**ボタンを押します。引き続き再生するときは、もう一度**SET**ボタンを押します。▲▼で音量を調節できます。

音声メモの消去

- [♪]マークが表示されていることを確認し、◀▶で[🗑]を選び、**SET**ボタンを押します。
  ◀▶で[消去]を選び、**SET**ボタンを押します。

音声メモ設定の終了

- 🎙ボタンを押します。

- 動画には音声メモを付けられません。
- メモリーカードの容量がいっぱいになると、「カードがいっぱいです」のメッセージが表示され、録音できません。
- 画像に互換性のない音声ファイルが添付されている場合、録音や再生はできません。録音や再生をしようとすると「互換性のないWAVEです」のメッセージが表示されます。互換性のない音声データはこのカメラで削除できます。
- プロテクトされている画像の音声メモは消去できません(p. 123)。

- ◆ 設定メニューでも、音声メモの音量を調節できます(p. 79)。
- ◆ 設定メニューの[消音]を[入]にすると音量は0になりますが、▲▼での音量調節はできます。

音声だけを記録する(サウンドレコーダー)

画像を記録せず、音声だけを1回あたり最大2時間まで録音できます。

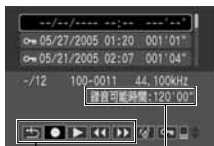
1 [▶(再生)]メニューから[サウンドレコーダー]を選び、SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 音声再生パネルから◀▶で[●](録音)を選び、SETボタンを押す

録音可能時間

音声操作パネル

- 録音が始まり、録音時間が表示されます。
- 音声モードの設定(p. 68)
- 録音を停止するときは、もう一度**SET**ボタンを押します。
  シャッターボタンを半押しする、または動画ボタンを押しても録音を停止します。

- 最大記録時間は、メモリーカードの空き容量や音声モードによって異なります。
- メモリーカードの容量がいっぱいになると、そこで録音を終了します。
- 再生モードで🎤ボタンを押し続けても、音声操作パネルを表示できます。

音声を再生する

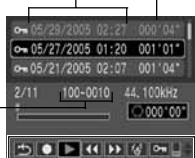
1 [▶(再生)]メニューから[サウンドレコーダー]を選び、SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 ▲▼で再生したい音声を選び、◀▶で▶を選んで、SETボタンを押す。

音声が再生されます。

(終了):再生メニューに戻ります。
(録音):音声を録音します。
(再生):音声を再生します。
(早戻し): SETボタンを押し続けると後ろに戻ります(音声は出ません)。
(早送り): SETボタンを押し続けると先に進みます(音声は出ません)。
(消去): SETボタンを押し、◀▶で[消去]を選んでSETボタンを押すと、選択中の音声が消去されます。[全消去]を選んで、◀▶で[OK]を選び、SETボタンを押すと、プロテクトされていないすべての音声が消去されます。
(プロテクト): SETボタンを押すと、選択中の音声がプロテクト(保護)され、消去できなくなります(アイコンが表示されます)。もう一度SETボタンを押すと解除されます。
(音量):▲▼で音量を調整できます。

- [(設定)]メニューの[音量]でも再生音量の調整ができます(p. 79)

画像番号、音声番号およびフォルダ番号について（p. 127）

画像を自動再生する(スライドショー)

スライドショーの画像指定はDPOF(Digital Print Order Format)に準拠しています(p. 146)。

スライドショーをはじめる

メモリーカード内の全画像または選択した画像を自動再生します。

全画像	メモリーカード内のすべての画像を順に再生します。
ショー1 ～ショー3	各ショーでマークされている画像を順に再生します(p. 120)。

1 [▶(再生)]メニューから[スライドショー]を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた(p. 74)
- スライドショーメニューが表示されます。

2 ▲▼で[スライド]を選び、◀▶で[全画像]、[ショー1]～[ショー3]のいずれかを選ぶ

- [ショー1]～[ショー3]で再生する画像を選ぶ方法は、「再生する画像を選ぶ」(p. 120)の手順3以降をご覧ください。
- [リセット]を選ぶと、スライドショーの設定を解除します。

3 ▲▼で[スタート]を選び、SETボタンを押す

スライドショーが開始されます。終了すると、スライドショーメニュー画面に戻ります。

スライドショーの一時停止 / 再開

- SET ボタンを押すと自動再生を一時停止します(❙❙が表示されます)。もう一度SETボタンを押すと再生を続けます。

画像送り / 戻し

- ◀▶ で前または次の画像へ進めます。

スライドショーの中止

- 再生中に MENU ボタンを押すとスライドショーが中止され、スライドショーメニューが表示されます。

4 スライドショーが終了したら、MENUボタンを押す

メニュー画面表示に戻ります。もう一度 MENU ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

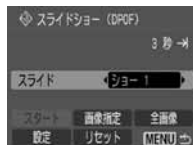
- ◆ 動画は、設定した再生間隔(p. 122)にかかわらず、記録した時間で再生されます。
- ◆ スライドショーで自動再生中は、節電機能は働きません(p. 124)。

再生する画像を選ぶ

スライドショーで再生したい画像だけをマークし、［ショー１］から［ショー３］に保存します。
最大998画像まで指定でき、選択した順番に自動再生されます。

1 スライドショーメニューを表示する(p. 119)

2 ▲で[スライド]を選び、◀▶で[ショー1]〜[ショー3]のいずれかを選ぶ

すでに画像指定されているショーには、チェックマーク(✓)が表示されます。

3 ▲▼◀▶で[画像指定]を選び、SETボタンを押す

4 再生する画像を選ぶ

シングル再生のとき

- ◀▶で画像を選びます。**SET**ボタンで選択、選択の解除ができます。
- 選択した画像の上部には、選択順の番号とチェックマーク(✓)が表示されます。
- **JUMP**ボタンを押すとジャンプバーが表示されます(p. 46)。ジャンプしたあと**MENU**ボタンを押してから**SET**ボタンで、選択、選択の解除ができます。

インデックス再生のとき

- ズームレバーを▦側に回し、インデックス再生(9画像表示)に切り換えます。
- ▲▼◀▶で画像を選びます。**SET**ボタンで選択、選択の解除ができます。
- 選択した画像の下部には、選択順の番号とチェックマーク(✓)が表示されます。

- すべての画像を選択するときは、手順 3 で[全画像]を選び、◀▶で[OK]を選んで**SET**ボタンを押します。さらに[画像指定]を選んで**SET**ボタンを押すと、手順4の方法で特定の画像の選択、選択解除ができます。[リセット] を行った後も同様に、特定の画像の選択、選択の解除ができます。

5 MENUボタンを押す

画像指定が終了します。

再生間隔やリピート設定をする

再生間隔	スライドショーで 1 画像を表示する時間を指定します。3 ～ 10 秒、15 秒、30 秒、手動を指定できます。
リピート	スライドショーが一巡したら終了するか、繰り返し再生するかを設定します。

1 スライドショーメニューを表示する(p. 119)

(p. 119)

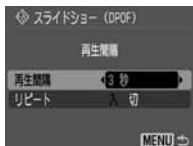
2 ▲▼◀▶ で[設定]を選び、SETボタンを押す

3 ▲▼ で[再生間隔]または[リピート]を選び、◀▶ で設定する

再生間隔

- 再生時間を選びます。
- 手動を選んだときは、スライドショーを始めたあと、◀▶ で画像を進めたり、戻したりできます。

リピート設定

- [入]または[切]を選びます。

4 MENUボタンを押す

設定が終了します。

- ◆ 画像によっては、設定した時間と多少異なる再生間隔で再生されることがあります。
- ◆ 付属のソフトウェア(ZoomBrowser EXまたはImageBrowser)を使用すると、スライドショーが簡単に編集できます。

画像をプロテクト(保護)する

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクトを設定できます。

1 [▶(再生)]メニューから[プロテクト]を選び、SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 ◀▶でプロテクトしたい画像を選び、SETボタンを押す

- プロテクトを設定した画像には、🔑が表示されます。
- プロテクトを設定した画像で **SET** ボタンを押すと、プロテクトを解除します。
- ズームレバーでシングル再生とインデックス再生を切り換えて指定できます。
- インデックス再生のとき、ズームレバーを ▦ 側に回すと、9 画面ずつジャンプできます。画像の選択、選択の解除は、ズームレバーを🔍側に回し、ジャンプバーを消して(p. 45)から行います。

メモリーカードを初期化(p. 20)すると、プロテクトした画像も消去されます。メモリーカードを初期化するときは、メモリーカード上の記録内容を十分に確認してから行ってください。

節電の設定をする

カメラには節電機能が付いています。節電機能の設定にしたがってカメラの電源が自動的に切れたり、液晶モニター(またはビューファインダー)が消えます。

●オートパワーオフ

入: ● **撮影モード**:約3分間何も操作をしないと電源が切れます。オートパワーオフを[切]にしている場合でも、液晶モニター(またはビューファインダー)を表示して約1分間*1何も操作しないと、表示が消えます。このとき**OFF**ボタン以外のボタンを押すと、液晶モニター(またはビューファインダー)が表示されます。

＊1　時間を変更できます。

● **再生モード**:約5分間何も操作をしないと電源が切れます。

● **プリンター接続モード**:約5分間カメラの操作を何もしないと電源が切れます。

切: 節電機能は働きません。

●ディスプレイオフ(撮影モードのみ)

設定した時間、何も操作をしないと液晶モニター(またはビューファインダー)が消えます。

10秒/20秒/30秒/1分*2/2分/3分から選択できます。

＊2　初期設定

オートパワーオフが働いたとき

もう一度電源を入れます。

再生 / プリンター接続モード:もう一度モードレバーを右に回し、電源を入れます。

ディスプレイオフが働いたとき

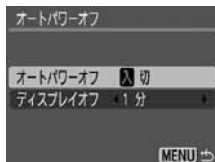
任意のボタンを押すと液晶モニター(またはビューファインダー)が表示されます。

◆ 節電機能が働いて電源が切れても、微量の電力が消費されますのでご注意ください。

◆ スライドショーで自動再生中およびパソコン接続時は、節電機能は働きません(p. 119, 135)。

1 [(設定)]メニューから[節電]を選び、SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

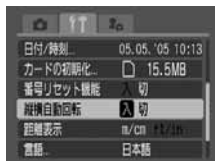
2 ▲▼で[オートパワーオフ]を選び、◀▶で[入]または[切]を選ぶ

3 ▲▼でディスプレイオフを選び、◀▶で設定時間を選ぶ

縦横自動回転の設定をする

モードダイヤル
AUTO SCN P Tv Av M

このカメラにはSI(Super Intelligent)センサーが装備されており、縦位置で撮影した画像は、再生時に正しい縦位置に回転して表示されます。この機能の入 / 切を設定できます。

1 [(設定)]メニューから[縦横自動回転]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 ◀▶で[入]を選び、MENUボタンを押す

- 撮影または再生画面に戻ります。
- [入]に設定すると、撮影モードで液晶モニター(またはビューファインダー)が「情報表示あり」のとき、画面右上にカメラの向きを示すアイコン(:通常、 :右が下、 :左が下)が表示されます。

- **カメラを真上や真下に向けて撮影すると、正しく機能しない場合があります。アイコン( )を確認し、正しく天地を判断しない場合は[切]にしてお使いください。**
- **縦横自動回転の設定が[入]のときに縦位置で撮影した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。**

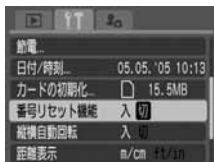
このカメラは、縦位置で構えて撮影する場合、SIセンサーにより上側を「天」、下側を「地」と判断し、縦位置に最適なフォーカス、露出、ホワイトバランス制御を行います。この機能は縦横自動回転の入/切に関係なく有効です。

画像番号をリセットする

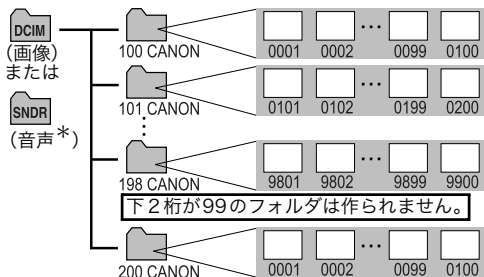
撮影した画像には、自動的に画像番号が付きます。その画像番号の設定方法を選択します。

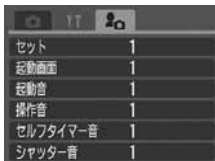
入	新しいメモリーカードを入れるたびに、画像番号が初期値(100-0001)に戻ります。記録済みのメモリーカードを入れたときは、続きの番号になります。
切	最後に撮影した画像の画像番号が記憶され、新しいメモリーカードを入れても続きの画像番号になります。

1 [(設定)]メニューから[番号リセット機能]を選ぶ

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 ◀▶で[入]または[切]を選び、MENUボタンを押す

◆ 番号リセット機能を[切]にして撮影すると、画像番号が重複しないため、パソコンでまとめて管理するような場合に便利です。

◆ **画像番号、音声番号およびフォルダ番号について**
撮影した画像や音声には、0001〜9900までの画像あるいは音声番号が割り振られ、各フォルダには、100〜998までの番号が割り振られます(下2桁が99のフォルダは作られません)。

(*サウンドレコーダーで録音した音声)

◆ **ファイル数について**
ひとつのフォルダに100画像ずつ保存されます。
ただし、連続撮影やスティッチアシストモードで撮影した画像は、必ずひとつのフォルダに保存されるため、フォルダ内に101画像以上保存されることがあります。また、他のカメラで撮影したり、パソコンから画像をコピーすると、ひとつのフォルダ内に101画像以上を保存できます。

カメラを自分好みにする(マイカメラ機能)

カメラの起動画面や起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音を「マイカメラコンテンツ」と呼びます。このカメラでは起動画面や音をそれぞれ3種類から選べます。

マイカメラコンテンツを変更する

1 MENUボタンを押し、▶を2回押す

[(マイカメラ)] メニューが表示されます。

2 ▲▼でメニュー項目を選び、◀▶で設定したいコンテンツを選ぶ

- すべて同じコンテンツに設定したいときは、一番上の[セット]を選びます。
  - :切(表示や音が出なくなります)
  - 1:一般
  - 2:SF関連
  - 3:動物関連
- 2 3 に登録されているコンテンツは変更できます(p. 129)。

3 MENUボタンを押す

メニューが終了し、設定が有効になります。
シャッターボタンを半押ししてもメニューを終了できます(撮影モードになります)。

マイカメラメニューでコンテンツを選択していても、[(設定)]メニューの[消音]が[入]になっているときは、警告音以外の音は鳴りません。起動画面は表示されます(p. 79)。

マイカメラコンテンツを新規登録する

には、新しいコンテンツを登録できます。

メモリーカードに記録してある画像や新たに録音した音声を、マイカメラコンテンツとしてその場ですぐに登録できます。付属のソフトウェアを使うと、パソコンにある画像や音声、オンラインサービス（CANON iMAGE GATEWAY）（p. 132）からダウンロードしたコンテンツをカメラに登録することもできます。
コンテンツを登録できる項目は、次のとおりです。

・起動画面　　・起動音　　・操作音
・セルフタイマー音　・シャッター音

メモリーカード内の画像や音声は、以下の手順で登録できます。

1 モードレバーを（再生）側に回す

撮影モードでは登録できません。

2 MENUボタンを押し、▶を2回押す

[（マイカメラ）] メニューが表示されます。

3 ▲▼で登録したいメニュー項目を選び、◀▶でまたはを選ぶ

（DISP.）が表示されます。

4 DISP.ボタンを押す

起動画面または音声を登録する画面が表示されます。

［起動画面］を登録するとき

- ◀▶で登録したい画面を選び、**SET** ボタンを押します。

[起動音] [操作音] [セルフタイマー音] [シャッター音] を登録するとき

- ◀▶ で ● (録音)を選び、**SET** ボタンを押します。録音が開始され、録音時間が経過すると自動的に録音が終了します。各コンテンツの録音時間は、次のとおりです。

  起動音:1 秒　　操作音:0.3 秒

  セルフタイマー音:2 秒　　シャッター音:0.3 秒

- ◀▶ で (登録)を選び、**SET**ボタンを押します。

5 ◀▶ で [OK] を選び、SETボタンを押す

- **動画、音声メモ機能(p. 116)やサウンドレコーダー機能(p. 117)で記録した音声は、マイカメラコンテンツに登録できません。**
- **新しいマイカメラコンテンツを登録すると、以前に登録されていたコンテンツは消去されます。**

マイカメラコンテンツを初期設定に戻すには、パソコンが必要です。付属のソフトウェア(ZoomBrowser EX/ImageBrowser)を使い、初期設定のコンテンツをカメラに登録してください。

マイカメラコンテンツに登録できるデータ

マイカメラコンテンツは、以下のタイプにしたがっていることが必要です。ただし、このカメラで撮影したメモリーカード内の画像は、下記タイプに関係なく登録できます。

- **起動画面**
  - 圧縮方法　JPEG(ベースラインJPEG)
  - サンプリングレート　4:2:0 または4:2:2
  - 画像サイズ　320 × 240画素
- **起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音**
  - 圧縮方法　WAVE(モノラル)
  - 量子化ビット　8bit
  - サンプリング周波数　11.025kHzまたは8.000kHz

- 記録時間

	11.025kHz	8.000kHz
起動音	1.0 秒以下	1.3 秒以下
操作音	0.3 秒以下	0.4 秒以下
セルフタイマー音	2.0 秒以下	2.0 秒以下
シャッター音	0.3 秒以下	0.4 秒以下

上記タイプ以外は、カメラに登録できません。

たとえば[セルフタイマー音]に「はい、チーズ！」などの掛け声を登録すると、シャッターが切れる2秒前にカメラが発声し、また他にもさまざまな音をお楽しみいただけます。陽気なリズムの音楽を登録すれば、目元もほころび、自然な笑顔を撮影できるかもしれません。演奏に合わせてポーズを決めるのも、マイカメラならではの撮影方法です。

マイカメラコンテンツの登録、作成についての詳細は、付属のソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

CANON iMAGE GATEWAYを利用する

CANON iMAGE GATEWAY は、キヤノンのデジタルカメラを購入された方がお使いになれるオンラインフォトサービスです。オンラインで会員登録(無料)されると、いろいろなサービスがご利用いただけます。

http://www.imagegateway.net/

- 最新のサービス内容は、上記のサイトでご確認いただけます。
- 会員登録方法は、上記のサイト、またはソフトウェアクイックガイドでご確認いただけます。

＊インターネットに接続できる環境(プロバイダとの契約やブラウザソフトのインストール、各種回線接続が完了済み)が必要です。
＊プロバイダとの接続料金、およびプロバイダのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

CANON iMAGE GATEWAYの会員になるとできること

ー次のサービスをご利用いただけますー

バージョンアップなどサポート情報の電子メール配信サービス(無料)

登録されたカメラのファームウェア/ソフトウェアのバージョンアップに関する最新情報を、ご希望の方にお知らせいたします。

オンラインアルバムサービス(無料)

- 撮影した静止画や動画＊をCANON iMAGE GATEWAYにアップロードし、ネット上にご自分のアルバムを作成できます。
- 画像につけたコメントや音声もアップロードできますので、オリジナルのアルバムをお楽しみいただけます。

＊動画をアップロードするには、追加ソフトウェア(無料)を CANON iMAGE GATEWAY からダウンロードし、事前にパソコンにインストールすることが必要です。

携帯電話アルバム通知・閲覧サービス（無料）

- お友達やご家族のパソコンや携帯電話に、作成したアルバムのURLをメールで知らせることができます。
  オンラインアルバムは、メールで通知されたURLからパソコンや携帯電話で直接見られるので、楽しい思い出を共有できます*（パソコンからは動画も閲覧できます）。
- 携帯電話は、お使いの機種に合わせて画像の大きさや色数が自動的に調整されます。

＊携帯電話の通信料金は使用された方のご負担となります。また、カラー表示可能な携帯電話をご利用ください。

ホームプリンティングサービス（無料）

画面上の印刷ボタンを押すだけで、オンラインアルバム上のお好きな画像を、対応のキヤノン製プリンターで印刷できます*。ご自身だけでなく、お知らせメールを受けたお友達やご家族の方にもご利用いただけます。

＊ご利用の際には、プラグインモジュールをCANON iMAGE GATEWAYからダウンロードして、パソコンにインストールすることが必要です。

プリント注文サービス（有料）

- オンラインアルバムの画像は、インターネットから24時間、いつでもプリント注文できます。
- ご自身だけでなく、公開されたアルバムを見たお友達やご家族の方も注文できます。
- プリントサイズはDP判、L判、2L判、A4判、A3判、ポストカード、オリジナル写真集「マイブック」に対応しています。
- プリントや写真集は、提携のプリントサービス会社から指定の場所に配送されます。

- 代金はクレジットカード、もしくは最寄りのコンビニエンスストアに設置されているマルチメディア端末を使って（コンビニ決済）、簡単にお支払いいただけます。
- 携帯電話からも、DP判、L判、2L判のプリントが注文できます。

オリジナル写真集（フォトブック）作成サービス（有料）

- CANON iMAGE GATEWAYからフォトブックエディタをダウンロードし（無料）、撮影したお気に入りの画像とテンプレートを選択して、ご自身のパソコンで簡単に写真集のコンテンツを編集できます。編集したデータをCANON iMAGE GATEWAYに送信し、写真集を注文すると、プリント/製本して、ご指定の場所にお届けします。
- 写真集のテンプレートは、随時、新しいデザインのものが追加されます。
- 代金はクレジットカード、もしくは最寄りのコンビニエンスストアに設置されているマルチメディア端末を使って（コンビニ決済）、簡単にお支払いいただけます。

マイカメラコンテンツのダウンロード（無料）

- マイカメラコンテンツをダウンロードし、カメラに登録できます。
- 多彩なコンテンツが用意されていますので、お好きなものをダウンロードしてカメラに登録すれば、ご自分だけのオリジナルカメラをお楽しみいただけます。

＊画面例はWindows XP用です。また、最新の画面表示と異なることがあります。

パソコンへの画像の取り込み

カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む方法は次のとおりです。

お使いのOSによっては利用できない方法があります。あらかじめ「パソコンに必要なシステム構成」(p. 136)でご確認ください。

カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

Windows 98 SE　Windows Me　Windows 2000　Windows XP　Mac OS X

ソフトウェアをインストールし、パソコンの操作で画像を取り込む

⇨「カメラとパソコンを接続する(p. 136)」、別冊のソフトウェアクイックガイド

Windows 98 SE　Windows Me　Windows 2000　Windows XP　Mac OS X

ソフトウェアをインストールし、カメラのボタン操作で画像を取り込む(初回のみパソコンの設定が必要)

⇨「カメラとパソコンを接続する(p. 136)」、「ダイレクト転送で画像を取り込む(p. 141)」

Windows XP　Mac OS X

ソフトウェアをインストールせずに、パソコンの操作で画像を取り込む

⇨「カメラとパソコンを接続する(p. 136)」(ソフトウェアのインストールは必要ありません)、「ソフトウェアをインストールせずに、カメラとパソコンを接続して画像を取り込む(p. 143)」

メモリーカードから画像を取り込む

⇨「メモリーカードから画像を取り込む(p. 143)」

パソコンに必要なシステム構成

●Windows

OS	Windows 98 Second Edition (SE) Windows Me Windows 2000 Service Pack 4 Windows XP（Service Pack 1、Service Pack 2 を含む）
機種	上記 OS がプリインストールされていて、USB ポートが標準装備されていること
CPU	Pentium 500MHz 以上
RAM	Windows 98 SE / Windows Me　：128MB 以上 Windows 2000 / Windows XP　：256MB 以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	● Canon Utilities -ZoomBrowser EX：　250MB 以上 （印刷ソフトウェア PhotoRecord 含む） -PhotoStitch：　40MB 以上 ● Canon Camera TWAIN Driver　：25MB 以上 ● Canon Camera WIA Driver　：25MB 以上 ● ArcSoft PhotoStudio　：50MB 以上
ディスプレイ	1,024 × 768 ドット High Color（16bit）以上

●Macintosh

OS	Mac OS X（v10.1.5 ～ v10.3）
機種	上記 OS がプリインストールされていて、USB ポートが標準装備されていること
CPU	PowerPC G3/G4/G5
RAM	256MB 以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	● Canon Utilities -ImageBrowser：　200MB 以上 -PhotoStitch：　40MB 以上 ● ArcSoft PhotoStudio　：　50MB 以上
ディスプレイ	1,024 × 768 ドット 32,000 色 以上

重要

カメラとパソコンを接続する前に、必ず付属のCanon Digital Camera Solution Diskに収められているドライバとソフトウェアをインストールしてください。

- ドライバとソフトウェアをインストールする前にカメラとパソコンを接続すると、カメラが正しく認識されません。このような場合には、ソフトウェアクイックガイドの「困ったときには」をご覧ください。
- 必要なシステム構成を満たした、パソコンのすべての動作を保証するものではありません。

- インターフェースケーブルを接続するときに、カメラやパソコンの電源を切る必要はありません。
- パソコンのUSBポートの位置は、お使いのパソコンの取扱説明書で確認してください。
- カメラをパソコンに接続する場合、フル充電したバッテリーまたはコンパクトパワーアダプターキット CA-PS700(別売)をお使いになることをおすすめします(p. 168, 171)。

Windowsの場合

1 Canon Digital Camera Solution Diskから、ドライバとソフトウェアをインストールする(初回時のみ)

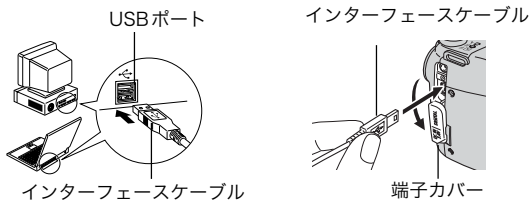
インストールの手順は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

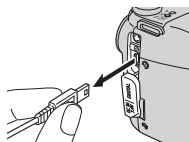
2 付属のインターフェースケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのDIGITAL端子を接続する

- カメラの端子カバーの上端に爪をかけて手前に開き、インターフェースケーブルを奥まで押し込みます。

●接続部周辺に注意しながら、インターフェースケーブルを抜き差ししてください。

インターフェースケーブル

端子カバー

●カメラのDIGITAL 端子からインターフェースケーブルを取り外すときは、必ず、コネクターの側面を持って取り外してください。

●パソコンへの接続が完了すると、液晶モニター（またはビューファインダー）が消え、電源/モードランプが黄色に点滅します。

3 パソコンに表示されるイベントダイアログで、[Canon CameraWindow]を選んで[OK]をクリックする（初回操作時のみ）

イベントダイアログが表示されない場合は、スタートメニューから[プログラム]または[すべてのプログラム]＞[CanonUtilities]＞[CameraWindow]＞[CameraWindow]をクリックします。

右のウィンドウが表示されます。

ソフトウェアを使ってパソコンの操作で画像を取り込む場合:
⇨ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
カメラの操作で画像を取り込む(ダイレクト転送)場合:
⇨「ダイレクト転送で画像を取り込む(p. 141)」をご覧ください。

Macintoshの場合

1 Canon Digital Camera Solution Diskから、ドライバとソフトウェアをインストールする(初回時のみ)

インストールの手順は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

2 ImageBrowserの自動起動の設定を行う

- カメラとパソコンをはじめて接続するときには、カメラとパソコンを接続する前に、ImageBrowser の自動起動の設定を行ってください。
- 2回目以降の接続時には、この操作は必要ありません。

■ ImageBrowser の自動起動の設定－ OS X(v10.2 / v10.3)の場合

1. イメージキャプチャを起動し、[イメージキャプチャ]メニュー＞[環境設定]を選択する

2. [カメラを接続したときに起動する項目]のリストボックスから[その他]を選択する

3. アプリケーションを選択するウィンドウで[CameraWindow]を選択する
通常、[CameraWindow]は、[アプリケーション]フォルダ＞[Canon Utilities]フォルダ＞[CameraWindow]フォルダにインストールされています。
4. [OK]をクリックした後、イメージキャプチャを終了する

■ImageBrowser の自動起動の設定ー OS X(v10.1)の場合
1. Image Capture(イメージキャプチャ)を起動し、[ホットプラグ時の動作]のリストボックスから[その他]を選択する

2. アプリケーションを選択するウィンドウで[CameraWindow]を選択する
通常、[CameraWindow]は、[アプリケーション]フォルダ＞[Canon Utilities]フォルダ＞[CameraWindow]フォルダにインストールされています。
3. Image Captureを終了する

3 p. 137の手順2を操作する

以下のウィンドウが表示されます。

ソフトウェアを使ってパソコンの操作で画像を取り込む場合:
⇨ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
カメラの操作で画像を取り込む(ダイレクト転送)場合:
⇨「ダイレクト転送で画像を取り込む(p. 141)」をご覧ください。

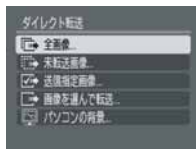
ダイレクト転送で画像を取り込む

カメラの操作で画像を取り込めます。初めてダイレクト転送で画像を取り込むときは、付属のソフトウェアを最初にインストールし、パソコンの設定をしておいてください(p. 135)。

	全画像	すべての画像をパソコンに取り込み、保存します。
	未転送画像	まだ取り込んでいない画像だけをパソコンに取り込み、保存します。
	送信指定画像	送信指定(p. 152)した画像だけをパソコンに取り込み、保存します。
	画像を選んで転送	画像を見ながら 1 画像ずつパソコンに取り込み、保存します。
	パソコンの背景	画像を見ながら、パソコンのデスクトップの背景にしたい画像を取り込みます。取り込んだ画像は、パソコンのデスクトップに背景として表示されます。

1 カメラの液晶モニターにダイレクト転送画面が表示されていることを確認する

- ボタンが青色に点灯します。
- ダイレクト転送画面が表示されない場合は、MENU ボタンを押してください。

9 いろいろな活用法

■[全画像][未転送画像][送信指定画像]のとき

2 ▲▼ボタンで、、のいずれかを選び、ボタンを押す

- 取り込みを中止するときは、SETボタンを押してキャンセルします。
- 画像が取り込まれます。取り込み中は、ボタンが青色に点滅します。取り込みが終了するとダイレクト転送画面に戻ります。

■[画像を選んで転送][パソコンの背景]のとき

2 ▲▼ボタンでまたはを選び、ボタン(またはSET ボタン)を押す

3 ◀▶ボタンで取り込みたい画像を選び、ボタン(またはSETボタン)を押す

- 画像が取り込まれます。取り込み中は、ボタンが青色に点滅します。
- インデックス再生(p. 44)に切り換えても、画像を選べます。

4 MENUボタンを押す

ダイレクト転送画面に戻ります。

[パソコンの背景]の場合、JPEG 圧縮の画像のみが取り込まれます。Windowsをお使いの場合は、BMP画像が自動的に作られます。

⎙〜ボタンで選択した項目は、カメラの電源を切っても記憶されます。次回、ダイレクト転送画面を表示したときは、前回設定した項目が選択されます。[画像を選んで転送]と[パソコンの背景]を選択していたときは、直ちに画像を選択する画面が表示されます。

ソフトウェアをインストールせずに、カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

Windows XPまたはMac OS X (v10.1.5〜v10.3)をお使いの場合、OSに標準で組み込まれているソフトウェアを使って、画像を取り込めます。Canon Digital Camera Solution Diskからソフトウェアをインストールする必要がなく、インターフェースケーブルでカメラとパソコンを接続するだけで、会社やお友達のパソコンに画像を取り込めますので、便利です。
ただし、この方法で画像を取り込む場合、いくつかの制限事項があります。詳細は、付属の「Windows® XP、Mac OS Xをお使いの方へ」でご確認ください。

1 付属のインターフェースケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのDIGITAL端子を接続する

(p. 137の手順2をご覧ください。)

2 パソコンに表示されるメッセージにしたがって画像を取り込む

メモリーカードから画像を取り込む

1 カメラからメモリーカードを取り出し、パソコンに接続されたカードリーダーに入れる

カードアダプターやカードリーダーへの接続のしかたなどは、各々の使用説明書でご確認ください。

2 メモリーカードを接続したドライブをダブルクリックして開く

OSによっては、自動的に画面が開きます。

3 撮影した画像をハードディスクの任意の場所にコピーする

画像は、メモリーカード内の [DCIM] フォルダの中の [xxxCANON] フォルダ（xxxは100〜998の数字が入ります）にあります（p. 127）。

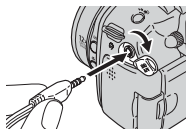
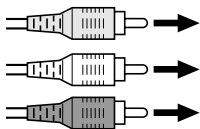
テレビを使って撮影／再生する

付属のステレオビデオケーブル STV-250N をお使いいただくと、テレビに画像を表示して撮影や再生ができます。ビデオ出力形式は、日本国内で採用している NTSC 方式が初期設定になっています。

1 カメラ（p. 23）とテレビの電源を切る

2 カメラのA/V OUT端子にステレオビデオケーブルを接続する

- 端子カバーの左側に爪をかけて手前に開き、ステレオビデオケーブルを奥まで押し込みます。

- 接続部周辺に注意しながら、ステレオビデオケーブルを抜き差ししてください。

3 テレビの映像入力端子と音声入力端子にステレオビデオケーブルを接続する

映像入力端子へ（黄色）

音声入力端子（左）（白色）

音声入力端子（右）（赤色）

4 テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする

5 撮影モードまたは再生モードでカメラの電源を入れる（p. 23）

- テレビに画像が表示されます。通常の撮影や再生ができます。
- 撮影時、テレビに画像が表示されていないときは、**DISP.**ボタンを押します。

- テレビ表示中は、液晶モニター（またはビューファインダー）に画像が表示されません。
- ビデオ出力形式の設定方法（p. 80）
- 海外で使うとき（p. 175）
- （スティッチアシスト）では使用できません。

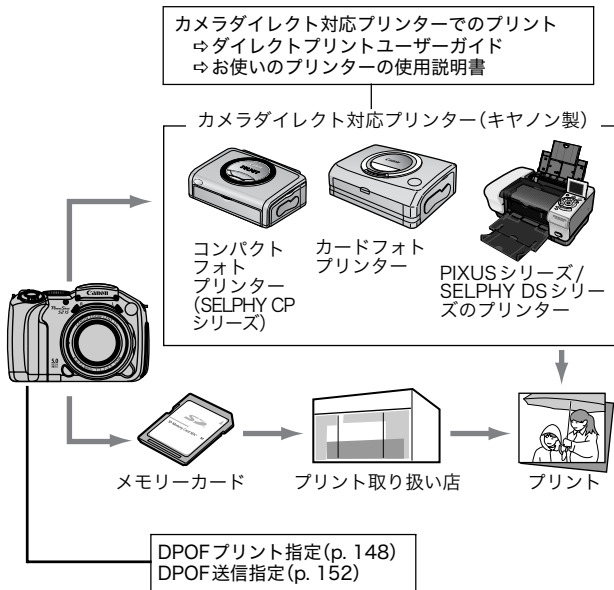
プリントについて

このカメラで撮影した画像は、次の方法でプリントできます。

- カメラとカメラダイレクト対応プリンター[*1]をケーブルで直接つなぎ、カメラの⎙〜ボタンを押すだけで簡単にプリントできます。
- プリントする画像や枚数などを、あらかじめカメラで設定(DPOF[*2]プリント指定)しておけば、メモリーカードをプリント取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定どおりにプリントできます。

＊1 このカメラは標準規格「PictBridge(ピクトブリッジ)」に対応していますので、キヤノン製のコンパクトフォトプリンター(SELPHY CP シリーズ)やカードフォトプリンター、PIXUS シリーズ、SELPHY DS シリーズのほか、キヤノン製以外の PictBridge 対応プリンターでもプリントできます。

＊2 Digital Print Order Formatの略

本書ではDPOFのプリント指定を説明しています。プリント方法は、別冊のダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。また、お使いのプリンターの使用説明書もご覧ください。

■このカメラで使えるプリンターについて

- カメラダイレクト対応コンパクトフォトプリンター(SELPHY CPシリーズ)、カードフォトプリンター
  ➔システムマップ
- カメラダイレクト対応PIXUSシリーズ/SELPHY DSシリーズのプリンター
  ➔裏表紙に記載されているホームページ
  インクジェットプリンタ総合カタログ
  キヤノン販売お客様相談センター

DPOFのプリント指定

メモリーカードに記録されている画像の中から、プリントする画像や枚数をあらかじめカメラで指定できます。カメラダイレクト対応プリンターで一括してプリントするときや、プリント取り扱い店に注文するときに大変便利です。
プリンターからプリントする方法は、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

- DPOF対応の他のカメラでプリント指定されたメモリーカードの場合、⚠が表示されます。このカメラでそれらのプリント指定を変更すると、設定済みのプリント指定は、すべて書き換えられます。
- プリンターまたはプリント取り扱い店によっては、指定内容が反映されないことがあります。
- 動画はプリント指定できません。

プリントする画像を選ぶ

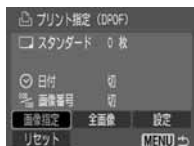
画像の指定には、次の2つの方法があります。

- 1画像ずつ指定する
- メモリーカード内のすべての画像を指定する

1 [▶(再生)]メニューから[プリント指定]を選び、SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 ▲▼◀▶で[画像指定]を選び、SETボタンを押す

[リセット]を選ぶと、プリント指定された画像をすべて解除します。

3 プリントする画像を選ぶ

1 画像ずつ指定するとき

- プリントタイプ(p. 150)が[スタンダード] / [両方]の場合、◀▶で画像を選びます。
  SETボタンを押し、▲▼でプリント枚数を指定したあと、**SET**ボタンを押します。(最大99枚まで)。
  - JUMPボタンを押すと、検索に便利なジャンプバーが表示されます(p. 46)。指定、指定の解除は、MENUボタンを押し、ジャンプバーを消してから、SETボタンを押して行います。

プリント枚数

- プリントタイプ(p. 150)が[インデックス]の場合、◀▶で画像を選び、**SET**ボタンを押して、指定、指定解除を行います。指定されると、チェックマークが付きます。
  - ズームレバーを▦側に回してインデックス再生(9画像表示)に切り換えても、同じ方法で指定できます(もう一度ズームレバーを▦側に回すと、9画面ずつジャンプできます。ズームレバーを🔍に回してジャンプバーを消してから、指定、指定解除を行います)。

メモリーカード内のすべての画像を指定するとき

- 手順2で[全画像]を選び、**SET**ボタンを押します。◀▶で[OK]を選んで**SET**ボタンを押すと、すべての画像に対して1枚ずつプリント指定します。
- [リセット]を選ぶと、すべての指定を解除します。
- [全画像]または[リセット]を行ったあと、1画像ずつ指定するときと同じ手順で、特定の画像のプリント枚数を変更できます。

4 MENUボタンを押す

プリント指定が終了し、プリント指定メニューに戻ります。

- 撮影日時の古い画像から順にプリントされます。
- 最大998画像まで指定できます。
- [プリントタイプ]が[両方]の場合、プリント枚数は指定できますが、[インデックス]の場合は指定できません。[インデックス]では1枚のみプリントされます。
- 付属のソフトウェア(ZoomBrowser EXまたはImageBrowser)を使ってプリント指定ができます。

プリントスタイルを設定する

プリントする画像を選んでから、プリントスタイルを指定してください。

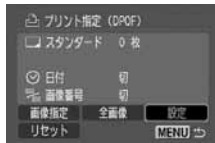
次の内容を指定できます。

プリントタイプ	スタンダード	ペーパー1 枚に 1 画像をプリントします。
	インデックス	画像を縮小してインデックス形式でプリントします。
	両方	スタンダードとインデックスの両方をプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。
画像番号		画像番号を入れてプリントします。

1 [(再生)]メニューから[プリント指定]を選び、SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた(p. 74)

2 ▲▼◀▶で[設定]を選び、SETボタンを押す

[リセット]を選ぶと、画像のプリント指定をすべて解除します。

3 ▲▼で[プリントタイプ]、[日付]、[画像番号]のいずれかを選び、◀▶で設定する

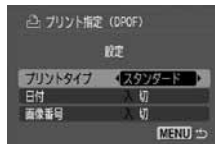
プリントタイプ

- [スタンダード]、[インデックス]、[両方]のいずれかを選びます。

日付

- [入]または[切]を選びます。

画像番号

- [入]または[切]を選びます。

4 MENUボタンを押す

設定が終了し、プリント指定メニューに戻ります。

- [プリントタイプ]が[インデックス]の場合、[日付]と[画像番号]を同時に[入]に設定することはできません。
- [プリントタイプ]を[スタンダード]または[両方]に設定している場合、[日付]と[画像番号]を同時に[入]に設定できます。ただし、お使いのプリンターによって、プリントできる情報が異なることがあります。

日付は、[日付/時刻]で設定した日付スタイルでプリントされます(p. 25)。

画像の送信指定（DPOF送信指定）

パソコンに取り込む画像をあらかじめカメラ側で指定できます。パソコンへの送信方法は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

なお、この指定は、DPOF（Digital Print Order Format）に準拠しています。

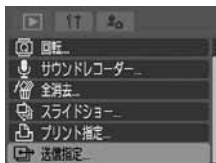
DPOF対応の他のカメラで送信指定されたメモリーカードの場合、▲が表示されることがあります。このカメラでそれらの送信指定を変更すると、設定済みの送信指定は、すべて書き換えられます。

送信する画像を選ぶ

画像の指定には、次の2つの方法があります。

- 1画像ずつ指定する
- メモリーカード内のすべての画像を指定する

1 [▶（再生）] メニューから [送信指定] を選び、SETボタンを押す

メニューの選択と設定のしかた（p. 74）

2 ◀▶ で [画像指定] を選び、SETボタンを押す

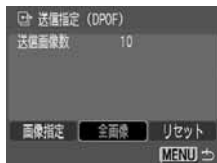
[リセット] を選ぶと、画像の送信指定をすべて解除します。

3 送信する画像を選ぶ

1 画像ずつ指定するとき

- ◀▶ で画像を選び、SET ボタンで指定または指定解除を設定します。指定されるとチェックマーク(✓)が付きます。
- JUMPボタンを押すと、検索に便利なジャンプバーが表示されます(p. 46)。指定、指定の解除は、MENUボタンを押し、ジャンプバーを消してから、SETボタンを押して行います。
- ズームレバーを▦ 側に回してインデックス再生(9画像表示)に切り換えても、同じ方法で指定できます(もう一度ズームレバーを▦ 側に回すと、9画面ずつジャンプできます。ズームレバーを🔍 に回してジャンプバーを消してから、指定、指定解除を行います)。

メモリーカード内のすべての画像を指定するとき

- 手順 2 で[全画像]を選び、SET ボタンを押します。◀▶ で[OK]を選んで SET ボタンを押すと、すべての画像を指定します。
- [リセット]を選ぶと、すべての指定を解除します。

4 MENUボタンを押す

送信指定が終了し、送信指定メニューに戻ります。

- ◆ 撮影日時の古い画像から順に送信されます。
- ◆ 最大998画像まで指定できます。

メッセージ一覧

撮影または再生中に液晶モニター(またはビューファインダー)に表示されるメッセージには以下のものがあります。
プリンターを接続しているときに表示されるメッセージについては、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

処理中 ...

撮影した画像をメモリーカードに記録しています。再生モードを起動中です。
カメラやメニューの設定を初期設定に戻しています。

カードがありません

メモリーカードがカメラに入っていないときに、撮影または再生しようとしました。

ライトプロテクト

メモリーカードがライトプロテクト(書き込み禁止)されています。(p. 18)

記録できません

メモリーカードがカメラに入っていないのに撮影しようとしました。

カードが異常です

メモリーカードに異常があります。

カードがいっぱいです

メモリーカードの容量いっぱいに画像や音声が記録されていて、これ以上記録や保存ができません。または、これ以上画像指定(スライドショーやプリントなど)や音声メモはできません。

ファイル名が作成できません

カメラが作成しようとするディレクトリと同じ名前のファイルが存在する、すでに画像番号が最大値になってしまった、もしくは、音声だけのデータが容量いっぱいまで記録されているために、ファイル名を作成できません。設定メニューで[番号リセット機能]を[入]に設定してください。必要な画像、あるいは音声をパソコンに取り込んだ後、メモリーカードを初期化してください(p. 20)。なお、初期化するとメモリーカード内の画像およびデータはすべて消去されます。

バッテリーを交換してください

電池の残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに 4 本ともすべて新しい単 3 形アルカリ電池(p. 16)に交換するか、充電されたキヤノン製の単 3 形ニッケル水素電池に交換してください。

画像がありません

メモリーカードに画像が記録されていません。

画像が大きすぎます

4992 × 3328 画素より大きなサイズの画像、またはファイルサイズの大きな画像を再生しようとしました。

互換性のない JPEG です

互換性のない JPEG 圧縮の画像を再生しようとしました。

データが壊れています

データの破壊されている画像を再生しようとしました。

RAW

RAW タイプで記録された画像を再生しようとしました。

認識できない画像です

特殊なタイプ(他社カメラ特有の記録タイプなど)で撮影した画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。

拡大できない画像です

別のカメラもしくは異なるタイプで撮影した画像、いったんパソコンに取り込んで加工した画像、または動画を拡大しようとしました。

回転できない画像です

別のカメラもしくは異なるタイプで撮影した画像、いったんパソコンに取り込んで加工した画像、または動画を回転しようとしました。

互換性のない WAVE です

録音済みの音声メモ、または音声のタイプが正しくないので、この画像に追加録音できません。

登録できない画像です

このカメラ以外で撮影した画像、または動画を起動画面に登録しようとしました。

プロテクトされています

プロテクトされている画像、動画、または音声を消去しようとしました。

指定が多すぎます

プリント指定、送信指定、またはスライドショーの画像指定が多すぎます。これ以上指定できません。

指定完了できませんでした

プリント指定、送信指定、またはスライドショーの画像指定を保存できませんでした。

指定できない画像です

JPEG 以外の画像をプリント指定しようとしました。

編集できません

スライドショー指定ファイルが壊れています。

Exx

カメラに異常が発生しました。いったん電源を入れ直して、再び撮影または再生してください。頻繁に、このエラーコードが表示されるときは、故障ですので「xx」の数値を控えてサービスセンターへお持ちください。また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、再生モードに切り換えてご確認ください。

故障かなと思ったら

カメラが動作しない

電源が入っていません。	● 電源を入れてください。 →「電源を入れる / 切る」(p. 23)
メモリーカードスロットカバーまたはバッテリーカバーが開いています。	● メモリーカードスロット またはバッテリーカバーがしっかり閉じていることを確認してください。
電池が逆向きに入っています。	● 電池を正しい方向に入れ直してください。
電池の電圧が足りません。	● 未使用の単 3 アルカリ電池、または十分に充電したキヤノン製の単 3 形ニッケル水素電池に 4 本とも交換してください。またはコンパクトパワーアダプターを使用してください。
不適切な電池が入っています。	● 未使用の単3形アルカリ電池、または十分に充電したキヤノン製の単 3 形ニッケル水素電池を入れてください。 →「電池の取り扱いについて」(p. 16)
カメラと電池の接触不良です。	● 電池の電極を乾いたきれいな布で拭いてください。

撮影ができない

再生モード、またはパソコン接続 / プリンター接続モードになっています。	● モードレバーを左に回す、またはシャッターボタンを半押しして、撮影モードに切り換えてください。 ● パソコン接続 / プリンター接続モード時は、インターフェースケーブルを抜いてから撮影モードに切り換えてください。
ストロボが充電中です。(液晶モニター/ ビューファインダーの ϟ が白で点滅表示)	● 充電が完了すると、液晶モニター/ ビューファインダーの ϟ の点滅が点灯に変わります。その後、シャッターボタンを押してください。

メモリーカードの空き容量がありません。	● 初期化した新しいメモリーカードを入れてください。 ● 必要であれば、メモリーカードに記録されている画像をパソコンに取り込んでから画像を消去し、空き容量を増やしてください。
メモリーカードが正しく初期化されていません。	● メモリーカードを初期化してください。 →「メモリーカードを初期化する」(p. 20) ● メモリーカードの論理フォーマットが壊れている可能性があります。最寄りのキヤノンサービスセンターにお問い合わせください。
メモリーカードがライトプロテクト(書き込み禁止)されています。	● メモリーカードのライトプロテクトスイッチを上にスライドしてください。 →「メモリーカードを入れる」(p. 18)
再生ができない	
他のカメラで撮影した画像やパソコンで編集した画像を再生しようとしました。	● 付属の ZoomBrowser EX や ImageBrowser を使って、再生できない画像をパソコンからカメラに追加すると、再生できることがあります。詳細は ZoomBrowser EX / Image-Browser のソフトウェアガイド(PDF)をご覧ください。
ファイル名をパソコンで変更したり、ファイルの場所を変更しました。	● ファイル名およびフォルダ番号は、DCF の規格に従ったファイル名にしてください。 →「画像番号およびフォルダ番号について」(p. 127)
レンズが出たままで収納されない	
電源を入れたまま、バッテリーカバーまたはメモリーカードスロットカバーを開けました。	● バッテリーカバーまたはメモリーカードスロットカバーを閉じた後、電源を切ってください。

メモリーカードへの記録中に、バッテリーカバーまたはメモリーカードスロットカバーを開けました(警告音が鳴ります)。	● バッテリーカバーまたはメモリーカードスロットカバーを閉じた後、電源を切ってください。
撮影モードから再生モードに切り換えました。	● この場合はレンズが収納されません。レンズを収納するときは、もう一度モードレバーを右に回してください。

電池の消耗が早い

不適切な電池が入っています。	● 未使用の単 3 形アルカリ電池または、十分に充電したキヤノン製の単 3 形ニッケル水素電池を入れてください。 →「電池の取り扱いについて」(p. 16)
周囲の温度が低いために電池の容量が低下しています。	● 温度が比較的低い場所で撮影する場合には、ポケットなどに電池を入れて、温めてからお使いください。
電池の電極が汚れています。	● 電極を乾いた布などで拭いてからお使いください。
1 年以上お使いにならなかったために、充電池の容量が低下しています。	● フル充電して使い切ることを数回繰り返すうちに容量が回復します。
充電池の寿命です。	● 4 本ともすべて新しい充電池と交換してください。

別売のバッテリーチャージャーで充電できない

電池が逆向きに入っています。	● 電池を正しい方向に入れ直してください。

充電池とバッテリーチャージャーの接触不良です。	● 充電池をバッテリーチャージャーにしっかりとセットしてください。 ● 電源コードをバッテリーチャージャーのコネクターと電源コンセントに奥までしっかり差し込んでください。
電池の電極が汚れています。	● 電極を乾いた布などで拭いてから充電してください。
充電池の寿命です。	● 4本ともすべて新しい充電池と交換してください。

カメラ内部で音がする

カメラの縦・横の向きが変わりました。	● カメラの向きを検出する機構が働いています。カメラの故障ではありません。

画像がぼやけている / ピントがあまい

カメラが動いています。	● シャッターボタンを押すときに、カメラを動かさないように注意してください。 ● シャッタースピードが遅く（手ぶれ警告）が表示されたときは、三脚をお使いください。 ● 手ぶれ補正機能を[入]にしてください。
AF 補助光投光部が何かで覆われているため、AF が機能していません。	● AF 補助光投光部に指などがかからないように注意してください。
AF 補助光の設定が[切]になっています。	● AF 補助光の設定を[入]にしてください(p. 77)。
被写体がピントの合う範囲からはずれています。	● 通常撮影時は被写体から 50cm 以上離してください。 ● マクロモード時は被写体から 10cm ～ 50cm（ワイド端のとき）の距離で撮影してください。 ● スーパーマクロモード時は被写体から 0 ～ 10cm（ワイド端固定）の距離で撮影してください。

ピントが合いにくい被写体です。	● フォーカスロック、AF ロック、またはマニュアルフォーカスで撮影してください。 →「ピントが合いにくい被写体を撮る」(p. 110)

撮影した画像の被写体が暗すぎる

撮影時の光量が不足しています。	● 内蔵ストロボを上げて発光にしてください。
被写体が周辺部に比べて暗すぎます。	● 露出補正値をプラス側に設定してください。 ● AE ロックまたはスポット測光機能をお使いください。 →「露出を固定して撮る(AE ロック)」(p. 103) →「測光方式を切り換える」(p. 89)
被写体が遠すぎてストロボ光が届いていません。	● 内蔵ストロボをお使いになるときは、ストロボ到達範囲内に被写体を置いてください。 感度オート時:0.7 ～ 5.2m(ワイド端)/4.0m(テレ端) ● ISO 感度を上げて撮影してください。 →「ISO 感度を変更する」(p. 93)

撮影した画像の被写体が明るすぎる

被写体が近すぎてストロボ光が強すぎます。	● ストロボをお使いになるときは、カメラを被写体から 70cm(マクロは 30cm)以上離してください。 ● ストロボをお使いになるときは、ストロボ調光補正、またはストロボ発光量を調節(p. 106)してください。
被写体が周辺部に比べて明るすぎます。	● 露出補正値をマイナス側に設定してください。 ● AE ロックまたはスポット測光機能をお使いください。 →「露出を固定して撮る(AE ロック)」(p. 103) →「測光方式を切り換える」(p. 89)

照明が直接、もしくは被写体の表面で反射してカメラに入っています。	● 被写体に対するカメラのアングルを変えてください。
ストロボが常時発光になっています。	● ストロボを下げて発光禁止にしてください。

液晶モニターに赤紫などの帯が縦に表示される

被写体が極端に明るすぎます。	● CCD 特有の現象で、カメラの故障ではありません。（動画にはこの帯が記録されますが、静止画には記録されません。）

液晶モニターにノイズが表示される / 液晶モニターに表示される被写体の動きがぎこちない

暗い場所で撮影をする場合、液晶モニターを見やすくするために、カメラが自動的に液晶モニターに映し出される画像を明るくしました。	● 記録される画像に影響はありません。 →「ナイトビュー機能について」（p. 28）

画像に白い点などが写る

ストロボ撮影時に空気中のちりやほこり、虫などにストロボ光が反射しました。特に以下の条件で目立ちやすくなります。 ● ワイド側で撮影した場合 ● 絞り優先 AE で絞り数値を大きくして撮影した場合	● デジタルカメラ特有の現象で、カメラの故障ではありません。

ストロボが発光しない

ストロボが発光禁止になっています。	● ストロボを上げて発光してください。 →「ストロボを使って撮る」（p. 40）

テレビに正しく出力できない

お使いの地域のビデオ出力形式に合っていません。	● 正しいビデオ出力形式（NTSC または PAL）に合わせてください。 ● 日本国内の出力形式は「NTSC」です。 →「設定メニュー」（p. 79）
（スティッチアシスト）で撮影しています。	● ではテレビに出力できません。他の撮影モードで撮影してください。

メモリーカードからの画像の読み出しが遅い / メモリーカードへの画像の記録時間が長い

違う機器で初期化したメモリーカードが入っています。	● このカメラで初期化したメモリーカードをお使いください。 →「メモリーカードを初期化する」（p. 20）

レンズ(別売)を使う

別売のレンズアダプター/フードセット LAH-DC20には、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58Eと、レンズフードLH-DC40が付属しています。

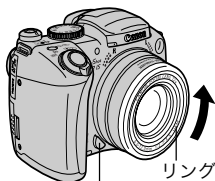
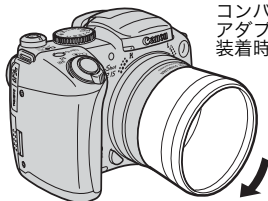
別売のワイドコンバーター WC-DC58A、テレコンバーター TC-DC58B、クローズアップレンズ500D(58cm)を取り付けるときは、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC58E(LAH-DC20に付属)が必要です。
ストロボを使わずに広角側で逆光時に撮影する場合は、画面外の光がレンズに入らないように、レンズフードを取り付けることをおすすめします。

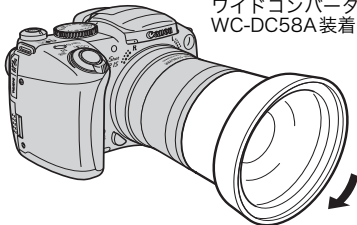
⚠警告

- ワイドコンバーター/テレコンバーター/クローズアップレンズを取り付けるときは確実にねじ込んでください。緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。
- ワイドコンバーター/テレコンバーター/クローズアップレンズは絶対に太陽や強烈なライトに向けないでください。失明の恐れがあります。

- レンズフード装着時に内蔵ストロボを使用すると、画像の周辺部(特に画像右下)が暗くなります。
- ワイドコンバーターは、ワイド端の位置でお使いください。
- テレコンバーターは、テレ端付近でお使いください。それ以外のズーム位置でお使いになると、画像が欠け(ケラレ)ることがあります。
- ワイドコンバーター/テレコンバーターにフィルターやレンズフードは取り付けられません。

レンズ/レンズフードを取り付ける

1 カメラの電源を切り、リング取り外しボタンを押して、レンズ周りのリングを外す

2 コンバージョンレンズアダプターの●をカメラの●印に合わせてから、▲印まで回して取り付ける

- コンバージョンレンズアダプター(レンズフードまたはコンバージョンレンズ)を取り外すときは、リング取り外しボタンを押しながら反対方向に回します。

3 レンズまたはレンズフードを矢印の方向に回して取り付ける

- レンズを取り付けて（スティッチアシスト）で撮影した場合、付属のソフトウェア「PhotoStitch」を使ったパソコンでの合成が正しく行えません。
- レンズの保護のため、カメラのレンズを片手で固定しながら着脱してください。
- ご使用前にはレンズ面のゴミをブロワーブラシなどで完全に取り除いてください。ゴミにピントが合ってしまいます。
- レンズには指紋がつきやすいのでご注意ください。
- 取り付けたレンズアダプターはカメラ本体にロックされています。ワイドコンバーター/テレコンバーター/クローズアップレンズをレンズアダプターから取り外すときは、レンズアダプターを手でしっかり押さえながら行ってください。しっかり押さえないと、レンズアダプターが破損することがあります。

コンバーターを設定する

ワイドコンバーター WC-DC58A、テレコンバーター TC-DC58Bを取り付けたときは、カメラにコンバーター設定します（クローズアップレンズ 500Dは設定不要です）。

1 [（撮影）]メニューから[コンバータ]を選ぶ

2 ◀▶ で取りつけたコンバーターを選ぶ

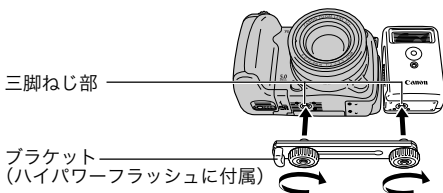
3 MENUボタンを押す

[手ぶれ補正]が[切]以外のとき、液晶モニター（またはビューファインダー）の手ぶれ補正アイコン表示位置に手順 2 で選んだレンズのアイコンが表示されます。

コンバーターをカメラから取り外したときは、コンバーターを[なし]の設定に戻してください。

補助ストロボ(別売)の使いかた

ハイパワーフラッシュ HF-DC1

被写体が遠すぎて内蔵ストロボが届かないときに使用する外付け用補助ストロボです。次のようにカメラとハイパワーフラッシュをブラケットで固定して撮影してください。
ハイパワーフラッシュに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

- 撮影モードが**M**のとき、ハイパワーフラッシュは発光しません。
- 電池が消耗するとハイパワーフラッシュの充電時間が長くなりますので、ご使用後はハイパワーフラッシュの電源/発光モードスイッチを必ずお切りください。
- 撮影中は、発光部や受光部を指でふさがないようにご注意ください。
- 日中の野外では、ハイパワーフラッシュがこのカメラの内蔵ストロボ光を感知できずに発光しないことがあります。
- 撮影場所の周囲で他のカメラがストロボを使用していると、ハイパワーフラッシュが発光することがあります。
- 反射物がないときはハイパワーフラッシュが発光しないことがあります。
- 連続して撮影するときは、1画像目の撮影時は発光しますが、2画像目以降は発光しません。
- 電池の使用可能時間が著しく短いときは、電池の電極を乾いた布なのでよく拭いてからお使いください。電極が皮脂などで汚れていることがあります。
- 寒冷地(0℃以下)でお使いになるときは、予備として市販のリチウム電池(CR123AまたはDL123)を用意して、使用直前までポケットなどに入れて温めてから交互にお使いになることをおすすめします。

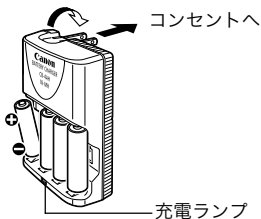
次ページに続く>>

- 電池をハイパワーフラッシュに入れたままにしておくと、液漏れが原因で故障することがあります。お使いにならないときは、ハイパワーフラッシュから取り出して乾燥した冷暗所に保管してください。
- ブラケットの取り付けねじは、しっかり締め付けてください。カメラとハイパワーフラッシュが落下して故障の原因となります。

- ◆ ハイパワーフラッシュをブラケットに固定する前に、リチウム電池(CR123AまたはDL123)が入れてあるか確認してください。
- ◆ 被写体に正しくストロボが当たるように、カメラとハイパワーフラッシュの前面は平行に、側面はぴったり合うように固定してください。
- ◆ ハイパワーフラッシュを取り付けた状態でも三脚はお使いになれます。

電源キット（別売）を使う

充電式バッテリーを使う(バッテリー/チャージャーキット CBK4-200)

バッテリーチャージャーと単3形ニッケル水素電池4本が入っています。次のように電池を充電してください。

- 充電中は充電ランプが点滅します。充電が終わると点灯に変わります。
- このバッテリーチャージャーでは、キヤノン製の単3形ニッケル水素電池 NB-2AH以外の電池を充電しないでください。また、NB-2AHを他の充電器で充電しないでください。
- 新しい電池と、他のカメラなどで使用した電池を混ぜて使わないでください。
- 電池を充電するときは、必ず、一緒に使用している4本を同時に充電してください。
- 充電状態の異なる電池、購入時期の異なる電池を混ぜて使わないでください。
- 電池を保護し、性能の劣化を防ぐため、フル充電された電池を再度充電しないでください。また、24時間以上連続して充電しないでください。
- 熱のこもりやすい場所では充電しないでください。
- 容量を使い切らずに充電を繰り返すと、容量が低下することがあります。液晶モニター(またはビューファインダー)に「バッテリーを交換してください」というメッセージが表示されるまで使い切ったあと、充電してください。
- 以下のときは、電池の電極を乾いた布などでよく拭いてからお使いください。電極が皮脂などで汚れていることがあります。
  - 電池の使用可能時間が著しく短いとき
  - 記録画像数が著しく少ないとき
  - 電池を充電するとき(さらに、電池の取り付けと取り外しを2〜3回繰り返してから充電してください。)
  - 電池の充電時間が数分程度で終了する(バッテリーチャージャーの充電ランプが点灯する)とき
- 電池の特性により、お買い求め直後や長期間お使いにならなかった電池は、十分に充電されないことがあります。このときは、フル充電して電池を使い切ることを数回繰り返してください。電池の性能が元に戻ります。

次ページに続く >>

- フル充電の状態で長期間(1年くらい)保管すると、電池の寿命を縮めたり、性能の劣化の原因となることがありますので、カメラでバッテリーを使い切ってから常温(23℃以下)の涼しいところで保管することをおすすめします。また長期間使用しないときは、1年に1回程度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。
- 電極を拭いてからチャージランプが点灯するまで充電したにもかかわらず、電池の使用可能時間が著しく短いときは、電池の寿命と考えられます。新しい電池と交換してください。新しくお求めになるときは、キヤノン製の単3形ニッケル水素電池 NB4-200(NB-2AH4本セット)をご購入ください。
- 電池をカメラやバッテリーチャージャーに入れたままにしておくと、液漏れが原因で故障することがあります。お使いにならないときは、カメラやバッテリーチャージャーから取り出して乾燥した冷暗所に保管してください。

- 完全に放電された状態からフル充電になるまでの時間は、約250分です(当社測定基準による)。0〜35℃の範囲で充電してください。
- 充電時間は、周囲の温度や充電状態により異なります。
- バッテリーチャージャーを使用中、音がすることがありますが、故障ではありません。
- バッテリー/チャージャーキット CBK100もお使いになれます。バッテリー/チャージャーキット CBK100では、キヤノン製の単3形ニッケル水素電池 NB-1AHを充電してください。

- この製品には、充電式のニッケル水素電池を使用しています。
- ニッケル水素電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- 充電式のニッケル水素電池の回収、リサイクルについては、下記の「キヤノン / キヤノン販売」のホームページで確認できます。
- 交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収 BOX に入れてください。
- リサイクル協力店へのお問い合わせは、以下へお願いします。

  - 製品、ニッケル水素電池をご購入いただいた販売店
  - 「有限責任中間法人 JBRC」および「キヤノン / キヤノン販売」

  有限責任中間法人 JBRC ホームページ
  http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
  キヤノン / キヤノン販売ホームページ
  http://cweb.canon.jp/ecology/recycle5.html

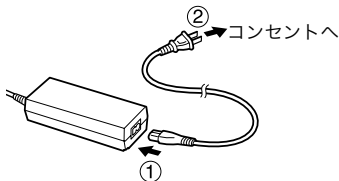
リサイクル時のご注意

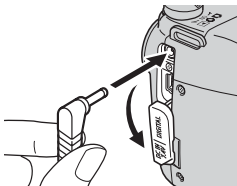
電池を分解しないでください。

コンパクトパワーアダプター(別売)

カメラを連続して長時間お使いになるときや、パソコンやプリンターと接続するときは、コンパクトパワーアダプター CA-PS700(別売)の利用をおすすめします。

1 コンパクトパワーアダプターに電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む

電源コードは奥までしっかり差し込んでください。

2 カメラの端子カバーを開き、コンパクトパワーアダプターのDCプラグをDC IN端子に接続する

使用後はコンパクトパワーアダプターを取り外してください。

- コンパクトパワーアダプターの取り付けや取り外しは、必ずカメラの電源を切って(p. 23)から行ってください。
- カメラにコンパクトパワーアダプター CA-PS700以外をお使いになると、カメラの故障の原因となることがあります。
- コンパクトパワーアダプター CA-PS700を他の機器に使用しないでください。発煙発火やコンパクトパワーアダプターの故障の原因となることがあります。

海外で使うとき（p. 175）

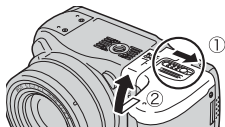
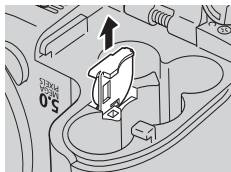
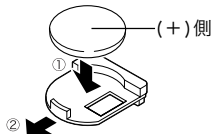
コイン型リチウム電池の交換

カメラの電源を入れたとき、日付 / 時刻の設定メニューが表示された場合は、コイン型のリチウム電池の残量が低下し、日付の設定が消えています。市販されているコイン型のリチウム電池(CR1220)をお求めのうえ、次の手順で交換してください。

最初の電池は工場出荷時に組み込まれていますので、ご購入後の電池の寿命は短い場合があります。

⚠ 警告

コイン型のリチウム電池は、お子様の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が侵される恐れがありますので、直ちに医師に相談してください。

1 電源を切り、バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせて開く

2 単3形の電池を取り出し、電池ホルダーの側面に爪をかけて引き出す

3 古い電池を取り外し、新しい電池の(+)側を上にして電池ホルダーに取り付ける

4 電池ホルダーと単3形の電池を元に戻し、バッテリーカバーを閉じる

10

付録

カメラのお手入れ

カメラ本体やレンズ、ビューファインダー、液晶モニターなどが汚れたときは、次の方法でクリーニングしてください。

絶対にシンナーやベンジン、中性洗剤や水などを使ってクリーニングしないでください。部品の変形や故障の原因となることがあります。

カメラ本体	：やわらかい布やメガネ拭きなどで汚れを拭き取ってください。
レンズ	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払った後、やわらかい布で軽く拭き取ってください。

カメラ本体やレンズは、絶対に有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。どうしても汚れが落ちないときは、最寄りのキヤノンサービスセンター（別紙の「修理サービスご相談窓口」をご参照ください）にご相談ください。

ビューファインダー、液晶モニター	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。

絶対に液晶モニターの表面を強くこすったり押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因となります。

海外で使うとき

このデジタルカメラは、海外でもお使いになれますが、次のことにご注意ください。

テレビでの再生

ビデオ出力方式は、初期設定では日本国内で採用しているNTSC方式に設定されていますが、海外の別方式（PAL方式：主にヨーロッパ、オセアニア、アジア（一部地域を除く））に切り換えることができます。海外に旅行したときなどは、切り換えてお使いください（p. 80）。

電源について

コンパクトパワーアダプターやバッテリーチャージャーは、AC100～240V 50/60Hzまでの電源に接続できます。ただし、電源コンセントの形状が異なる国では、変換プラグアダプターが必要になります（1つの国の中でも地域によってコンセントの形状が異なる場合があります）。変換アダプターについては、旅行代理店などで確認の上、あらかじめご用意ください。

海外の電源コンセントの種類

タイプ	A	B	BF	C	S
コンセントの形状					
変換プラグ	不要です				

主な国名と使用するプラグの種類

●北米	
アメリカ合衆国	A
カナダ	A
●ヨーロッパ	
アイスランド	C
アイルランド	C
イギリス	B. BF
イタリア	C
オーストリア	C
オランダ	C
ギリシャ	C
スイス	C
スウェーデン	C
スペイン	A. C
デンマーク	C
ドイツ	C
ノルウェー	C
ハンガリー	C
フィンランド	C
フランス	C
ベルギー	C
ポーランド	B. C
ポルトガル	B. C
ルーマニア	C

●アジア	
インド	B. C. BF
インドネシア	C
シンガポール	B. BF
スリランカ	B. C. BF
タイ	A. BF. C
大韓民国	A. C
中華人民共和国	A. B. BF. C. S
ネパール	C
パキスタン	B. C
バングラデシュ	C
フィリピン	A. BF. S
ベトナム	A. C
香港特別行政区	B. BF
マカオ特別行政区	B. C
マレーシア	B. BF. C
●オセアニア	
オーストラリア	S
グアム	A
タヒチ	C
トンガ	S
ニュージーランド	S
フィジー	S

●中南米	
アルゼンチン	BF. C. S
コロンビア	A
ジャマイカ	A
チリ	B. C
ハイチ	A
パナマ	A
バハマ	A
プエルトリコ	A
ブラジル	A. C
ベネズエラ	A
ペルー	A. C
メキシコ	A
●中近東	
イスラエル	C
イラン	C
クウェート	B. C
ヨルダン	B. BF
●アフリカ	
アルジェリア	A. B.BF. C
エジプト	B. BF. C
カナリア諸島	C
ギニア	C
ケニア	B. C
ザンビア	B. BF
タンザニア	B. BF
南アフリカ共和国	B. C. BF
モザンビーク	C
モロッコ	C

- コンパクトパワーアダプターやバッテリーチャージャーを海外旅行用の電子変圧器などに接続すると、故障のおそれがありますので使用しないでください。
- このカメラの保証書は、国内に限り有効です。万一、海外旅行先で故障、不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の「お客様相談センター」にご相談ください。

主な仕様

すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により、記載内容を予告なしに変更することがあります。

PowerShot S2 IS

カメラ部有効画素数	： 約500万画素
撮像素子	： 1/2.5型 CCD（総画素数 約530万画素）
レンズ	： 6.0（W）- 72.0（T）mm (35mm フィルム換算36 - 432mm) F2.7（W）- F3.5（T）
デジタルズーム	： 最大約4.0倍（光学ズームと合わせて最大約48倍のデジタルズームが可能）
ビューファインダー	： カラー液晶ファインダー、視野率100% 視度調整機能－5.5～＋1.5m^{-1}（ディオプトリ担当）
液晶モニター	： 1.8型低温ポリシリコン（バリアングルタイプ） TFT液晶カラーモニター、約11.5万画素、視野率100%
AF方式	： TTLオートフォーカス（コンティニアス/シングル） AFロックおよびマニュアルフォーカス可能 測距枠：1点（位置は任意設定可能）
撮影距離 （レンズ先端より）	： 通常撮影：50cm～∞（W）/90cm～∞（T） マクロ撮影：10～50cm（W） スーパーマクロ撮影時：0～10cm（Wのみ）
シャッター	： メカニカルシャッター＋電子シャッター
シャッタースピード	： 15～1/3200秒 ● 撮影モードによって異なる ● 1.3秒以上はシャッタースピード優先モードまたはマニュアルモード撮影時 ● 15～1.3秒のスローシャッター時はノイズリダクション処理あり
測光方式	： 評価測光 / 中央部重点平均測光 / スポット測光（中央固定AE / AF枠連動）
露出制御方式	： プログラムAE / シャッタースピード優先AE / 絞り優先AE / マニュアル露出　AEロック可能
露出補正	： ±2段（1/3段ステップ）、AEB撮影可能、セーフティシフト可能
ISO感度	： オート*、ISO 50 / 100 / 200 / 400相当 *オート設定時は、カメラが最適値に自動設定
ホワイトバランス	： TTLオート / プリセット（太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯H / ストロボ） / マニュアル

（W）：ワイド端 （T）：テレ端

10 付録

内蔵ストロボ	:	オート*/ 常時発光*/ 発光禁止 *赤目緩和設定可能
内蔵ストロボ撮影範囲	:	0.7～5.2m(W)/ 0.7～4.0m(T)(ISO感度オート時) マクロ撮影時:0.3～0.7m(W)(ISO設定感度オート)
ストロボ調光補正	:	±2段(1/3段ステップ)、FEロック/ スローシンクロ / 先幕、後幕シンクロ可能
ストロボ発光量*	:	3段階 *ストロボ調光設定［切］時に設定可
撮影モード	:	オート クリエイティブゾーン:プログラム / シャッタースピード優先 / 絞り優先/マニュアル/カスタム イメージゾーン:ポートレート / 風景 / 夜景/ スペシャルシーン*/ マイカラー /スティッチアシスト / 動画 *新緑/紅葉、スノー、ビーチ、打上げ花火、パーティ /室内、ナイトスナップ
連続撮影	:	約1.5画像/秒(ラージ/ファインモードのとき) 約 2.4 画像 / 秒(高速連続撮影、ラージ / ファインモードのとき)
インターバル撮影	:	撮影間隔:約1～60分(1分単位) 撮影枚数:2 ～ 100 画像(最大画像数は、メモリーカードの容量による)
セルフタイマー	:	約10秒後 / 約2秒後 / カスタムセルフ
パソコン接続撮影	:	USB接続時、付属のソフトウェアで撮影可能
記録媒体	:	SDメモリーカード
ファイルフォーマット	:	DCF準拠*1、DPOF対応
データタイプ	:	静止画:Exif 2.2(JPEG)*2 動画:AVI(画像データ:Motion JPEG 音声データ:WAVE(ステレオ))
圧縮率	:	スーパーファイン / ファイン / ノーマル
記録画素数(静止画)	:	ラージ:2592 × 1944画素 ミドル1:2048 × 1536画素 ミドル2:1600 × 1200画素 スモール:640 × 480画素
記録画素数 / フレームレート(動画)	:	640 × 480画素、30フレーム/秒 640 × 480画素、15フレーム/秒 320 × 240画素、30フレーム/秒 320 × 240画素、15フレーム/秒 メモリーカードの容量がいっぱいになるまで撮影可能 (1回の最長撮影容量:1GB)

(W):ワイド端 (T):テレ端

音声	:	サンプリング周波数:44.100/22.050/11.025 kHz 量子化ビット:16ビット
再生モード	:	シングル再生(ヒストグラム表示可能) / インデックス再生(サムネイル9画像) 拡大再生(液晶モニター / ビューファインダー上で約10倍に拡大可能、拡大した状態で画像送りが可能)/ジャンプ(10枚ごと、100枚ごと、各撮影日の先頭画像、動画にジャンプが可能。インデックス再生時は、9画像ごとに再生) スライドショー 音声メモ(最長60秒まで記録/再生が可能) 動画再生(スロー再生可能) サウンドレコーダー(最長 2 時間まで音声だけの記録/再生が可能)
ダイレクトプリント	:	PictBridge / CPダイレクト / Bubble Jet ダイレクトに対応
表示言語	:	日本語 / 英語 / ドイツ語 / フランス語 / オランダ語 / デンマーク語 / フィンランド語 / イタリア語 / ノルウェー語 / スウェーデン語 / スペイン語 / 中国語(簡体字) / ロシア語 / ポルトガル語 / ギリシャ語 / ポーランド語 / チェコ語 / ハンガリー語 / トルコ語 / 中国語(繁体字) / 韓国語
マイカメラ(カスタマイズ)機能	:	起動画面 / 起動音 / 操作音 / セルフタイマー音 / シャッター音が、以下の方法で設定可能 1.このカメラで記録 2.付属のソフトウェアやオンラインフォトサービス「CANON iMAGE GATEWAY」からダウンロード
CANON iMAGE GATEWAY対応機能	:	付属のソフトウェアを使って、CANON iMAGE GATEWAY の会員登録、画像のアップロード、オンラインアルバムサービス、携帯電話アルバム通知・閲覧サービス、カメラへのマイカメラコンテンツのダウンロード、オンラインプリントサービス、オリジナル写真集作成サービス、ホームプリンティングサービスなどが利用可能
インターフェース	:	USB 2.0 Hi-Speed(mini-B)、PTP [Picture Transfer Protocol] 映像/音声出力端子(NTSC または PAL 切換可能、ステレオ音声)
電源	:	1.単3形アルカリ電池(付属) 2.ニッケル水素電池(NB4-200)(別売) 3.コンパクトパワーアダプター (CA-PS700) (別売)
動作温度	:	0～40℃
湿度	:	10～90%

10

付録

大きさ	： 113.0 × 78.0 × 75.5 mm（突起部を除く）
質量	： 約405 g（本体のみ）

＊1 DCFは（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で主として、DSC等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。
＊2 このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

電池性能について

	撮影画像数		再生時間
	液晶モニター表示時（CIPA 測定法準拠）	ビューファインダー表示時	
単 3 形アルカリ電池（付属品）	約 130 画像	約 130 画像	約 800 分
単 3 形ニッケル水素電池（NB4-200）（フル充電）	約 550 画像	約 570 画像	約 900 分

- 撮影画像数は、撮影状況、撮影モードなどにより異なります。
- 動画データは除きます。
- 使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下したり、バッテリーアイコンが早めに表示されることがあります。このような場合は、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。

＜測定条件＞

撮影： 常温（23 ± 2℃）・常湿（50 ± 20%）で、2回に 1 回ストロボを発光させながら、30秒間隔でワイド端とテレ端で交互に撮影し、10画像撮影後に電源切。十分な時間＊が経過したあと、再び電源を入れて同様の方法で撮影を繰り返す。
●付属のメモリーカードを使用
＊電池の温度が常温に戻るまでの時間

再生： 常温（23 ± 2℃）・常湿（50 ± 20%）の環境において、1画像あたり3秒間隔で連続再生。

 電池の取り扱いについて（p. 16）

メモリーカードの種類と記録可能画像数の目安

■静止画

□:付属のカード

		SDC-16M	SDC-128M	SDC-512MSH
L 2592 × 1944 画素	S	5	49	190
	F	9	87	339
	N	19	173	671
M1 2048 × 1536 画素	S	8	76	295
	F	15	136	529
	N	30	269 *	1041
M2 1600 × 1200 画素	S	13	121	471
	F	24	217	839
	N	46	411	1590
S 640 × 480 画素	S	52	460	1777
	F	80	711	2747
	N	127	1118	4317

欄はスムーズ連写できます。(p. 62)
*物理フォーマットをしたときのみスムーズ連写できます。

■動画

□:付属のカード

			SDC-16M	SDC-128M	SDC-512MSH
640 × 480 画素	30 フレーム / 秒	640 L30	6 秒	1 分 02 秒	3 分 57 秒
640 × 480 画素	15 フレーム / 秒	640 L15	13 秒	2 分 01 秒	7 分 30 秒
320 × 240 画素	30 フレーム / 秒	320 L30	19 秒	2 分 53 秒	10 分 29 秒
320 × 240 画素	15 フレーム / 秒	320 L15	35 秒	5 分 12 秒	17 分 58 秒

- この数値は当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、撮影モードなどにより変わります。
- **L**、**M1**、**M2**、**S** は記録画素数を表します。
- S(スーパーファイン)、F(ファイン)、N(ノーマル)は圧縮率を表します。

1画像の容量(目安)

■静止画

記録画素数		圧縮率		
		S		
L	2592 × 1944 画素	2503KB	1395KB	695KB
M1	2048 × 1536 画素	1602KB	893KB	445KB
M2	1600 × 1200 画素	1002KB	558KB	278KB
S	640 × 480 画素	249KB	150KB	84KB

■動画

記録画素数	フレームレート	
	30 フレーム / 秒	15 フレーム / 秒
640 × 480 画素	1980KB/ 秒	990KB/ 秒
320 × 240 画素	660KB/ 秒	330KB/ 秒

SDメモリーカード

インターフェース	:SD メモリーカード規格準拠インターフェース
大きさ	:32.0 × 24.0 × 2.1mm
質量	:約 2g

コンパクトパワーアダプター CA-PS700(別売)

定格入力	:AC100 ～ 240V(50 / 60 Hz) 30VA(100V)～ 40VA(240V)
定格出力	:DC 7.4V / 2.0A
使用温度	:0 ～ 40 ℃
大きさ	:112 × 29 × 45mm(本体のみ)
質量	:約 185g

バッテリーチャージャー CB-4AH

（別売のバッテリー/チャージャーキットCBK4-200に付属）

定格入力	:AC100 ～ 240V（50 / 60Hz） 16VA ～ 21VA
定格出力	:565mA ＊1、1275mA ＊2
充電時間	:約 250 分＊1、約 110 分＊2
使用温度	:0 ～ 35 ℃
大きさ	:65.0 × 105.0 × 27.5mm
質量	:約 95g

＊1 ニッケル水素電池NB-2AH　4本充電時
＊2 ニッケル水素電池NB-2AH 2本をバッテリーチャージャーの両端にセットしたとき

ワイドコンバーター WC-DC58A（別売）

倍率	:約 0.75 倍
焦点距離	:27mm（35mm フィルム換算）
レンズ構成	:3 群 3 枚
撮影範囲 （レンズ先端より）	:28cm ～∞
ねじ径	:58mm 標準フィルターネジ （PowerShot S2 IS に装着時は、コンバージョンレンズアダプターLA-DC58E が必要）
大きさ	:直径 79.0mm　長さ 39.3mm
質量	:約 170g

テレコンバーター TC-DC58B（別売）

倍率	:約 1.5 倍
焦点距離	:648mm（35mm フィルム換算）
レンズ構成	:3 群 5 枚
撮影範囲 （レンズ先端より）	:1.9m ～∞

ねじ径	:58mm 標準フィルターネジ（PowerShot S2 IS に装着時は、コンバージョンレンズアダプターLA-DC58E が必要）
大きさ	:直径 72.0mm　長さ 64.8mm
質量	:約 170g

ニッケル水素電池 NB-2AH

（別売のニッケル水素電池 NB4-200またはバッテリー/チャージャーキット CBK4-200に付属）

形式	:単 3 形充電式ニッケル水素電池
公称電圧	:DC1.2V
公称容量	:2300mAh（最小:2150mAh）
充放電回数	:約 300 回（目安）
動作温度	:0 ～ 35 ℃
大きさ	:直径 14.5mm　長さ 50mm
質量	:約 29g

コンバージョンレンズアダプター LA-DC58E

（別売のレンズアダプター/フードセット LAH-DC20に付属）

ねじ径	:58mm 標準フィルターネジ
大きさ	:直径 63.0mm　長さ 43.1mm
質量	:約 19g

レンズフード LH-DC40

（別売のレンズアダプター/フードセット LAH-DC20に付属）

ねじ径	:58mm 標準フィルターネジ
大きさ	:直径 79.0mm　長さ 31.5mm
質量（本体のみ）	:約 19g

ワンポイントアドバイス

流し撮りの方法(p. 35)

速く移動する被写体を撮影するときは、被写体が遠くにいるときからカメラで捕らえ、動きに合わせてカメラを振りながらシャッターボタンを押すと、うまく画面に収めることができます。

●カメラだけを動かさず、足を広げて立ち、脇を閉めて腰を動かしながら上半身で被写体を捕らえてください。
●シャッターボタンを押す瞬間も、被写体の動きに合わせて、カメラを振ってください。
●また、以下の方法もおすすめします。
●ビデオ用三脚を使い、1方向に動かすようにカメラをセットする。
●被写体が通る、撮影したいポイントにあらかじめピントを固定する（フォーカスロックで撮る）(p. 110)
●遅いシャッタースピードで撮影して、背景に流動感をもたせる。
●連写モードで撮影して、良い画像を残す。

マクロ機能の一歩進んだ使いかた(p. 56)

マクロ機能は、レンズのズーム機能と合わせて使うと、より特徴のある画面作りが可能になります。例えば花を撮るとき、ズームを広角側にすると花の背景までピントのあった画像が撮影できますし、望遠側にすると花の背景を効果的にぼかすことができます。

広角側でマクロ撮影

望遠側でマクロ撮影

セルフタイマーの活用法(p. 59)

シャッターボタンを押した瞬間に、カメラが動いてしまう可能性があります。このときセルフタイマーをに設定すると、2秒後に撮影されるのでカメラのブレを防ぐことができます。
また、カメラを固定した台の上に置いたり、三脚を使用すると、よりきれいな画像を撮影できます。

露出補正のしかた(p. 90)

このカメラは、適切な明るさで撮影できるよう、自動で露出を補正しています。しかし、撮影状況によっては、実際よりも明るく写ったり、暗く写ってしまうことがあります。このようなときは、手動で露出を補正してください。

●露出不足（アンダー）

全体が黒っぽく写ります。そのため、白いものはグレーのように写ります。白っぽい被写体や逆光で撮影すると、露出アンダーになることがあります。＋側に補正してください。

●適切な露出

●露光過多（オーバー）

全体が白っぽく写ります。そのため、黒いものはグレーのように写ります。黒っぽい被写体や暗い場所で撮影すると、露出オーバーになることがあります。ー側に補正してください。

ISO感度(p. 93)

ISO感度とは、光を感じる能力を数値化したものです。数値が高いほど感度が高くなります。ISO感度が高いと、暗い室内や屋外でストロボを使わずに撮影でき、また手ぶれしにくくなります。例えば、ストロボ撮影禁止の場所で撮影するときに便利です。その場の光を生かした雰囲気のある仕上がりになります。

ISO50相当

ISO400相当

索引

記号 / アルファベット

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

補修用性能部品について
保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

①本書の内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
②本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
③本書の内容については万全を期していますが、万一不審な点や誤り、記載もれなど、お気付きの点がありましたら、キヤノンお客様相談窓口までご連絡ください。連絡先は、本書巻末に記載してあります。
④このカメラを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

- DCFは、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File system」の規格を表す団体商標です。
- MacintoshおよびMac OS、QuickTimeは、米国および他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- Microsoft®、Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における登録商標です。本書では、Microsoft® Windows® 98、Microsoft® Windows® 2000、Microsoft® Windows® Millennium Edition、Microsoft® Windows® XPを、それぞれWindows 98、Windows 2000、Windows Me、Windows XP、またはWindowsと略して記載しています。
- SDロゴは商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

各撮影モードで設定できる機能一覧

各撮影モードで設定できる機能は、以下のとおりです。
C のときは、登録時に設定した内容で撮影ができます。(p. 113)

			AUTO				SCN				P	Tv	Av	M
記録画素数(静止画) p. 38	ラージ	L	○*	○*	○*	○*	○*	○*	△*	○*	○*	○*	○*	○*
	ミドル 1	M1	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
	ミドル 2	M2	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
	スモール	S	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
圧縮率 p. 38	スーパーファイン		○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
	ファイン		○*	○*	○*	○*	○*	○*	△*	○*	○*	○*	○*	○*
	ノーマル		○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
記録画素数(動画) p. 38	640 × 480 画素 30 フレーム / 秒		○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*
	640 × 480 画素 15 フレーム / 秒		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	320 × 240 画素 30 フレーム / 秒		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	320 × 240画素 15フレーム/秒		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ストロボ p. 40	オート		○*	○*	○	○*	○*(1)	○*	–	–	○*	–	–	–
	常時発光		–	○	○	○	○(1)	○	△	–	○	○	○	○
	発光禁止(2)		○	○	○*	○	○	○*	△*	–	○	○*	○*	○*
赤目緩和 p. 40			○	○	○	○	○(1)	○	△	–	○	○	○	○
スローシンクロ p. 41		入	–	–	○	○	○(3)	○	△	–	○	–	○	–
		切	○	○	–	–	○	○	△*	–	○*	○	○*	○
ストロボ自動調光 p. 106		入	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○*	○*	–
		切	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○
ストロボ発光 p. 107	先幕		○	○	○	○	○	○*	△	–	○*	○*	○*	○*
	後幕		–	–	–	–	–	○	–	–	○	○	○	○
ドライブモード p. 62	シングル撮影		○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*
	通常連続撮影 p. 62		–	○	○	○	○	–	–	–	○	○	○	○
	高速連続撮影		–	○	○	○	○	–	–	–	○	○	○	○
	10 秒セルフタイマー p. 59		○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*
	2 秒セルフタイマー		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	カスタムセルフ		○	○	○	○	○	–	–	–	○	○	○	○
インターバル撮影 p. 108			–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○
AF 枠の選択 p. 88	中央一点		○	○	○	○	○	○	○	○	○*	○*	○*	○*
	マニュアル選択		–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○
AF ロック p. 111			–	○	○	○	○(1)	○	○	○	○	○	○	○
マニュアルフォーカス p. 112		MF	–	○	○	○	○(1)	○	○	○	○	○	○	○
MF 拡大表示 p. 112			–	○	○	○	○(1)	○	–	–	○	○	○	○

			AUTO				SCN				P	Tv	Av	M
AF 補助光 p. 35			○	○	○	○	○(1)	○	△	○	○	○	○	○
マクロ p. 56, 58	マクロ		○	○	−	○	○(1)	○	○	−	○	○	○	○
	スーパーマクロ		−	−	−	−	−	○	−	○	○	○	○	○
デジタルズーム p. 61		入	○	○	○	○	○	−	−	○*	○	○	○	○
		切	○*	○*	○*	○*	○*	○	△	○	○*	○*	○*	○*
セーフティシフト p. 87			−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	○	−
露出補正 p. 90			−	○	○	○	○	○	△	○(4)	○	○	○	−
測光方式 p. 89	評価測光		○	○	○	○	○	○*	△	○	○*	○*	○*	○*
	中央部重点平均測光		−	−	−	−	−	○	−	−	○	○	○	○
	スポット測光		−	−	−	−	−	○	−	−	○	○	○	○
	中央固定		−	−	−	−	−	○	−	−	○*	○*	○*	○*
	AF 枠連動		−	−	−	−	−	−	−	−	○	○	○	○
AE ロック / FE ロック撮影 p. 103, 105			−	−	−	−	−	○	−	○(5)	○	○	○	−
ブラケット撮影	AEB p. 101		−	−	−	−	−	−	−	−	○	○	○	−
	フォーカスブラケット p. 102		−	−	−	−	−	−	−	−	○(6)	○(6)	○(6)	○(6)
ホワイトバランス(7) p. 91		WB	−(8)	○	○	○	−	○	△	○(9)	○	○	○	○
色効果 p. 94			−	○	○	○	−	−	△	○	○	○	○	○
	コントラスト / シャープネス / 色の濃さ		−	−	−	−	−	−	−	−	○	○	○	○
フォーカス設定 p. 113	CONT		○*	○*	○*	○*	○*	○*	△*	○	○*	○*	○*	○*
	SINGLE		○	○	○	○	○	○	△	−	○	○	○	○
ISO 感度 p. 93			−(10)	−(10)	−(10)	−(10)	−(10)	−(10)	−(10)	−(10)	○	○	○	○(11)
オリジナル保存 p. 97			−	−	−	−	−	○	−	−	−	−	−	−
鏡像表示 p. 77			○	○	○	○	○	○	−	○	○	○	○	○
縦横自動回転 p. 125		入	○*	○*	○*	○*	○*	○*	△*	−	○*	○*	○*	○*
		切	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○

*初期設定　○：設定可　△：最初の1画像で設定可　−：設定不可

- ：電源を切っても、解除されません。
- [日付/時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、一度にすべて初期設定に戻すことができます（p. 81）。

(1) 花火モードは設定できません。
(2) ストロボは閉じた状態で非発光設定になります。
(3) ナイトスナップのみ［入］設定になります（[切］設定はできません）。
(4) AEロックした後、露出シフトができます。
(5) AEロックのみ設定できます。
(6) マニュアルフォーカス時のみ設定できます。
(7) 色効果が[セピア]、[白黒]の場合は設定できません。
(8) ホワイトバランスは［オート］に設定されます。
(9) ホワイトバランス［ストロボ］は設定できません。
(10) カメラが自動的に設定します。
(11) ISO［AUTO］は設定できません。